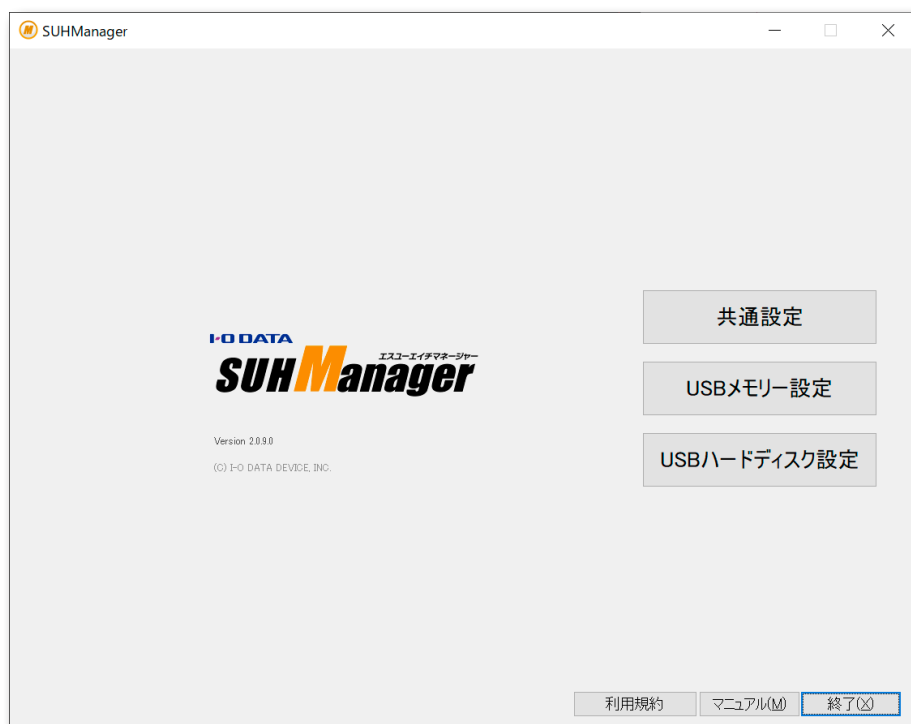


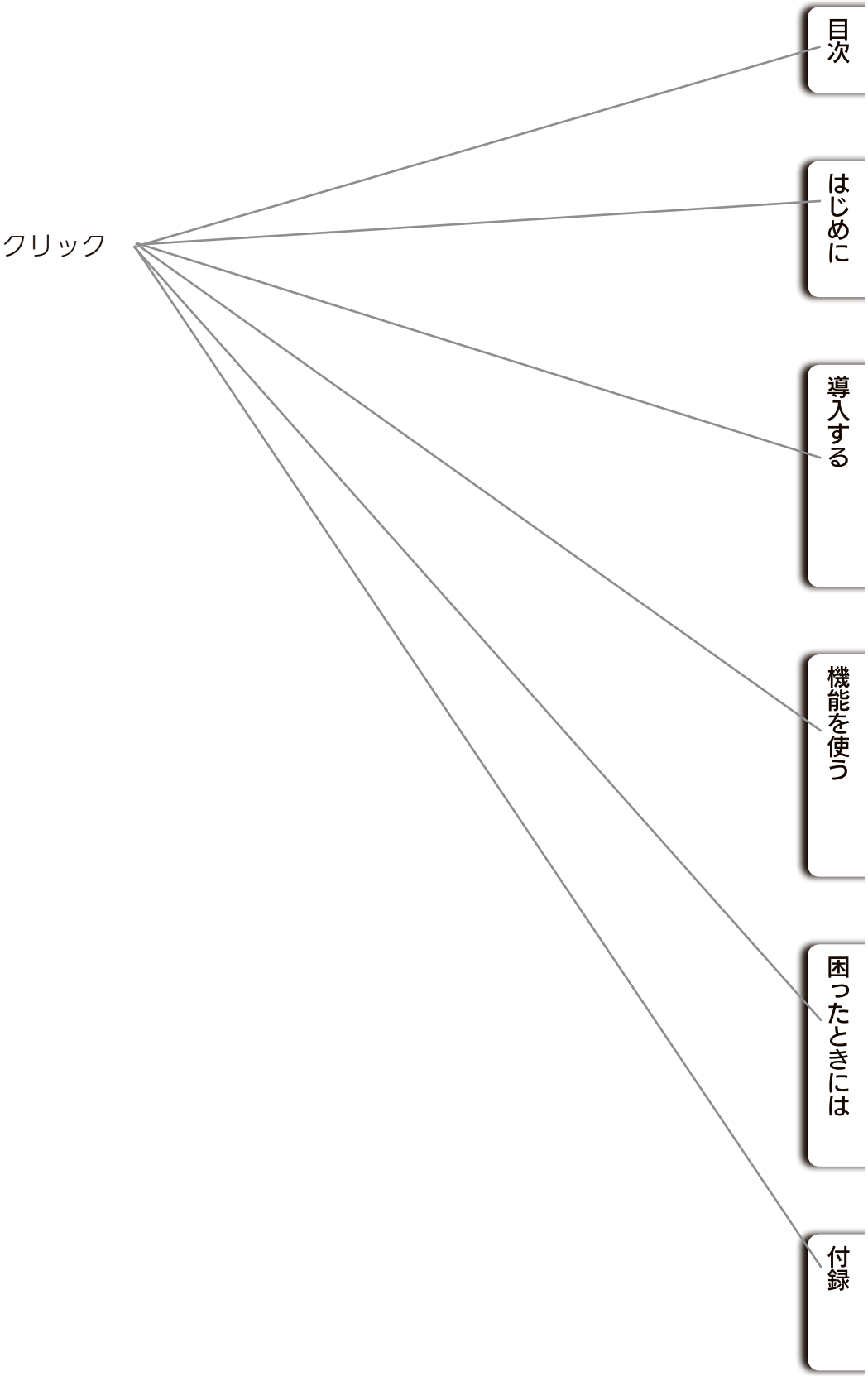
画面で見るマニュアル

セキュリティ USB メモリー /HDD/SSD 管理者用ソフトウェア
SUHManager



見出しの操作

ページの端にある見出しをクリックすると、該当のページに移動できます。



本マニュアルでの表記

ユーザー	対応デバイスを使用する者
管理者	社内のシステム管理者および管理者権限 (Administrator権限) を有する者
デバイス	対応USBメモリー、対応USB HDD/SSDの総称
HDD/SSD	ハードディスクまたはSSD

マークの説明

ヒント 知っておくと便利な情報を記載しています

注意 使う上での注意事項を記載しています

▼ページ上の表示 ※デバイスによっては、対応していない設定があります。

共通 USB メモリーと USB HDD/SSD に共通する内容です。

USB メモリー 対象デバイスが USB メモリー限定の内容です。

USB HDD/SSD 対象デバイスが USB HDD/SSD 限定の内容です。

目次

はじめに	6
SUHManager とは	6
導入する	7
KEY-ID ファイルを生成する	8
インストールする	10
SUHManager を起動する	12
ポリシーを設定する	14
デバイスを初期化する	29
SUHManager 情報をバックアップする	39
機能を使う	41
機能から探す	41
Menu から探す	42
SUHManager のメイン画面について	44
SUHManager の情報を確認する	47
SUHManager の操作ログを表示する	50
デバイス操作ログを確認する	52
パスワードを変更する	55
パスワードの連続ミス回数をリセットする	57
パスワードを修復する	59
書き込み禁止にする	61
初期化したデバイスの情報を確認する	63
初期化したデバイスの情報をリスト出力する	65

PC 識別する	66
パスワードロック解除承認コードを発行する	84
パスワード修復承認コードを発行する	88
SUReset4 について	92
SHReset について	97
簡易 PC 識別 (CK-SetInfo) について	102
使用期間設定ツールについて	107
廃棄ツールについて	111

困ったときには 119

SUHKeyID でのトラブル ([No.Dxxx])	120
SUHManager でのトラブル ([No.Cxxx])	121
CK-SetInfo でのトラブル ([No.Exxx])	126
SUHGetInfoAG でのトラブル ([No.Fxxxx])	127
SUReset4 でのトラブル ([No.Bxxx])	128
SUGate4 でのトラブル ([No.Axxx])	129
使用期間設定ツールでのトラブル ([No.Mxxx])	132
廃棄ツールでのトラブル ([No.Jxxx])	134

付録 137

パソコンを入れ替える場合 (環境移行する)	137
アンインストールする場合	140
バージョン情報の確認	141
アフターサービス	142

SUHManager とは

対応するセキュリティ USB メモリーおよびセキュリティ USB HDD/SSD のための管理者用ソフトウェアです。以下の項目について管理することができます。

管理項目	USB メモリー	USB HDD/SSD
初回起動時強制パスワード設定	○	○
ヒント表示	○	×
パスワード変更	○	○
パスワード最小文字数	○	○
パスワード文字制限	○	○
パスワード連続ミス可能回数	○	○
ヒントへのパスワード文字列の設定禁止	○	×
連続して同じパスワードの設定禁止	○	×
パスワード有効期限 (日数)	○	○
累積パスワードミス回数の警告	○	○
パスワードミスロック遠隔解除	○	○
マスターコード機能	○	○
遠隔地パスワード修復機能	○	○
使用 OS 制限	○	○
MacOS ログイン許可	○	×
PC 識別	○	○
簡易 PC 識別	○	○
Autorun.inf 自動削除	○	×
ログイン後ファイル自動実行	○	×
ウイルスチェック機能	○ ED-SV4 シリーズのみ	×
LanScope Cat 監視	○	×
データ保存領域のサイズ変更	○	×
データ保存領域の書き込み禁止設定	○	×
デバイス使用期間設定ツールの生成	○	○
廃棄ツールの生成	○	×
リセットツールの生成	○	○
CK-SetInfo の生成	○	○
初期化済みデバイスの情報表示と保存・出力	○	○
デバイス操作ログの表示	○	○
デバイスの初期化	○	○

■ 動作環境

動作環境については、下記弊社Webページでご確認ください

<https://www.iodata.jp/product/usbmemory/security/suhm/spec.htm>



[KEY-ID ファイルを生成する](#)

[8 ページ](#)

[インストールする](#)

[10 ページ](#)

[SUHManager を起動する](#)

[12 ページ](#)

[ポリシーを設定する](#)

[14 ページ](#)

[デバイスを初期化する](#)

[29 ページ](#)

[SUHManager 情報をバックアップする](#)

[39 ページ](#)

KEY-ID ファイルを生成する

SUHManager をインストールする前に、お客様専用の設定ファイル（KEY-ID ファイル）を生成します。

KEY-ID ファイルは、他のお客様が導入した SUHManager でお客様のデバイス进行操作されないようにするための、お客様専用の ID です。

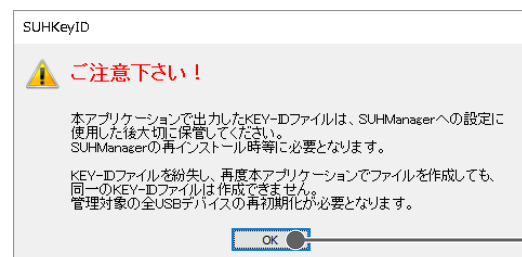
注 意 生成した KEY-ID ファイルは大切に保管してください

KEY-ID ファイルは SUHManager の再インストール時等にも必要となります。
再度、KEY-ID ファイルを生成しても、同一の KEY-ID ファイルは生成できません。
KEY-ID ファイルを紛失した場合、管理対象の全デバイスの初期化が必要となります。
あらかじめご了承ください。

1 SUHManagerのCD-ROMをセットします。

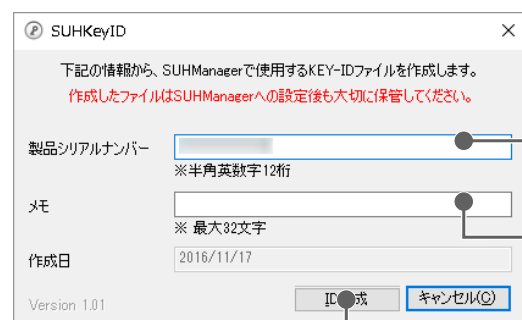
2 [PC] (または[コンピューター]) からCD-ROMを開き、[SUHKeyID]フォルダー内の [SUHKeyID(.exe)] を起動します。

3 表示されたメッセージをよく読みます。



読み終わったらクリック

4 KEY-IDファイルを作成します。

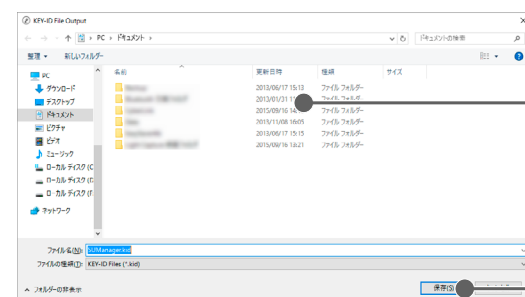


①本製品のシリアルナンバーを入力
※シリアルナンバーは「必ずお読みください」に貼付されています。

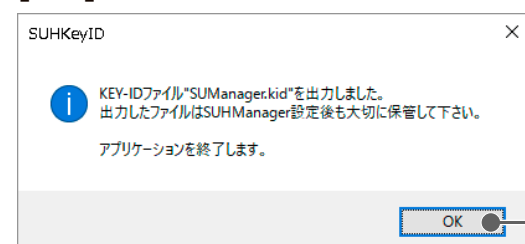
②任意で入力
※入力した内容はSUHManagerの画面に表示されます。

③クリック

5 保存先を選択し、KEY-IDファイルを保存します。



6 [OK]をクリックします。



以上で KEY-ID ファイルの生成は完了です。

[【インストールする】 \(10 ページ\)](#) へお進みください。

インストールする

- 注 意**
- 管理者 (Administrator) 権限を持つアカウントでインストールしてください
 - 最初に KEY-ID の登録をしたアカウントでのみ、SUHManager を利用できます

1 SUHManagerのCD-ROMをセットします。

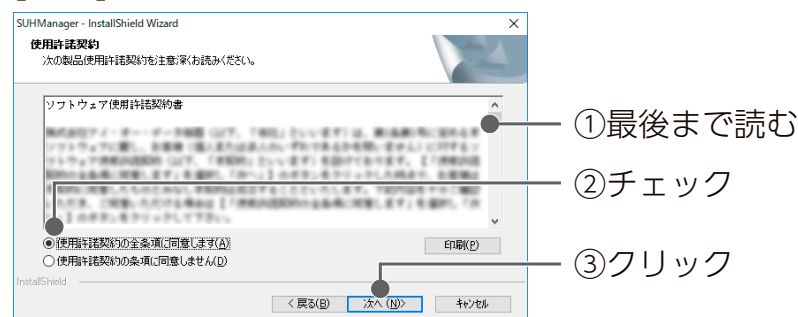
2 [PC] (または[コンピューター]) からCD-ROM開き、[SUHManager]フォルダー内の [Setup (.exe)] を起動します。

ヒント ユーザアカウント制御の画面が表示された場合
[はい] をクリックします。

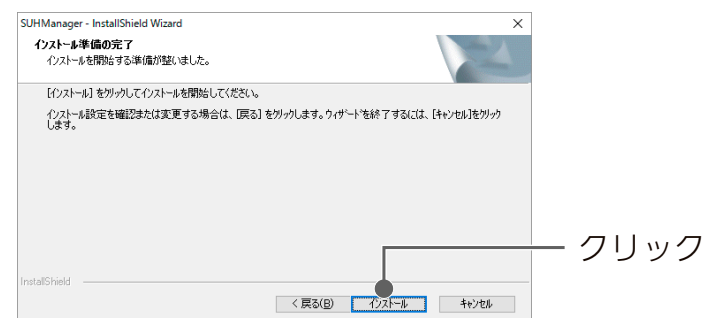
3 [次へ] をクリックします。



4 使用許諾契約に同意する場合は、[使用許諾契約の全条項に同意します]にチェックし、[次へ] をクリックします。



5 [インストール] をクリックします。



6 [完了] をクリックします。



以上でインストールは完了です。

SUHManager を起動する

初回起動時のみ、KEY-ID ファイルの読み込みが必要です。

2 回目以降は必要ありません。

ヒント デバイスを接続しないでください

SUGate4/SHGate または SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

1 すべてのアプリ (プログラム) から[SUHManager]を起動します。

Windows 10: ① [スタート]ボタンー[すべてのアプリ]をクリック
② [I-O DATA]ー[SUHManager]をクリック

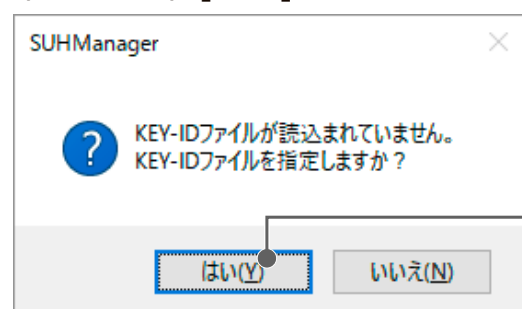
Windows 8: すべてのアプリ画面を表示し、[SUHManager]をクリック

Windows 7: ①[スタート]ボタンー[すべてのプログラム]をクリック
② [I-O DATA]ー[SUHManager]をクリック

ヒント ユーザアカウント制御の画面が表示された場合

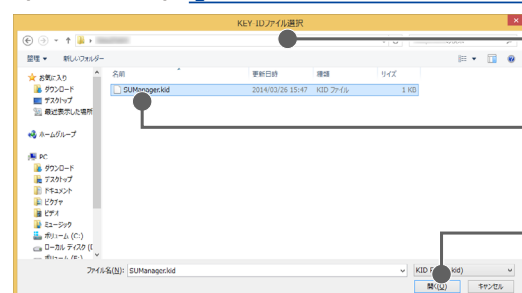
[はい] をクリックします。

2 (初回のみ) [はい]をクリックします。



クリック

3 (初回のみ) 【KEY-IDファイルを生成する】で保存したKEY-IDファイルを選択します。

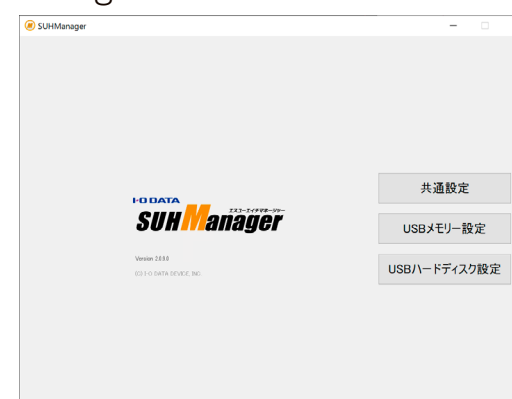


①KEY-IDファイルの保存先を選択

①KEY-IDファイルを選択

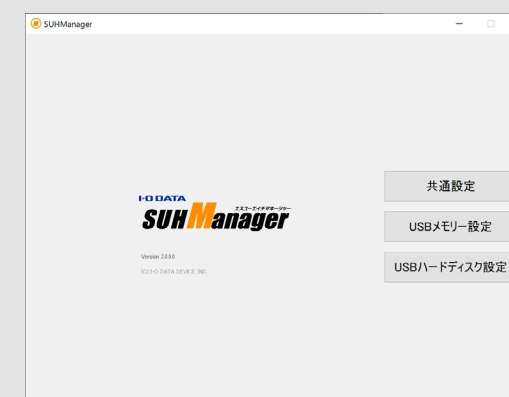
③[開く]をクリック

SUHManager が起動します。



ヒント 終了方法

[終了] をクリックします。



クリック

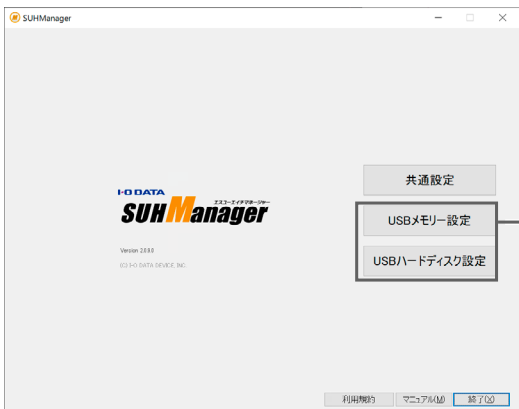
ポリシーを設定する

使用するデバイスに適用するポリシーを設定します。

※ポリシーは 10 種類登録できます。

1 SUHManagerを起動します。

2 設定するデバイスをクリックします。



デバイスを選び、クリック

3 ポリシー設定画面を表示します。

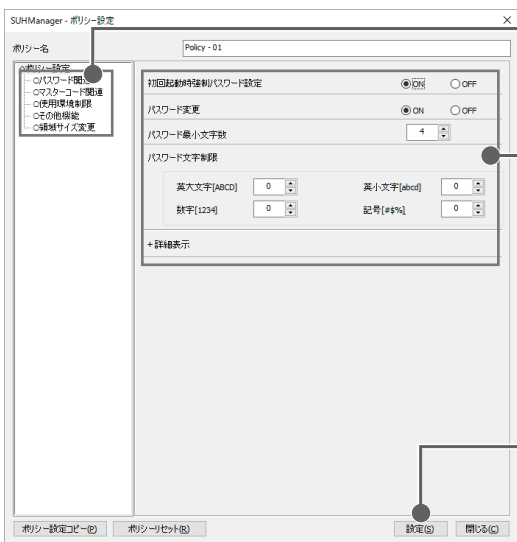


①[USBメモリーポリシー]または
[USBハードディスクポリシー]をクリック

②設定するポリシー名を選択

③[ポリシー編集]をクリック

4 設定します。



①設定項目を選択

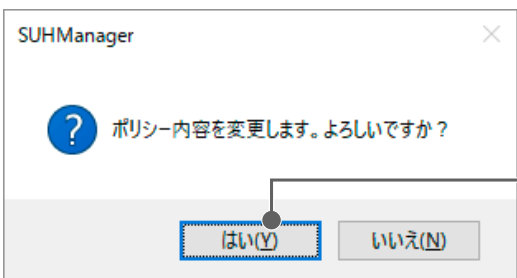
②設定

③[設定]をクリック

ポリシー名	直接入力し[設定]をクリックするとポリシー名を編集できます。 (全角半角の区別なしで1~32文字)
ツリー選択	編集する機能のツリーを選択します。
■ パスワード関連	SUGate4/SHGateまたはSHGateのログインパスワードに関する設定をします。
■ マスターコード関連	マスターコード機能に関する設定をします。
■ 使用環境制限	デバイスが動作する環境を設定します。
■ その他機能	パスワード以外のSUGate4/SHGate機能に関する設定をします。
■ 領域サイズ変更	データ保存領域の容量に関する設定をします。※USBメモリーのみ

注 意 デバイスを Mac で使用する際、ご利用いただけないポリシーがあります
詳細は、表の [タブ選択] から、タブの名称をクリックしてご確認ください。

5 [はい]をクリックします。



クリック

以上でポリシーの設定は完了です。

■ パスワード関連

SUGate4/SHGate のログインパスワードに関して設定します。



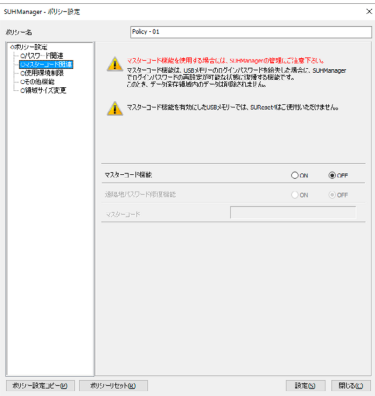
パスワード関連	該当デバイス		SUGate4/SHGateのログインパスワードに関する規則を設定します。 ※SUGate4/SHGateのパスワード変更や初期化時にも本設定内容が適用されます。										
	USBメモリー	USB HDD/SSD											
初回起動時強制パスワード設定	☐	☐	SUGate4/SHGateの初回起動時（初期化直後）にユーザーが自身でパスワード設定をするかどうかを設定します。 ON ユーザーが自身でパスワード設定をします。 OFF 管理者がSUHManagerで初期化する際に設定したパスワードが初期パスワードとして設定されます。										
パスワード変更	☐	☐	ON ユーザーは自由にパスワード変更をできます。 OFF ユーザーはパスワード変更できません。SUHManagerでのみ変更できます。										
パスワード最少文字数	☐	☐	パスワードとして設定できる最小文字数を1～16文字の間で設定します。										
パスワード文字制限	☐	☐	パスワードに使用できる文字を制限します。有効にすると、それぞれ設定した分の文字数を必ずパスワードに含める必要があります。 <table><tr><td>ABCD</td><td>半角/英字/大文字で0～16文字まで設定可能</td></tr><tr><td>abcd</td><td>半角/英字/小文字で0～16文字まで設定可能</td></tr><tr><td>1234</td><td>半角/数字で0～16文字まで設定可能</td></tr><tr><td>#\$%&</td><td>半角/記号で0～16文字まで設定可能</td></tr><tr><td colspan="2">使用可能な文字 ⇒ !"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[]_`{ }~</td></tr></table> (参考) 最小文字数:8、ABCD:1、abcd:1、1234:2、#\$%&:1 の場合 (残り3文字は任意の文字を設定) パスワード例:12A34b5#	ABCD	半角/英字/大文字で0～16文字まで設定可能	abcd	半角/英字/小文字で0～16文字まで設定可能	1234	半角/数字で0～16文字まで設定可能	#\$%&	半角/記号で0～16文字まで設定可能	使用可能な文字 ⇒ !"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[]_`{ }~	
ABCD	半角/英字/大文字で0～16文字まで設定可能												
abcd	半角/英字/小文字で0～16文字まで設定可能												
1234	半角/数字で0～16文字まで設定可能												
#\$%&	半角/記号で0～16文字まで設定可能												
使用可能な文字 ⇒ !"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[]_`{ }~													
パスワード有効期限 (日数)	☐	☐	パスワードの有効期限を、0～36500日の間で設定します。 ※0の場合、無期限になります。 ※有効期限の基準日は、SUGate4/SHGateで初回起動時のパスワードを設定した日となります。初回起動時強制パスワード設定を[OFF]にしている場合は、初期化した日となります。 ※有効期限が過ぎた場合、パスワード変更が必要となります。設定したポリシー（パスワード変更の[ON]/[OFF]）に従い、SUGate4/SHGate起動時またはSUHManagerにてパスワードを変更してください。 (参考) 有効期限内にパスワードを変更した場合 (例:有効期限を14日に設定したが、13日にパスワードを変更した場合)、再度パスワードを変更した日を基準に再設定されます。 010203040506070809101112131415161718192021222324252627282930 (日) 設定 有効期間 14日間 パスワード変更 有効期間 14日間 パスワード有効期間 ※パスワードの有効期間を 14 日（2 週間）にしている場合										

	該当デバイス						
	USBメモリー	USB HDD/ SSD					
パスワード連続ミス可能回数	○	○	1～100の間で設定できます。 設定した回数パスワード入力ミスをするるとロックがかかり、デバイスにログインまたはパスワード変更ができなくなります。				
累積パスワードミス回数の警告	○	○	パスワードを累積100回ミスすると、デバイスの初期化が必要となります。設定した回数前にSUGate4/SHGateで警告メッセージを表示します。1～99の間で設定します。				
パスワードミス ロックの遠隔解除 (※1) 【パスワードロック解除承認コードを発行する】 (84ページ)	○	○	<table><tr><td>ON</td><td>パスワード連続ミス回数が規定回数に達してもSUHManagerから発行する『解除承認コード』を入力することで、ユーザーがミス回数をリセット(パスワードミスロック解除)できます。</td></tr><tr><td>OFF</td><td>遠隔解除機能を無効にします。 パスワードミスロックしたデバイスはSUHManagerで解除します。</td></tr></table>	ON	パスワード連続ミス回数が規定回数に達してもSUHManagerから発行する『解除承認コード』を入力することで、ユーザーがミス回数をリセット(パスワードミスロック解除)できます。	OFF	遠隔解除機能を無効にします。 パスワードミスロックしたデバイスはSUHManagerで解除します。
ON	パスワード連続ミス回数が規定回数に達してもSUHManagerから発行する『解除承認コード』を入力することで、ユーザーがミス回数をリセット(パスワードミスロック解除)できます。						
OFF	遠隔解除機能を無効にします。 パスワードミスロックしたデバイスはSUHManagerで解除します。						
連続して同じパスワードの設定禁止	○	変更不可 (ON)	<table><tr><td>ON</td><td>パスワードを変更する際、前回と同じパスワードを設定できないようにします。</td></tr><tr><td>OFF</td><td>パスワードを変更する際、任意の文字列を設定できます。</td></tr></table>	ON	パスワードを変更する際、前回と同じパスワードを設定できないようにします。	OFF	パスワードを変更する際、任意の文字列を設定できます。
ON	パスワードを変更する際、前回と同じパスワードを設定できないようにします。						
OFF	パスワードを変更する際、任意の文字列を設定できます。						
ヒント表示	○	変更不可 (OFF)	<table><tr><td>ON</td><td>パスワード入力時にヒントを表示します。</td></tr><tr><td>OFF</td><td>パスワード入力時にヒントを非表示にします。</td></tr></table>	ON	パスワード入力時にヒントを表示します。	OFF	パスワード入力時にヒントを非表示にします。
ON	パスワード入力時にヒントを表示します。						
OFF	パスワード入力時にヒントを非表示にします。						
ヒントへのパスワード文字列設定禁止	○	変更不可 (ON)	<table><tr><td>ON</td><td>ヒントにパスワードと同じ文字列またはパスワードを含む文字列を設定できないようにします。</td></tr><tr><td>OFF</td><td>ヒントへは任意の文字列を設定できます。(ヒントにパスワードと同じ文字列を設定すると、第三者が容易にパスワードを類推できます)</td></tr></table> (参考) パスワード『rose』の場合の、ヒントの内容 OK:パスワードは花の名前です。 NG:パスワードはroseです。	ON	ヒントにパスワードと同じ文字列またはパスワードを含む文字列を設定できないようにします。	OFF	ヒントへは任意の文字列を設定できます。(ヒントにパスワードと同じ文字列を設定すると、第三者が容易にパスワードを類推できます)
ON	ヒントにパスワードと同じ文字列またはパスワードを含む文字列を設定できないようにします。						
OFF	ヒントへは任意の文字列を設定できます。(ヒントにパスワードと同じ文字列を設定すると、第三者が容易にパスワードを類推できます)						
自動ログイン許可	×	○	USB HDD/SSDにパスワードを設定済みの場合、パソコンにつなぐだけで使用できる(自動ログイン機能)ようにすることができます。 自動ログイン機能にすることで、本製品にパスワードロックがかからないためセキュリティレベルが下がります。 <table><tr><td>ON</td><td>自動ログインを許可します。</td></tr><tr><td>OFF</td><td>自動ログインを禁止します。</td></tr></table>	ON	自動ログインを許可します。	OFF	自動ログインを禁止します。
ON	自動ログインを許可します。						
OFF	自動ログインを禁止します。						

※1:[ON]に設定しても、Macでは本機能をご利用いただけません。

■ マスターコード関連

マスターコード機能に関して設定します。
ユーザーがSUGate4/SHGate のログインパスワードを忘れた場合、パスワードをロックしてしまった場合、データ保存領域内のファイルを削除せずにパスワードを再設定できる機能です。[【パスワードを修復する】\(59 ページ\)](#)、[【パスワード修復承認コードを発行する】\(88 ページ\)](#) 参照)



マスターコード	該当デバイス		
	USBメモリー	USB HDD/SSD	
マスターコード機能	○	○	ON デバイスにパスワードロックがかかった場合、データ保存領域内のファイルを削除せずに、パスワードを再設定できます。 OFF デバイスにパスワードロックがかかった時は、SUHManagerでのパスワードミス回数のリセットのほか、SUHManagerから出力したSUReset4/SHResetを利用してパスワードを再設定します。(データ保存領域内のファイルは削除されます) ⇒【パスワードの連続ミス回数をリセットする】(57ページ) ⇒【SUReset4について】(92ページ) ⇒【SHResetについて】(97 ページ) ※ マスターコード機能を有効にしたデバイスでは、SUHManagerで生成される初期化アプリケーションSUReset4/SHResetは使用できません。
遠隔地パスワード修復機能(※1) 【パスワード修復承認コードを発行する】(88ページ)	○	○	ON 遠隔地にいるユーザーのデバイスがパスワードロックしてしまった場合、パスワード修復コードを使用してパスワードを再設定することができます。 再設定手順は【パスワード修復承認コードを発行する】(88ページ)を参照してください。 ※ 【パスワードを修復する】(59ページ)も使用できます。 OFF デバイスにパスワードロックがかかった時は、SUHManagerで[パスワード修復]をしてください。 ⇒【パスワードを修復する】(59ページ)
マスターコード	○	○	マスターコード機能を使う際に必ず設定が必要です。 【SUHManagerの情報を確認する】(47ページ) で設定してください。

※1:[ON]に設定しても、Macでは本機能をご利用いただけません。

■ 使用環境制限

デバイスが動作するパソコンや OS を設定します。

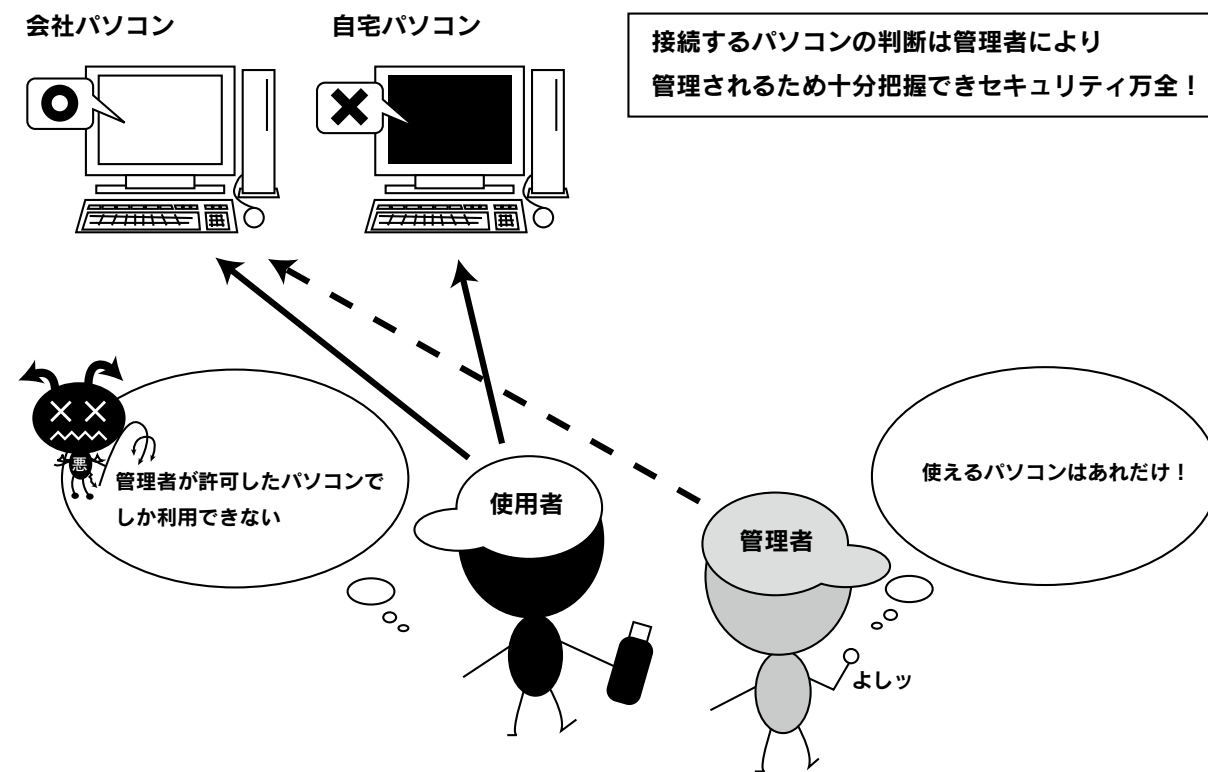


使用環境制限	該当デバイス		
	USBメモリー	USB HDD/SSD	
PC識別(※1,2) 【PC識別する】(66ページ)	○	○	SUHManagerで許可したパソコンでのみデバイスが使えるようになります。 重要なデバイスなどを使用する場面に適しています。 ただし、管理者がデバイスに対する設定をする必要があります。 ON デバイスが動作するパソコンを限定することができます。 OFF 対応OSを満たしていればどのパソコンでもデバイスを使用できます。
簡易PC識別(※1,2) 【簡易PC識別(CK-SetInfo)について】(102ページ)	○	○	PC識別とは異なり、パソコンの情報を収集、登録することなく使用したいパソコンの設定ができます。本機能を[ON]にして初期化したデバイスはSUHManagerから生成したCK-SetInfoを実行したパソコンでのみデバイスが使えるようになります。 ON CK-SetInfoを実行したパソコンでデバイスが使用できるようにします。 OFF 対応OSを満たしていればどのパソコンでもデバイスを使用できます。
使用OS制限	○	○	デバイスが動作するOSのバージョン情報を直接指定できます。 指定する場合は、□にチェックを付け、以下を指定します。 Windows:Major/Minor/Build/PlatformIDの各値 Mac(USBメモリーのみ):Major/Minor/Bugfixの各値 ※空欄の場合は、制限が指定されません。

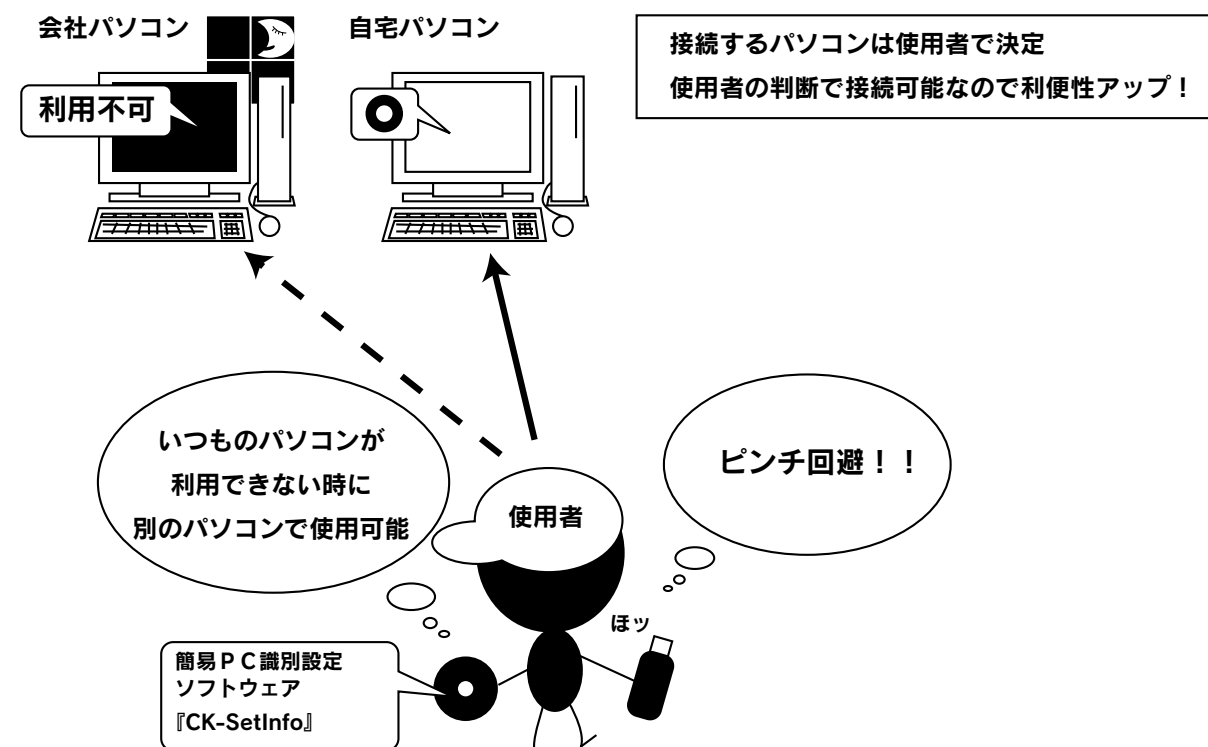
※1:[ON]に設定しても、Macでは本機能をご利用いただけません。
※2:PC識別と簡易PC識別を両方[ON]にした場合、デバイスを使用するには両方設定する必要があります。

「PC 識別」と「簡易 PC 識別」の違い

▼ PC 識別

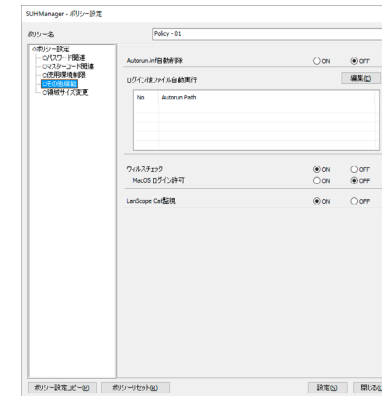


▼簡易 PC 識別



■ その他機能

パスワード、マスターコード、使用 OS 制限以外の SUGate4/SHGate の機能に関して設定します。



その他機能	該当デバイス		
	USBメモリー	USB HDD/SSD	
Autorun.inf自動削除	○	×	デバイスログイン時にデータ保存領域内の「Autorun.inf」を自動で削除する機能です。 ※Autorunウイルスなどの動作を必ず防止できる機能ではありません。 ON Autorun.infを自動的に削除します。 ※Autorun.infに設定されている動作をOSが実行する前に削除できるとは限りません。 OFF Autorun.infを削除しません。
ログイン後ファイル自動実行 (※1)	○	×	ログイン後に指定したファイルを実行します。 5つまで指定できます。 実行ファイル形式や、JPEGファイルなどの画像ファイルも指定できます。また、URLを指定してログイン時にWebサイトを開くこともできます。 ※Windowsでファイルを開くアプリケーションが関連づけされている必要があります。
ウイルスチェック (※1,2) (ED-SV4シリーズのみ)	○	×	デバイスログイン時にウイルスチェックをする機能です。 ON データ保存領域内のファイルのウイルスチェックをします。 OFF データ保存領域内のファイルのウイルスチェックをしません。
MacOS ログイン許可 (ED-SV4シリーズのみ)	○	×	ウイルスチェック機能が利用できない環境 (Mac等) でもログイン操作を許可する機能です。 ON ログイン操作を許可します。 ただし、Macではウイルスチェック機能は利用できません。 OFF ログイン操作を許可しません。
LanScope Cat 監視 (※1) (ED-S4/MOTシリーズのみ)	○	×	"LanScope Cat"の動作を監視します。 ON "LanScope Cat"非動作環境ではデバイスを使用することができません。 OFF "LanScope Cat"の動作に関係なくデバイスを使用できます。

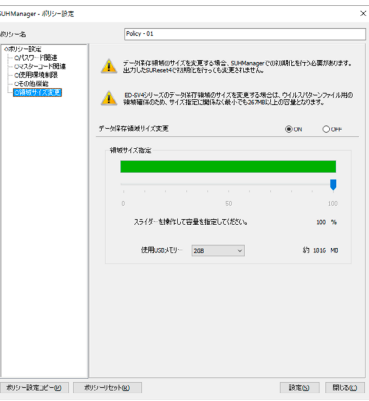
※1:[ON]に設定しても、Macでは本機能をご利用いただけません。

※2:デバイスをMacで使用する場合は、以下のうちいずれかの設定をしてください。

- ・[ウイルスチェック]を[OFF]に設定する
- ・[MacOS ログイン許可]を[ON]に設定する

■ 領域サイズ変更

ユーザーが使用できる USB メモリーの容量を制限します。
ユーザーに最低限の容量のみを使わせたい場合などに設定します。



領域サイズ変更	ユーザーが使用できるUSBメモリーの容量を制限します。	
データ保存領域サイズ変更	ON	スライダーを動かし、データ保存領域のサイズを制限します。 スライダーを動かすと設定した容量の目安が表示されます。 ※最小値はED-S4シリーズは16MB、ED-SV4シリーズはウイルスパターンファイルを保存する領域が必要なため267MBです。
	OFF	データ保存領域は購入時の容量で使用します。

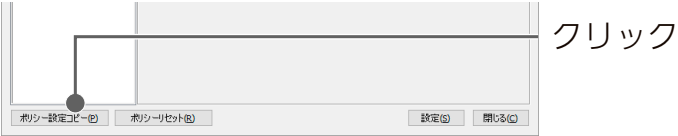
※データ保存領域とはデータの読み書きができる領域です。
詳しくはUSBメモリーの画面で見るマニュアルをご覧ください。

■ 編集中のポリシーに別のポリシーの設定をコピーする

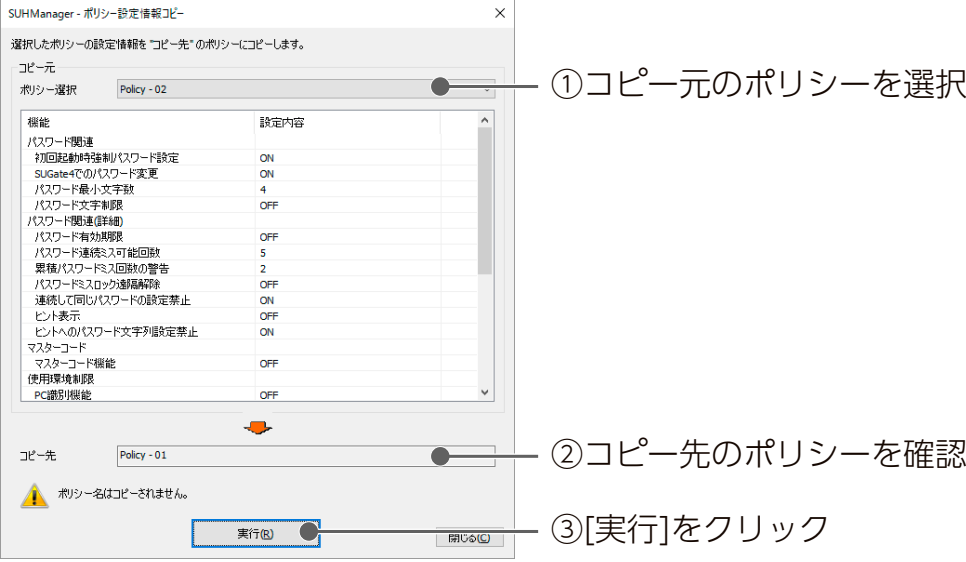
編集中のポリシーに、別のポリシーの設定内容をコピーできます。
※編集中の設定内容に上書きされます。
※ポリシー名はコピーされません。

以下は例として、[Policy - 02] の設定内容を [Policy - 01] にコピーします。

1 [ポリシー設定コピー]をクリックします。



2 コピー元のポリシーを選択し、実行します。



3 [設定]をクリックします。



■ ポリシーの設定例

設定例 1 (25 : 配布用に仮パスワードを設定し、ユーザーにパスワード設定をさせたい場合
ページ)

USB メモリーUSB HDD/SSD

設定例 2 (26 : 管理するデバイスのパスワードを固定したい場合
ページ)

USB メモリーUSB HDD/SSD

設定例 3 (27 : データ保存領域の容量と使用可能なパソコンを制限したい
ページ) かつ、パスワードロック時はユーザー側で解除可能にしたい場合

USB メモリー

設定例 4 (28 : パスワードを忘れた時でも初期化しないで保存しているデータを取り出したい場合
ページ) ※通常よりセキュリティは弱くなります。

USB メモリーUSB HDD/SSD

設定例 1 : 配布用に仮パスワードを設定し、ユーザーにパスワードを設定させたい場合

設定する内容

項目	値
初回起動時強制パスワード設定	OFF*
パスワード変更	ON

※ 管理者で初期化時に設定したパスワードを管理しておく必要があります。

同時に、[ヒントへのパスワード文字列設定禁止]、[連続して同じパスワードの設定禁止]、[ヒント表示] を [ON] に設定すると、ユーザーがパスワードを変更する際に、仮パスワードで設定した文字列が使用できません。
また、ヒントにもパスワード文字列を設定できませんので、パスワード漏洩を防げます。



設定例 2：管理するデバイスのパスワードを固定したい場合

設定する内容

項目	値
初回起動時強制パスワード設定	OFF※
パスワード変更	OFF

※ 管理者で初期化時に設定したパスワードを管理しておく必要があります。

SUGate4/SHGate の初回起動時（初期化直後）、パスワード入力画面が表示されます。
ログインパスワードは、SUHManager でデバイスを初期化する際に設定します。
また、SUGate4/SHGate アイコンを右クリックしても、パスワード変更メニューは表示されません。
パスワードを変更したい場合は、管理者が SUHManager でパスワードを変更します。



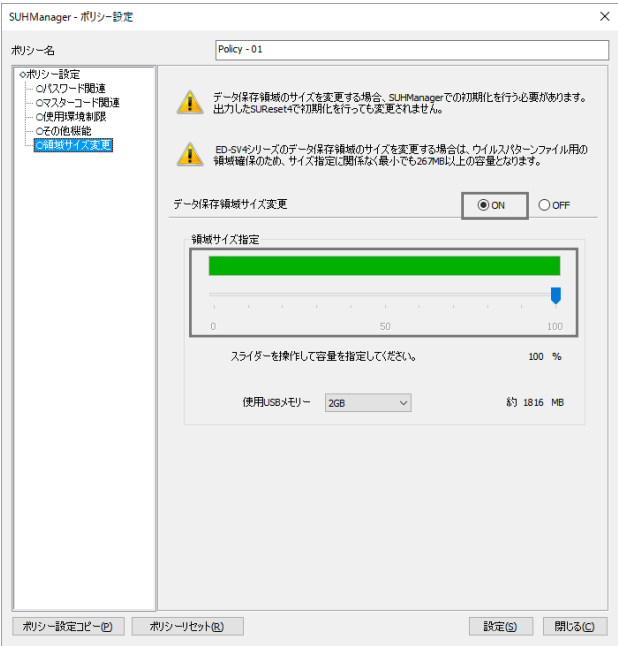
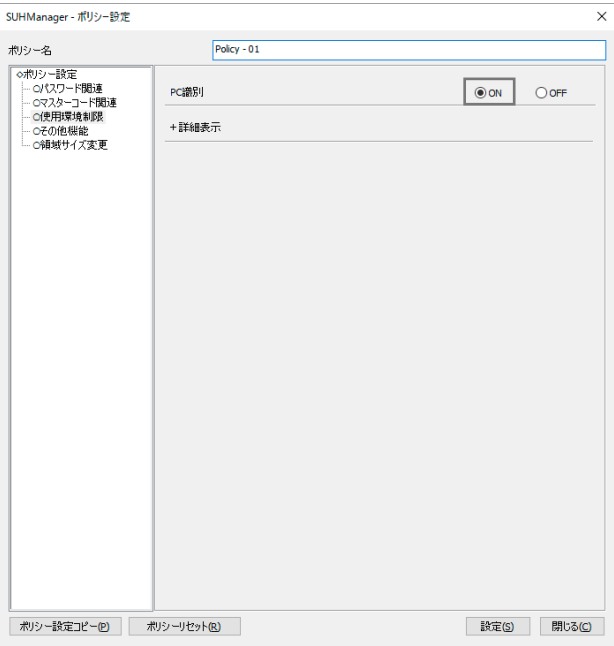
設定例 3：データ保存領域の容量と使用可能なパソコンを制限したい
かつ、パスワードロック時はユーザー側で解除可能にしたい場合

設定する内容

項目	値
累計パスワードミス回数の警告	任意の値に設定※1
パスワード変更	ON
PC識別	ON
データ保存領域サイズ変更	ON※2

※1 100- 設定した（値）回数の時にパスワードミスをすると警告画面が表示されます。

※2 容量は任意に設定してください。



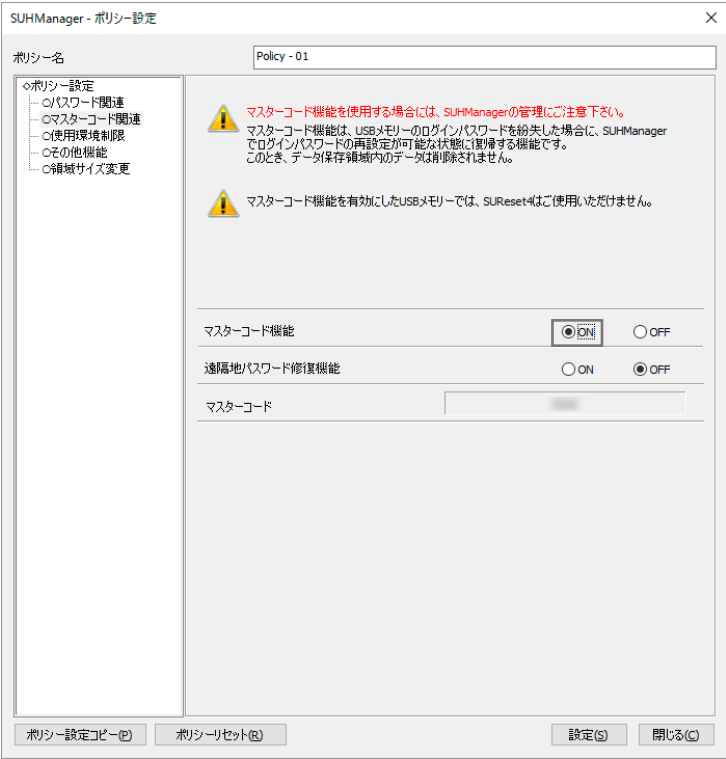
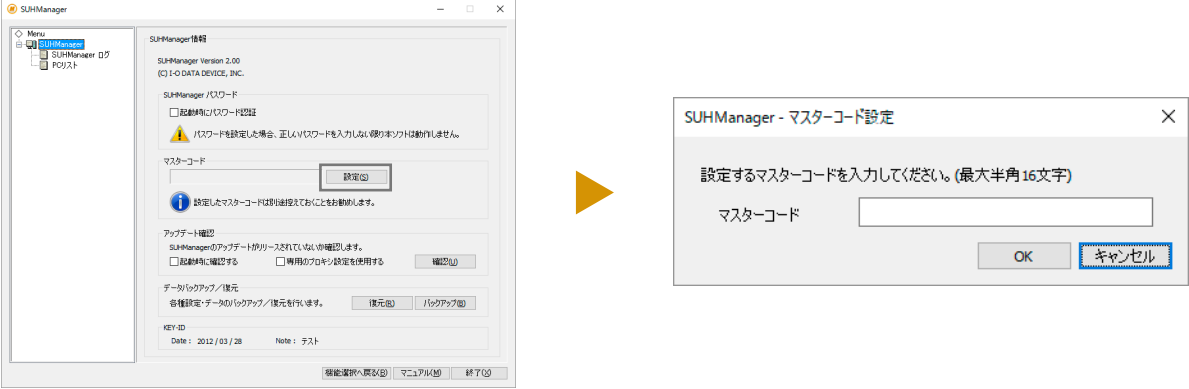
設定例 4：パスワードを忘れた時でも初期化しないで保存しているデータを取り出したい場合

設定する内容

項目	値
マスターコード機能	ON

※マスターコード機能を [ON] にした場合、初回起動時強制パスワード設定は強制的に [ON] になります。

▼ [共通] メニュー



デバイスを初期化する

デバイスを初期化します。
SUHManager でデバイスを初期化した後に、初めて SUHManager のすべての機能を利用することができます。
※初期化後は自動的に取り外し処理されます。挿しなおすことで、機能を使用できます。

注 意

- 必要なデータがある場合は、あらかじめデバイス内のデータのバックアップをしてください
初期化すると、データ保存領域のデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、初期化の前にデータを別のメディア（DVD やハードディスク）にコピーするなどして、バックアップをしてください。
- デバイスの設定は初期化時に選択したポリシーに変更されます
初期化前の設定状態は保持されません。
- SUHManager で初期化したデバイスは、デバイス添付の初期化ソフトウェア「SUReset4」または「SHReset」では初期化できません
SUHManager から出力した「SUReset4」または「SHReset」を利用してください。
⇒ [【SUReset4 について】（92 ページ）](#) 参照

ヒント

複数デバイスの初期化をおこなう場合

下記のいずれかの方法でおこなうと便利です。

- ・連続初期化（おすすめ）⇒ [【連続初期化する】（32 ページ）](#) 参照
- ・一括初期化 ⇒ [【一括初期化する】（36 ページ）](#) 参照

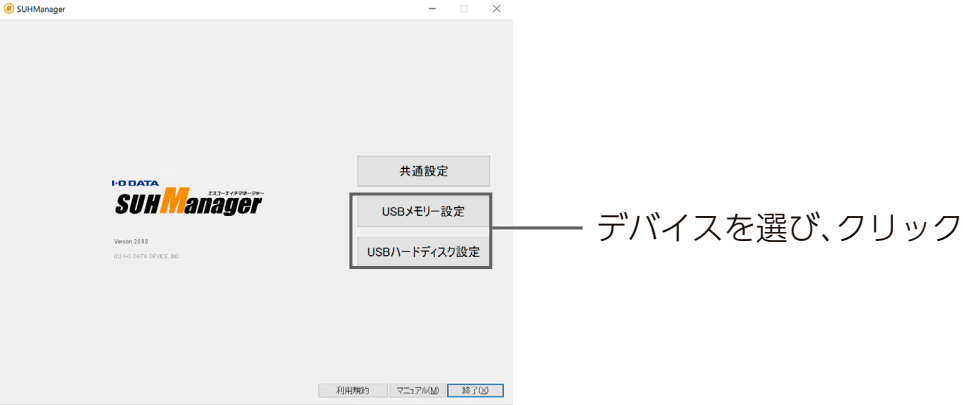
1 SUHManagerを起動します。

ヒント

まだデバイスを接続しないでください

SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

2 設定するデバイスをクリックします。



3 デバイスをパソコンのUSBポートに接続します。

4 ポリシーを選択し、初期化します。

①[初期化]をクリック

②適用するポリシーを選択

③[USBメモリーリスト登録情報]または[USBハードディスク登録情報]を任意で入力
※入力した内容は[USBメモリーリスト]画面または[USBハードディスクリスト]に表示されます。

④[初期化]をクリック

ヒント SUHManagerで表示されるシリアルナンバーと製品に貼付されているハードウェアシリアル番号(S/N)は異なります

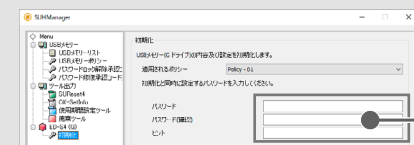


SUHManager で表示されるシリアルナンバー（デバイス自体の個別情報）と製品に貼付されているハードウェアシリアル番号（S/N）を紐づける場合は、上記手順④の【ハードウェアシリアル番号】欄にハードウェアシリアル番号（S/N）を入力してください。

ハードウェアシリアル番号（S/N）シール内にバーコードがある場合は、別途ご用意いただいたバーコードリーダーを使用して、バーコードを読み取ることでハードウェアシリアル番号（S/N）を入力することもできます。
※バーコードが読み取りにくい場合は、バーコードにバーコードリーダーを近づけてお試しください。
※バーコードは出荷時期により記載されていない場合があります。
※使用可能なバーコードリーダーの仕様など詳細は、下記弊社 Web ページでご確認ください。
<https://www.iodata.jp/lib/manual/pdf2/suhmanager-qa1.pdf>



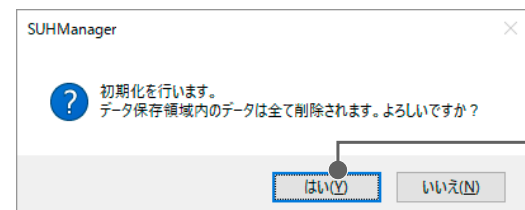
ヒント 選択したポリシーが「初回起動時強制パスワード設定」を[OFF]にしている場合
※詳しくは、【パスワード関連】（16 ページ）参照ください。
初期化と同時に、パスワードとヒント（任意）を設定します。



入力する

パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したポリシーにより異なります) ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード(確認)	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。(最大64文字) ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。

5 確認画面が表示されるので、[はい]をクリックします。



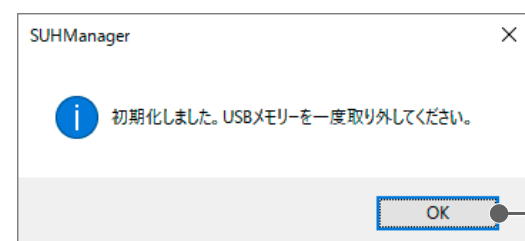
クリック

⇒初期化が始まります。

注意

- 初期化中、デバイスを取り外したり、他の操作をしないでください
- 許可 PC 情報や、操作ログが多数保存されているデバイスを初期化する場合は、処理に時間がかかることがあります

6 [OK]をクリックします。



クリック

7 デバイスをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。
デバイスを使用する場合はSUHManagerを終了した後、挿しなおしてください。

以上で、デバイスの初期化は完了です。

■ 連続初期化する

複数のデバイスを最大 200 本まで連続で初期化することができます。

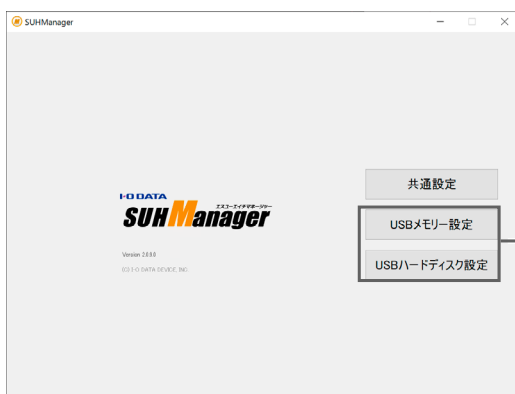
1 SUHManagerを起動します。

ヒント

まだデバイスを接続しないでください

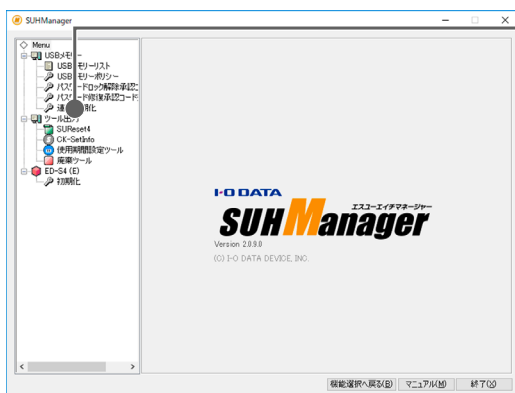
SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

2 設定するデバイスをクリックします。



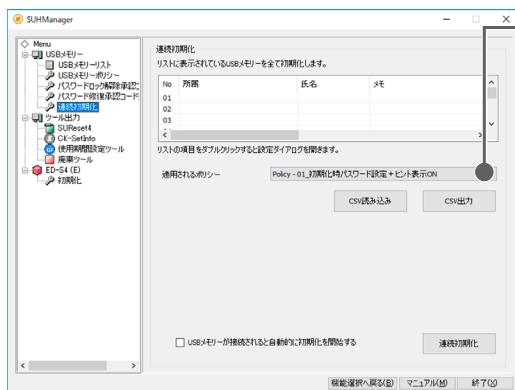
デバイスを選び、クリック

3 左のメニューから[連続初期化]をクリックします。



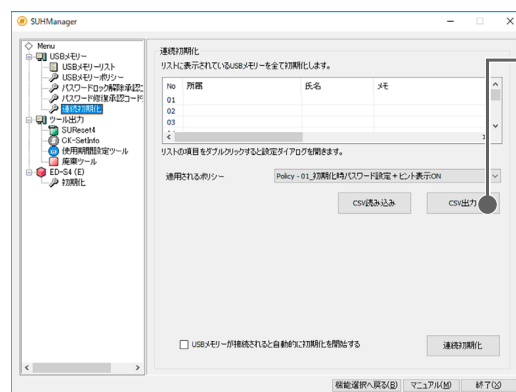
[連続初期化]をクリック

4 [適用されるポリシー]を選びます。



[適用されるポリシー]を選ぶ

5 初期化設定用のCSVファイルを出力します。



[CSV出力]をクリック
⇒CSVファイルを保存するフォルダーを選び、
[OK]をクリック

6 出力したCSVファイルを編集します。

連続初期化するデバイスの本数分の設定内容を入力します。

※設定は連続初期化画面から編集することもできます。

※設定はデバイスを初期化する直前にも変更できます。

ヒント

設定内容をあらかじめCSVファイルで作成し読み込むことができます

CSV ファイルを使用しない場合は、手順 5 ～ 7 の手順は不要です。

CSV ファイルの 1 行目と 2 行目は変更しないでください。

CSV ファイルの 3 行目以降は、以下の各項目の設定条件に従って入力してください。

- ・所属：64 文字以内
- ・氏名：16 文字以内
- ・メモ：128 文字以内
- ・ハードウェアシリアル番号：半角英数で 12 文字以内 (※ 1)
- ・パスワード：設定可能な文字や文字数は、設定したポリシーにより異なります。(※ 2)
- ・ヒント 64 文字以内 (※ 3)

※ 1 手順 9 でバーコードでの読み取りまたは番号入力を行うと効率的です。

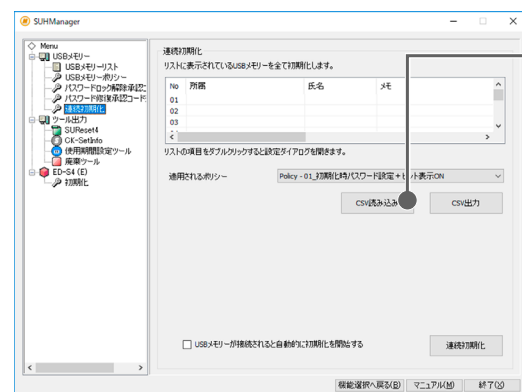
※ 2 ポリシーの「初回起動時強制パスワード設定」が OFF の場合のみ適用されます。

※ 3 ポリシーの「初回起動時強制パスワード設定」が OFF で、「ヒント表示」が ON の場合のみ適用されます。

▼出力したファイルは、Excel などで編集できます。

	A	B	C	D	E	F
1	[SUHManager - 初期化設定リスト]					
2	所属	氏名	メモ	ハードウェアシリアル番号	パスワード	ヒント
3	〇〇部	〇〇 〇〇	任意	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	パスワードのヒント
4	〇〇部	〇〇 〇〇	任意	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	パスワードのヒント
5	〇〇部	〇〇 〇〇	任意	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	パスワードのヒント
6	〇〇部	〇〇 〇〇	任意	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	パスワードのヒント
7	〇〇部	〇〇 〇〇	任意	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	パスワードのヒント
8	〇〇部	〇〇 〇〇	任意	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	パスワードのヒント
9	〇〇部	〇〇 〇〇	任意	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	パスワードのヒント
10	〇〇部	〇〇 〇〇	任意	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	パスワードのヒント
11	〇〇部	〇〇 〇〇	任意	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	パスワードのヒント
12	〇〇部	〇〇 〇〇	任意	XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	パスワードのヒント

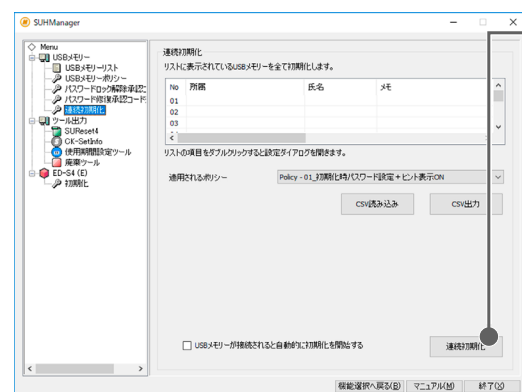
7 編集したCSVファイルを読み込みます。



[CSV読み込み]をクリック
⇒読み込むCSVファイルを選び、
[OK]をクリック

※画面上にCSVファイルの設定内容が表示されます。

8 [連続初期化]をクリック



クリック

[USBメモリーが接続されると自動的に初期化を開始する]にチェックを付けると、手順11～13を省略できます。

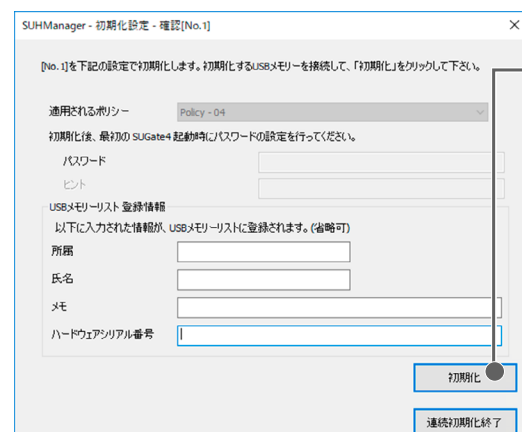
9 デバイスを接続する前に、設定内容を確認してください。

※ハードウェアシリアル番号を紐づけて管理する場合は、ここでバーコードの読み取りまたは番号入力をおこなうと効率的です。

10 設定を適用するデバイスをパソコンのUSBポートに接続します。

※手順8で[USBメモリーが接続されると自動的に初期化を開始する]にチェックを付けた場合、デバイスをパソコン接続すると自動的に初期化が開始されます。

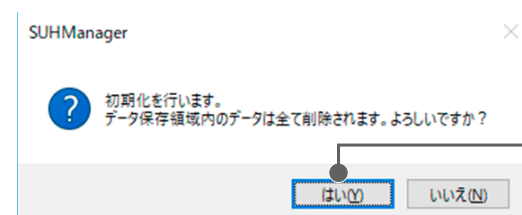
11 [初期化]をクリック



クリック

ポリシー以外の設定は変更可能です。

12 確認画面が表示されるので、[はい]をクリックします。



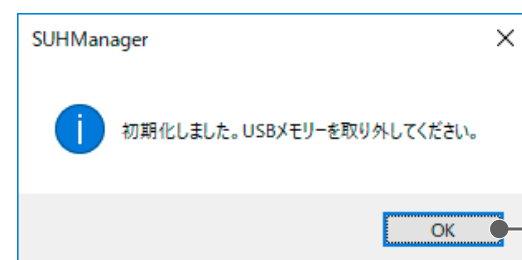
クリック

⇒初期化が始まります。

注意

- 初期化中、デバイスを取り外したり、他の操作をしないでください
- 許可 PC 情報や、操作ログが多数保存されているデバイスを初期化
する場合は、処理に時間がかかることがあります

13 [OK]をクリックします。



クリック

14 デバイスをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。
デバイスを使用する場合はSUHManagerを終了した後、挿しなおしてください。

15 すべてのデバイスの初期化が完了するまで手順9～14を繰り返します。 終了するときは、[連続初期化終了]をクリックします。

以上で、デバイスの初期化は完了です。

■一括初期化する

複数のデバイスを最大 4 本まで一度に初期化することができます。

ヒント シリアルナンバーの紐づけには、**連続初期化機能**

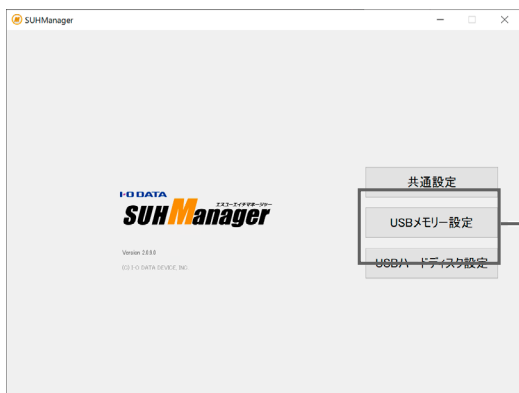
SUHManager で表示されるシリアルナンバーと製品本体に添付されているハードウェアシリアル番号 (S/N) を紐づける場合は、**【連続初期化する】(32 ページ)** で初期化することをおすすめします。

1 SUHManagerを起動します。

ヒント まだデバイスを接続しないでください

SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

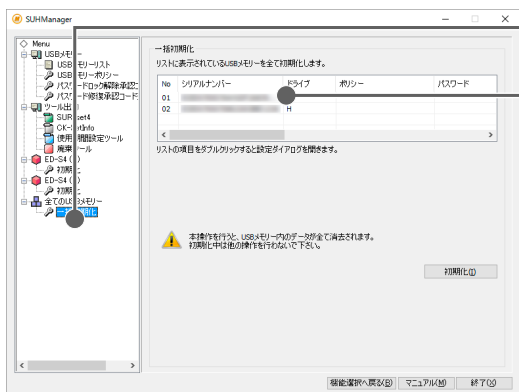
2 設定するデバイスをクリックします。



デバイスを選び、クリック

3 デバイスを2～4本、パソコンのUSBポートに接続します。

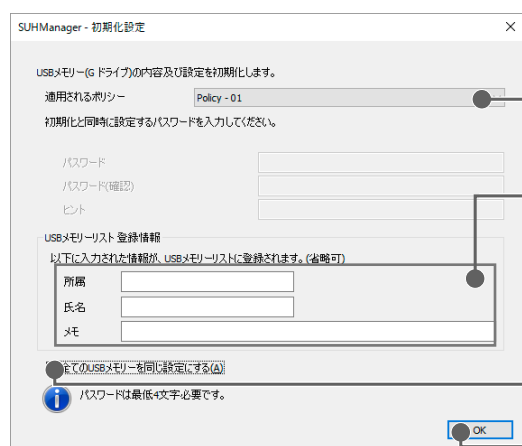
4 初期化するデバイスを選択します。



①[一括初期化]をクリック

②デバイスをダブルクリック

5 適用するポリシーを選択します。



①適用するポリシーを選択

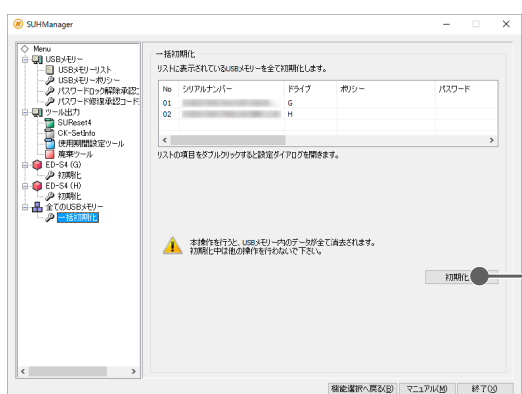
②[USBメモリーリスト登録情報]または[USBハードディスク登録情報]を任意で入力
※入力した内容は[USBメモリーリスト]画面または[USBハードディスクリスト]画面に表示されます。

③全て同じ設定にする場合はチェック

④[OK]をクリック

※個別にポリシーを設定する場合は、手順 ④ ⑤ を繰り返してください。

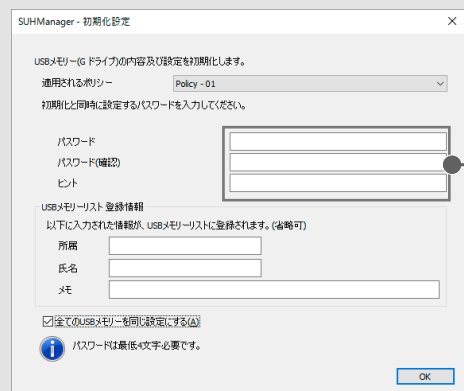
6 [初期化]をクリックします。



クリック

ヒント 選択したポリシーが「初回起動時強制パスワード設定」を[OFF]にしている場合

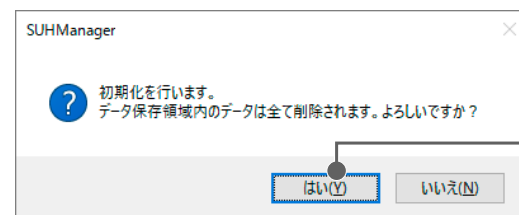
※詳しくは、**【パスワード関連】(16 ページ)** 参照ください。
一括初期化と同時に、パスワードとヒント (任意) を設定します。



入力する

パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したポリシーにより異なります) ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード(確認)	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。(最大64文字) ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。

7 確認画面が表示されるので、[はい]をクリックします。

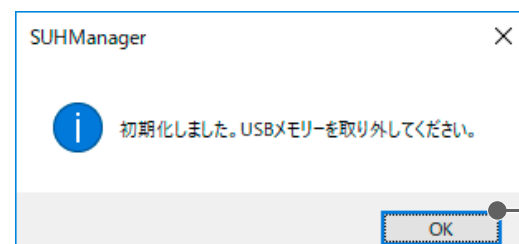


⇒初期化が始まります。

注意

- 初期化中、デバイスを取り外したり、他の操作をしないでください
- 許可 PC 情報や、操作ログが多数保存されているデバイスを初期化する場合は、処理に時間がかかることがあります

8 [OK]をクリックします。



9 デバイスをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。

デバイスを使用する場合はSUHManagerを終了した後、挿しなおしてください。

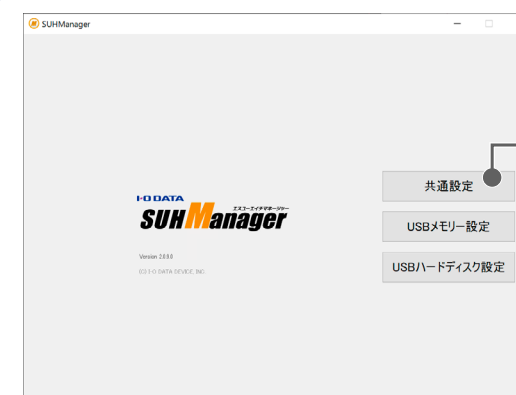
以上で、デバイスの初期化は完了です。

SUHManager 情報をバックアップする

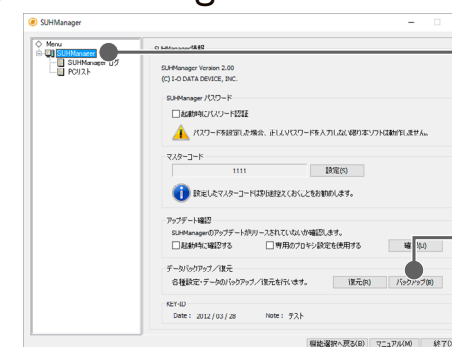
管理者 PC が故障してしまった際など、管理しているデバイスの情報等が失われてしまう恐れがあります。事前に SUHManager 情報をバックアップしておくことをおすすめします。

1 SUHManagerを起動します。

2 共通設定をクリックします。



3 SUHManager情報をバックアップします。



4 フォルダを選択し、すべての□にチェックした状態で、[実行]をクリックします。



5 保存した「設定情報ファイル」と利用していた「KEY-IDファイル」を、別のパソコンなどに保存します。

これでバックアップは完了です。復帰方法は [137 ページ](#)をご覧ください。

機能を使う

機能から探す

< SUHManager 関連 >	
SUHManager のメイン画面について	44 ページ
SUHManager の情報を確認する	47 ページ
SUHManager の操作ログを表示する	50 ページ
< デバイス関連 >	
デバイス操作ログを確認する	52 ページ
パスワードを変更する	55 ページ
パスワードの連続ミス回数をリセットする	57 ページ
パスワードを修復する	59 ページ
書き込み禁止にする	61 ページ
初期化したデバイスの情報を確認する	63 ページ
初期化したデバイスの情報をリスト出力する	65 ページ
PC 識別する	66 ページ
パスワードロック解除承認コードを発行する	84 ページ
パスワード修復承認コードを発行する	88 ページ
< ツール関連 >	
SUReset4 について	92 ページ
SHReset について	97 ページ
簡易 PC 識別（CK-SetInfo）について	102 ページ
使用期間設定ツールについて	107 ページ
廃棄ツールについて	111 ページ

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

Menu から探す

※接続の状況やポリシー設定などにより、表示されないメニューがあります。

共通

Menu

- SUHManager [\(47\)](#)
- SUHManager ログ [\(50\)](#)
- PC リスト [\(66\)](#)

USB メモリー

Menu

- USB メモリー
- USB メモリーリスト [\(63\)](#)
- USB メモリーポリシー [\(14\)](#)
- パスワードロック解除承認コード発行 [\(84\)](#)
- パスワード修復承認コード発行 [\(88\)](#)
- 連続初期化 [\(32\)](#)
- ツール出力
- SUNReset4 [\(92\)](#)
- CK-SetInfo [\(102\)](#)
- 使用期間設定ツール [\(107\)](#)
- 廃棄ツール [\(111\)](#)
- ED-S4 (G)
- 操作ログ [\(52\)](#)
- パスワード変更 [\(55\)](#)
- パスワードミスリセット [\(57\)](#)
- 書き込み禁止 [\(61\)](#)
- 初期化 [\(29\)](#)
- ED-S4 (H)
- PC 許可 [\(75\)](#)
- 操作ログ [\(52\)](#)
- パスワード変更 [\(55\)](#)
- パスワードミスリセット [\(57\)](#)
- パスワード修復 [\(59\)](#)
- 書き込み禁止 [\(61\)](#)
- 初期化 [\(29\)](#)
- 全ての USB メモリー
- 許可情報コピー [\(82\)](#)
- 一括初期化 [\(36\)](#)

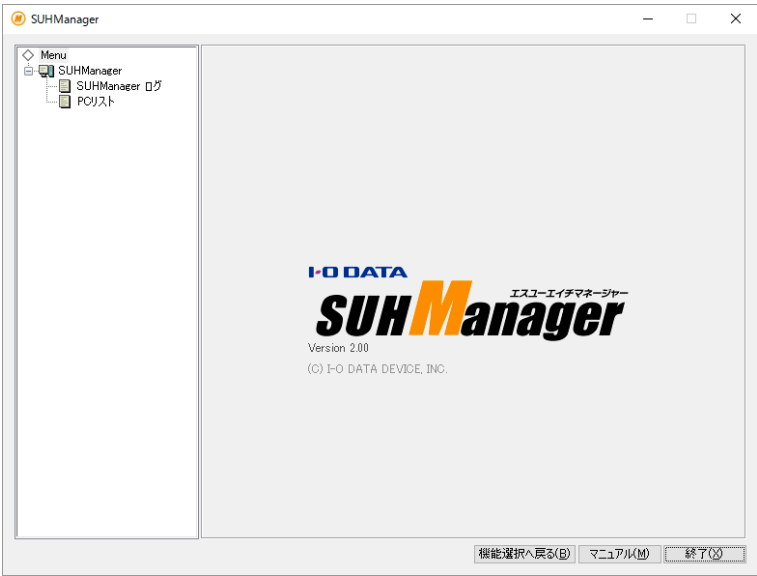
USB HDD/SSD

Menu

- USB ハードディスク
- USB ハードディスクリスト [\(63\)](#)
- USB ハードディスクポリシー [\(14\)](#)
- パスワードロック解除承認コード発行 [\(84\)](#)
- パスワード修復承認コード発行 [\(88\)](#)
- 連続初期化 [\(32\)](#)
- ツール出力
- SHReset [\(97\)](#)
- CK-SetInfo [\(102\)](#)
- 使用期間設定ツール [\(107\)](#)
- HDPD-SUTB (G)
- 操作ログ [\(52\)](#)
- パスワード変更 [\(55\)](#)
- パスワードミスリセット [\(57\)](#)
- 書き込み禁止 [\(61\)](#)
- 初期化 [\(29\)](#)
- HDPD-SUTB (H)
- PC 許可 [\(75\)](#)
- 操作ログ [\(52\)](#)
- パスワード変更 [\(55\)](#)
- パスワードミスリセット [\(57\)](#)
- パスワード修復 [\(59\)](#)
- 書き込み禁止 [\(61\)](#)
- 初期化 [\(29\)](#)
- 全ての USB ハードディスク
- 許可情報コピー [\(82\)](#)
- 一括初期化 [\(36\)](#)

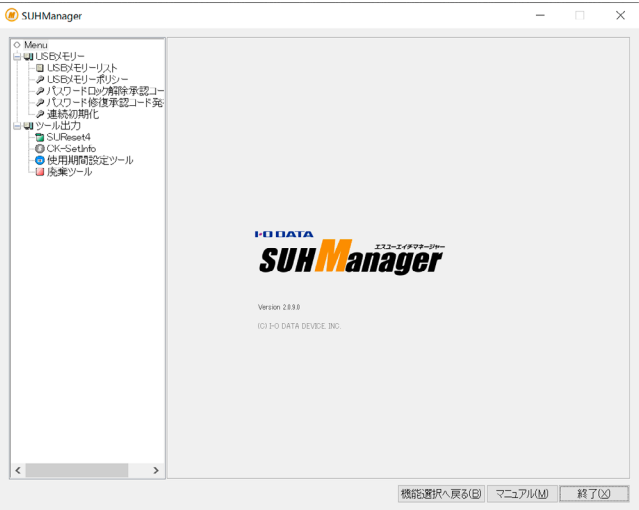
SUHManager のメイン画面について

共通

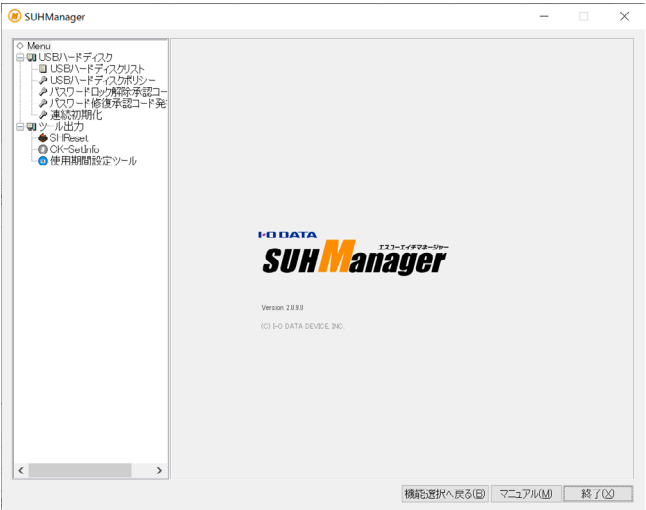


SUHManager	SUHManagerの情報を表示します。
SUHManagerログ	SUHManagerの操作ログを表示します。
PCリスト	SUHManagerが保持またはUSBメモリーが保有している許可PCおよび、許可候補PCのリストを表示します。また、SUHGetInfoAG.exeを利用して収集したPC情報を読み込み表示することもできます。

USB メモリー



USB HDD/SSD



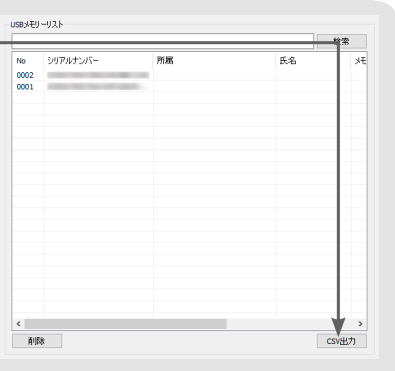
USBメモリーリスト
USBハードディスクリスト

初期化したデバイスの情報を表示/編集します。

ヒント

リストを出力する

「CSV出力」をクリックすると、リスト情報をCSVファイルで出力できます。シリアルナンバーのリストなどの出力に便利です。



USBメモリーポリシー
USBハードディスクポリシー

SUGate4/SHGateの動作ポリシーを表示/編集します。

パスワードロック
解除承認コード

SUHManagerで初期化したデバイス用のパスワードロックを解除するコードを出力します。

パスワード修復承認コード

SUHManagerで初期化したデバイス用のパスワード再設定用のコードを出力します。

連続初期化

複数のデバイスを最大200 本まで連続で初期化することができます。

ツール出力

SUHManagerで初期化したデバイスで使用するツールを出力する。

SUReset4
SHReset

SUHManagerで初期化したUSBメモリー用のSUReset4、またはUSBハードディスク用のSHResetを出力します。

CK-SetInfo

簡易PC識別機能を利用時に使用する設定ツールCK-SetInfoを出力します。

使用期間設定ツール

SUHManagerで初期化したデバイス用の使用期間設定ツールを出力します。

廃棄ツール

SUHManagerで初期化したUSBメモリー用の廃棄ツールを出力します。
※USBメモリーのみ

製品名

装着されているデバイスの情報を表示します。
※デバイスが接続されているときのみ表示されます。

PC許可

収集したパソコン情報から、使いたいパソコンでの使用を許可します。([PC識別]機能が[ON]のときのみ表示)

操作ログ

SUGate4/SHGateの操作ログを表示します。

パスワード変更

SUGate4/SHGateのログインパスワードを変更します。

パスワードミスリセット

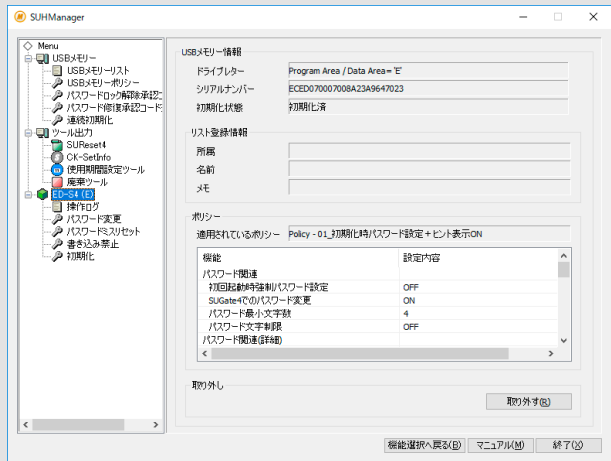
SUGate4/SHGateのログインパスワード連続ミス回数をリセットします。

パスワード修復

データ保存領域内にあるデータを削除せずにパスワードを再設定できます。
([マスターコード]機能が[ON]のときのみ表示)

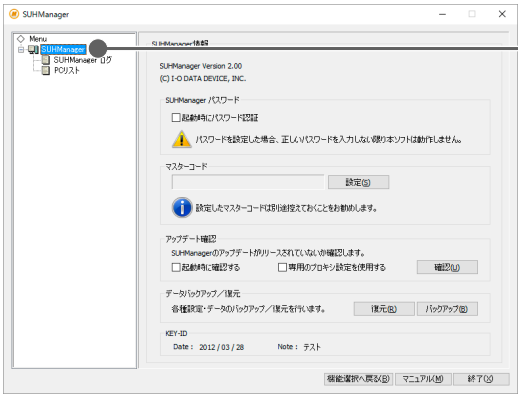
書き込み禁止	USBメモリーを書き込みできないよう設定します。 ([ウイルスチェック]機能が[ON]の場合は使用できません) ※USBメモリーのみ
初期化	デバイスを初期化します。
全てのUSBメモリー	デバイスが2本以上接続されている場合のみ表示します。
許可情報コピー	許可PCと許可候補PC情報をコピーできます。 ([PC識別]機能を[ON]にした複数のデバイスを接続しているときのみ表示)
一括初期化	接続しているすべてのデバイスを初期化します。

ヒント デバイスが装着されている場合、そのデバイスの情報が表示されます



デバイス情報	接続されているデバイスの情報を表示します。
ドライブレター	デバイス本体のドライブ文字(番号)が表示されます。
シリアルナンバー	接続されているデバイスのシリアルナンバーを表示します。 ※デバイスに貼られているハードウェアシリアル番号(S/N)ではなく、デバイス自体の個別情報です。
リスト登録情報	デバイスの初期化時にリスト登録情報に設定した内容が表示されます。
ポリシー	デバイスの初期化時に適用したポリシーの設定内容が表示されます。
取り外す	クリックするとデバイスをパソコンから取り外します。

SUHManager の情報を確認する



[SUHManager]をクリック

画面について説明します。

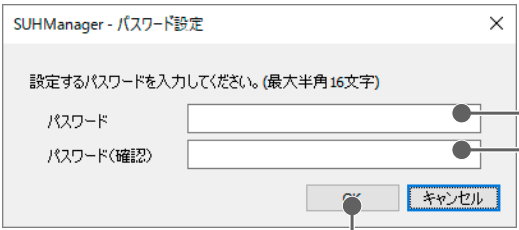
SUHManager パスワード

SUHManager の起動に、パスワードロックをかけることができます。設定すると次回の SUHManager 起動時から、パスワード入力が必要になります。

注意 パスワードを忘れた場合、SUHManager を起動できません
SUHManager をアンインストールし、再インストールする必要があります。

▼設定方法

- 1 [起動時にパスワード認証]にチェックします。
- 2 パスワードを設定します。

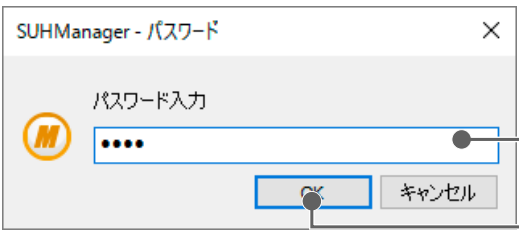


- ①入力
- ② ①と同じ文字列を入力
- ③クリック

※半角英数字1～16文字
※大文字、小文字は区別されます。
※使用できる半角記号は !"#\$%&'()+,-./:;<=>?@[^_`{|}~

▼解除方法

- 1 [起動時にパスワード認証]のチェックを外します。
- 2 設定しているパスワードを入力します。



- ①入力
- ②クリック

■ マスターコード

「[マスターコード機能](#)」を使うときに設定が必要です。
任意の文字列を半角 16 文字以内で入力してください。
※「マスターコード機能」を使わないときは、設定不要です。

注 意

マスターコードを設定後に変更した場合、「パスワード修復機能」「パスワードミスロック遠隔解除」等が利用できなくなります

「マスターコード機能」及び「パスワードミスロック遠隔解除」を利用するデバイスには、マスターコードに紐づく情報が埋め込まれるためです。
変更するときは十分ご注意ください。

■ アップデート確認

アップデート可能な最新のソフトウェアがないか確認します。
アップデートファイルが見つかった場合、ダウンロードするための Web サイトを開く案内画面が表示されます。
定期的なアップデートの確認をお勧めします。
※インターネット接続環境が必要です。

起動時に確認する	チェックすると、SUHManagerの起動時に自動で確認します。
専用のプロキシ設定を使用する	専用のプロキシ設定が必要な場合は、チェックして、設定します。
確認	今すぐ手動で確認します。

ヒント

プロキシ設定をする

[専用のプロキシ設定を使用する] にチェックし、以下を設定します。

SUHManager - プロキシ設定

プロキシサーバー

ポート

ユーザー名とパスワードが必要な場合は入力してください。
必要でない場合は何も入力しないでください。

ユーザー名

パスワード

OK

キャンセル

プロキシサーバー	プロキシサーバーのアドレスを入力します。
ポート	プロキシサーバーのポートを入力します。
ユーザー名	必要に応じて、プロキシにアクセスする際のユーザー名を入力します。
パスワード	必要に応じて、プロキシにアクセスする際のパスワードを入力します。

48

SUHManager の情報を確認する

共通

■ データバックアップ／復元

SUHManager の各種設定・データファイルのバックアップ・復元ができます。
※復元は現在の設定内容に上書きされます。

必要に応じて、バックアップ・復元する情報を選択できます。
(SUHManager 設定 /SUHManager ログ /USB メモリーリスト /USB ハードディスクリスト /PC リスト /ポリシー)

注 意

バックアップ・復元する情報を選択する場合

「SUHManager 設定」と「ポリシー」には、KEY-ID 情報が含まれます。
そのため、「SUHManager 設定」を復元せずに「ポリシー」を復元することできません。
また、異なる KEY-ID を設定した SUHManager で出力した「ポリシー」を復元することはありません。

ヒント

パソコンを入れ替える場合

SUHManager をインストールしているパソコンを入れ替える場合、本機能を利用すると環境を移行できます。
詳しくは、[【パソコンを入れ替える場合（環境移行する）】（137 ページ）](#)をご覧ください。

■ KEY-ID

以下を表示します。
Date：KEY-ID の生成日
Note：KEY-ID 生成時に入力したメモ

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

49

SUHManager の操作ログを表示する

保存可能なログは最大 10,000 件です。
10,000 件を超えた場合、最も古いログから順に上書きして保存されます。



操作ログ	
検索	入力した文字列をログの中から検索します。
日時	操作した日付・時間
操作内容	操作内容
シリアルナンバー	操作対象のデバイスのシリアルナンバー ※デバイスに貼られているハードウェアシリアル番号 (S/N) ではなく、デバイス自体の個別情報です。
備考	操作対象のパソコン情報等を表示
全削除	操作ログをすべて消去します。
CSV出力	CSVファイル形式で操作ログを出力します。

▼操作内容一覧

操作内容	
起動	SUHManagerを起動した。
起動失敗 - パスワードミス	誤った起動パスワードを入力し、SUHManagerの起動に失敗した。
終了	SUHManagerを終了した。
USBメモリー認識 USBハードディスク認識	対象デバイスを認識した。
USBメモリー取り外し USBハードディスク取り外し	対象デバイスが取り外された。
USBメモリーリストから削除 USBハードディスクリストから削除	デバイスリストから選択したデバイス情報を削除した。
USBメモリーリストをCSVファイルに保存 USBハードディスクリストをCSVファイルに保存	デバイスリストをCSV形式のファイルに保存した。
パスワード変更	対象デバイスのパスワードを変更した。
パスワード変更失敗	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定した。
パスワード変更失敗 - ミス連続回数が制限値に到達	現在のパスワードに誤ったパスワードを設定し、既定ミス回数に達した。
パスワード変更失敗 - ミス連続回数が制限値に到達 (2)	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定し、最大累積ミス回数 (100回) に達した。
許可設定	パソコンの許可設定をした。

許可候補設定	パソコンの許可候補設定をした。
PCリストに追加	PCリストにパソコン情報が追加された。
PCリストから削除	PCリストからパソコン情報を削除した。
パスワードロック解除承認コード発行	パスワードロック解除承認コードを発行した。
パスワードロック解除承認コード発行 - 失敗	パスワードロック解除コードの発行に失敗した。
パスワードミスリセット	対象デバイスのパスワードミス回数をリセットした。
パスワード修復	対象デバイスのパスワードを修復した。
パスワード修復 - 失敗	対象デバイスのパスワードの修復に失敗した。
書き込み禁止	データ保存領域を書き込み禁止状態にした。
書き込み許可	データ保存領域を書き込み可能状態にした。
初期化	対象デバイスを初期化した。
ポリシー編集	[ポリシー] を編集した。
標準ポリシー変更	標準で表示されるポリシーを変更した。
SUReset4/SHReset出力	SUReset4/SHResetを出力した。
CK-SetInfo出力	CK-SetInfoを出力した。
使用期間設定ツール出力	使用期間設定ツールを出力した。
起動パスワード有効	SUHManagerの起動パスワードを設定した。
起動パスワード無効	SUHManagerの起動パスワードを解除した。
USBメモリー操作ログを削除 USBハードディスク操作ログを削除	対象デバイスの操作ログを削除した。
USBメモリー操作ログをファイルに保存 USBハードディスク操作ログをファイルに保存	対象デバイスの操作ログをファイルに保存した。
パスワード修復承認コード発行	パスワード修復承認コードを発行した。
パスワード修復承認コード発行 - 失敗	パスワード修復承認コードの発行に失敗した。
廃棄ツール出力	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールを出力した。※USBメモリーのみ
マスターコード 設定	マスターコードを設定・変更した。
アップデート 確認	アップデート有無を確認した。
アップデート 発見	新しいバージョンが公開されていることを発見した。
起動時にアップデート確認設定	SUHManager起動時のアップデート確認動作の設定をした。
プロキシ設定 変更	プロキシ設定を変更した。
バックアップ 実行	各種データファイルをバックアップした。
復元 実行	各種データファイルを復元した。

デバイス操作ログを確認する

SUGate4/SHGate などの操作ログを確認します。
保存可能なログは最大 1,000 件です。
1,000 件を超えた場合、最も古いログから順に上書きして保存されます。

1 SUHManagerを起動します。

ヒント

まだデバイスを接続しないでください
SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

2 設定するデバイスをクリックします。

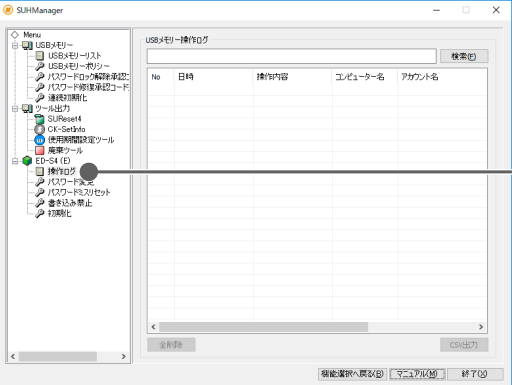


デバイスを選び、クリック

3 デバイスをパソコンのUSBポートに接続します。

※初期化済みのデバイスを接続してください。

4 [操作ログ]をクリックします。



クリック

操作ログ	
検索	入力した文字列をログの中から検索します。
日時	操作した日付・時間
操作内容	操作内容
コンピューター名	操作したコンピューター (パソコン) 名 ※Macでコンピューター名に日本語を使用している場合、ローマ字に変換して表示されます。
アカウント名	利用者(ユーザー名)
MAC	パソコンのMACアドレス
備考	操作したアプリケーション名を表示
全削除	操作ログをすべて消去します。
CSV出力	CSVファイル形式で操作ログを出力します。

▼操作内容一覧

操作内容	
ログイン	ログインした。
ログイン (書き込み禁止)	SUGate4/SHGateにて「書き込み禁止」にチェックをつけた状態でログインした。
ログイン - 失敗	ログインに失敗した。
ログイン - 失敗 [パスワードミス]	誤ったパスワードでログインしようとした。
ログイン - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達]	誤ったパスワードでログインしようとし、最大連続ミス回数に達した。
ログイン - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達(2)]	誤ったパスワードでログインしようとし、最大累積ミス回数 (100回) に達した。
パスワード変更	パスワード変更をした。
パスワード変更 - 失敗[パスワードミス]	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定した。
パスワード変更 - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達]	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定し、最大連続ミス回数に達した。
パスワード変更 - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達(2)]	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定し、最大累積ミス回数 (100回) に達した。
パスワード設定	SUGate4/SHGate初回起動時のパスワードを設定した。
パスワード設定 - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達]	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定し、最大連続ミス回数に達した。
パスワード設定 - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達(2)]	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定し、最大累積ミス回数 (100回) に達した。
パスワード修復申請コード発行	遠隔パスワード修復用の申請コードを発行した。
パスワードロック解除申請コード発行	遠隔ロック解除用の解除申請コードを発行した。
パスワード有効期限切れ	ポリシーで設定したパスワード有効期限に達した。
パスワード修復	パスワード修復をした。
パスワード修復 - 失敗	パスワード修復に失敗した。
書き込み禁止	データ保存領域を書き込み禁止設定にした。
書き込み禁止 - 失敗	データ保存領域の書き込み禁止設定に失敗した。
書き込み許可	データ保存領域を書き込み可能状態にした。
書き込み許可 - 失敗	データ保存領域の書き込み許可に失敗した。
SUReset4/SHReset実行	SUReset4/SHResetで初期化した。
SUReset4/SHReset - 成功	SUReset4/SHResetでの初期化が正常に終了した。
SUReset4/SHReset - 失敗	SUReset4/SHResetでの初期化に失敗した。
パスワードミスリセット実行	SUHManagerでパスワードミスリセットをした。
パスワードミスリセット - 失敗	パスワードミスリセットに失敗した。
承認コードによるパスワード修復 - 成功	パスワード修復承認コードによるパスワード修復処理に成功した。

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

承認コードによるパスワード修復 - 失敗 [承認コード不適合]	誤ったパスワード修復承認コードで、パスワード修復処理をしようとした。
承認コードによるパスワードロック解除 - 成功	パスワードロック解除承認コードによるパスワードロック解除処理に成功した。
承認コードによるパスワードロック解除 - 失敗 [承認コード不適合]	誤ったパスワードロック解除承認コードで、パスワードロック解除処理をしようとした。
プログラム領域アップデート - 成功	プログラム領域をアップデートした。
プログラム領域アップデート - 失敗	プログラム領域のアップデートに失敗した。
プログラム領域アップデート - 発見	プログラム領域のアップデートが見つかった。
プログラム領域アップデート - キャンセル	プログラム領域のアップデートをキャンセルした。
TMUSBアクティベーション	TMUSBのアクティベーションをした。
TMUSBライセンス更新	TMUSBライセンスを更新した。
TMUSBライセンス更新 - 失敗	TMUSBライセンスの更新に失敗した。
アップデート - 成功	別途提供するデバイス用アップデーター等でアップデートした。
アップデート - 失敗	別途提供するデバイス用アップデーター等でのアップデートに失敗した。
アップデート - 発見	アップデートを発見した。
その他アップデート	別途提供するその他のアップデーター等でアップデートした。
その他アップデート - 失敗	別途提供するその他のアップデーター等でのアップデートに失敗した。
使用期間制限 - 期間設定	使用期間設定ツールで、使用期間を設定した。
使用期間制限 - 使用開始	使用期間内で初めて利用した。
使用期間制限 - 期間超過	使用期間を超えて利用しようとした。
LanScope Cat未起動	LanScope Catが動作していない環境で、SUGate4を実行し、起動が制限された。

パスワードを変更する

SUHManager で初期化したデバイスのパスワードおよびヒントを変更します。
パスワードおよびヒントを変更しても、デバイス内のデータは消去されません。
※パスワードを設定していないデバイスは、パスワード変更はできません。

注 意

以下の場合、パスワード変更はできません

- ・パスワードを忘れてしまったとき
- ・累積パスワードミス回数が 99 回に達したとき

SUHManager で初期化が必要です。初期化するとデータ保存領域内のデータはすべて消去されます。
※ [\[マスターコード機能 \(18 ページ\) \]](#) を ON にしている場合、[\[パスワード修復機能 \(59 ページ\) \]](#) を使うことで、パスワードを再設定（実質パスワードの変更）できます。

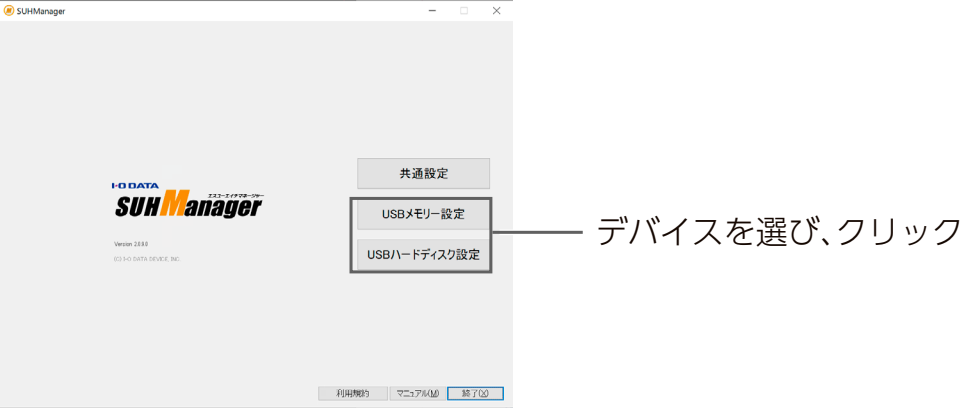
1 SUHManagerを起動します。

ヒント

まだデバイスを接続しないでください

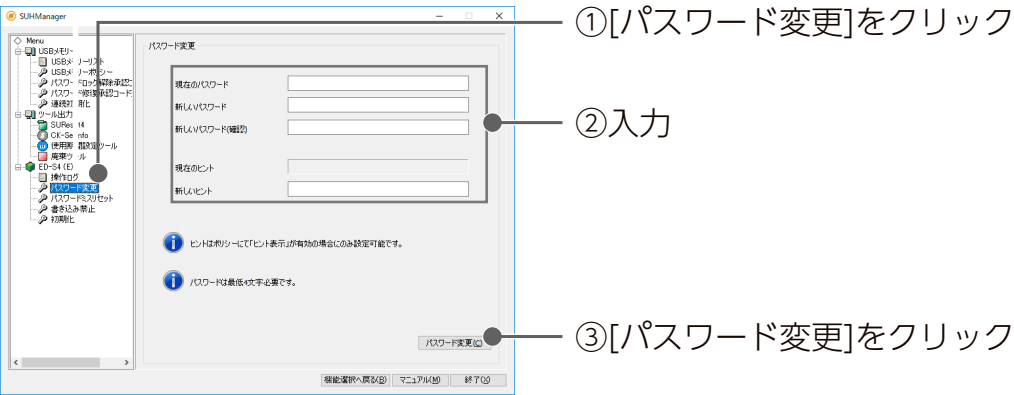
SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

2 設定するデバイスをクリックします。



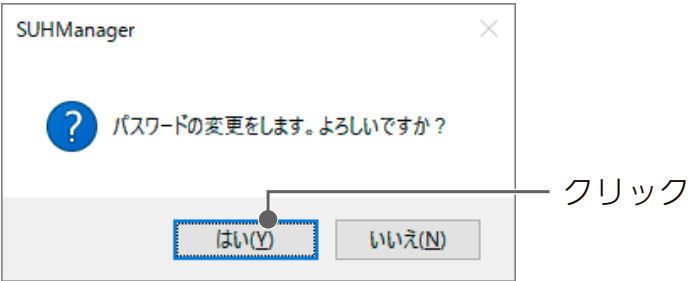
3 デバイスをパソコンのUSBポートに接続します。

4 パスワードを変更します。

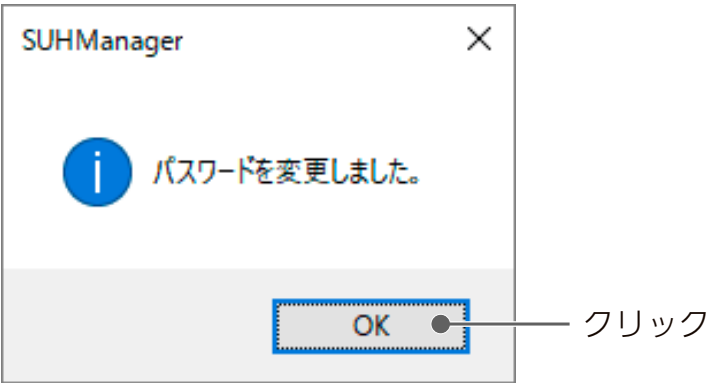


現在のパスワード	現在設定されているパスワードを入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したポリシーにより異なります。) ※大文字・小文字は区別されます。
新しいパスワード	新たにパスワードとして設定する文字列を入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したポリシーにより異なります。) ※大文字・小文字は区別されます。
新しいパスワード(確認)	「新しいパスワード」と同じ文字列を入力します。
現在のヒント	現在設定されているヒントを表示します。
ヒント	任意で、新たにヒントとして設定する文字列を入力します。 (最大64文字) ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。

5 [はい]をクリックします。



6 [OK]をクリックします。



以上で、パスワード・ヒントの変更は完了です。

パスワードの連続ミス回数をリセットする

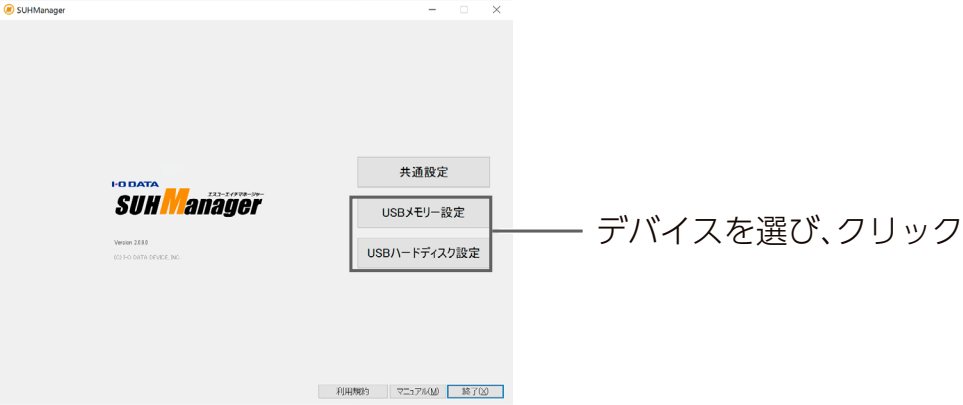
パスワード入力の連続ミス回数をリセットします。
ログインやパスワード変更時にパスワード入力を連続でミスして、デバイスにログインできなくなった場合に、このリセットにより再びログイン操作ができるようになります。(パスワードミス可能回数は設定したポリシーにより異なります)

1 SUHManagerを起動します。

ヒント

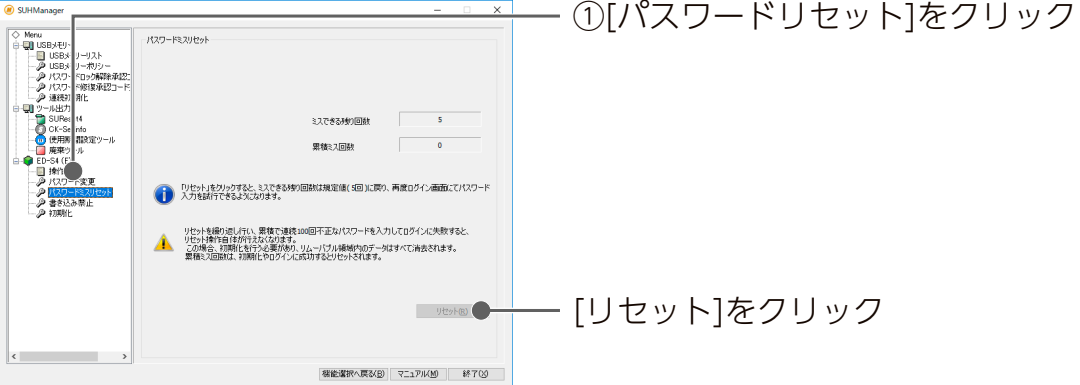
まだデバイスを接続しないください
SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

2 設定するデバイスをクリックします。



3 デバイスをパソコンのUSBポートに接続します。

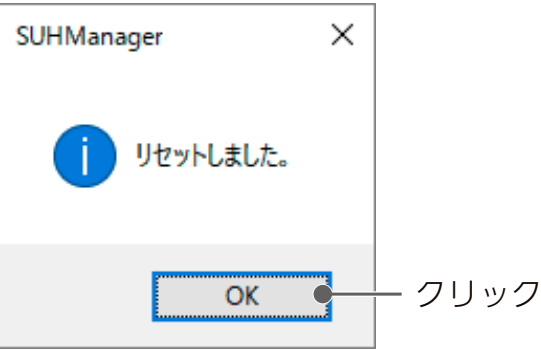
4 パスワードミス回数をリセットします。



ミスできる残り回数	パスワードをミスできる残り回数。 ログインやパスワードの変更に成功、または初期化するとポリシーで設定したパスワード連続ミス回数に戻ります。
累積ミス回数	累積のパスワードミス回数。 ログインやパスワードの変更に成功、または初期化すると"0"に戻ります。
リセット	パスワードの連続ミス回数をリセットします。 入力ミスを一回もしていない状態や累積ミス回数が100の状態ではリセットできません。

ヒント 連続で入力ミスをして、一度ログインまたはパスワード変更ができれば、ミス回数は自動でリセットされます

5 [OK]をクリックします。



⇒ [ミスできる残り回数] がポリシーで設定したパスワード連続ミス回数に戻ります。

以上で、パスワードの連続ミス回数のリセットは完了です。

注 意 リセットを繰り返し、累積で連続 100 回パスワード入力ミスすると、リセット自体できなくなります
その場合、初期化する必要があります、データ保存領域内のデータはすべて消去されます。

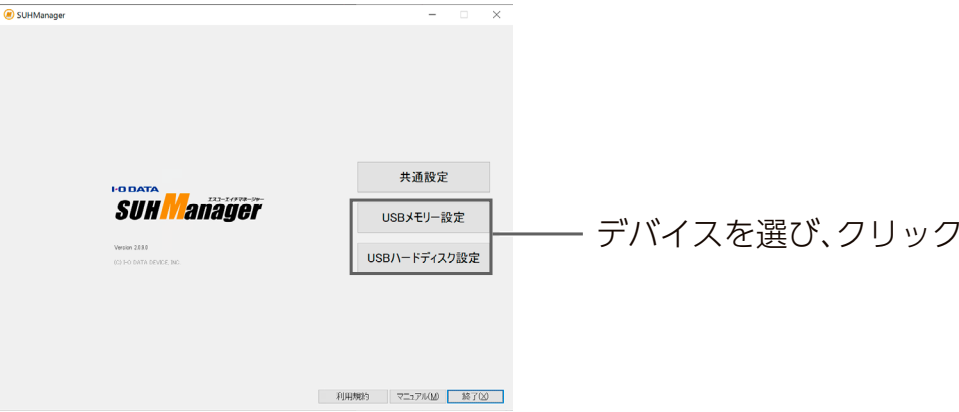
パスワードを修復する

パスワードを忘れた場合などに、次回に接続した時に再設定するためのパスワード入力 (再設定) 画面を表示できるようにします。
パスワードおよびヒントを変更しても、デバイス内のデータは消えません。
※ポリシーで「[マスターコード \(18 ページ\)](#)」の項目をあらかじめ有効にしておく必要があります。

1 SUHManagerを起動します。

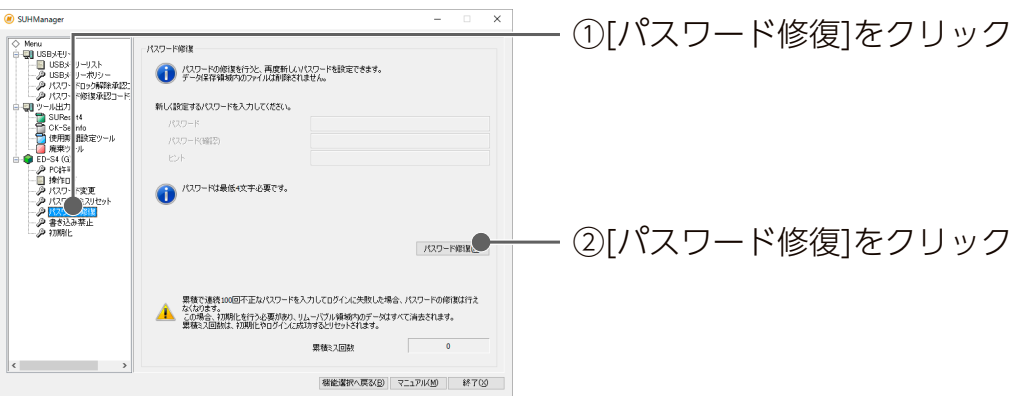
ヒント まだデバイスを接続しないでください
SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

2 設定するデバイスをクリックします。



3 デバイスをパソコンのUSBポートに接続します。

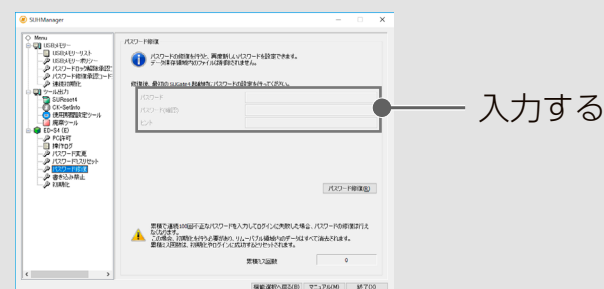
4 パスワードを修復します。



ヒント

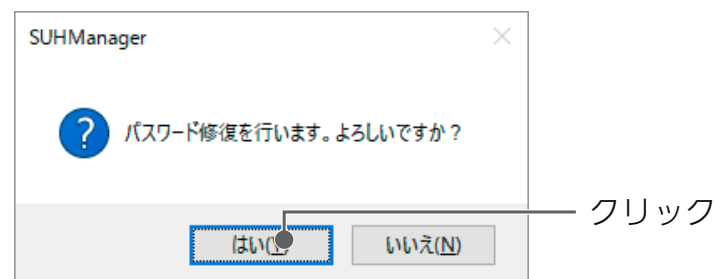
デバイスに適用中のポリシーの「初回起動時強制パスワード設定」が[OFF]になっている場合

パスワードとヒント（任意）を設定します。

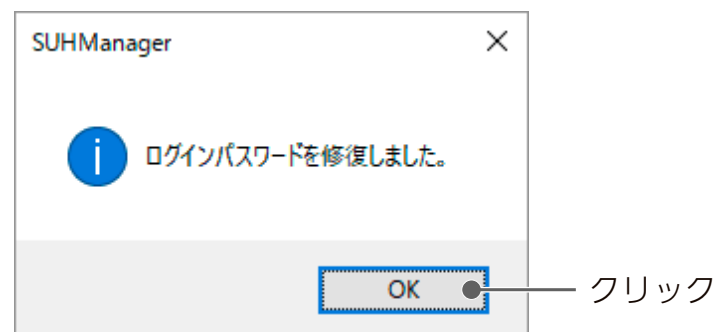


パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したポリシーにより異なります) ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード (確認)	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。(最大64文字) ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。

5 [はい]をクリックします。



6 [OK]をクリックします。



以上で、パスワード修復は完了です。

注 意 累積で連続 100 回パスワード入力ミスすると、パスワード修復はできなくなります
その場合、初期化する必要があり、データ保存領域内のデータはすべて消去されます。

書き込み禁止にする

データ保存領域を書き込み禁止にすることができます。

※ ED-SV4 シリーズで [\[ウイルスチェック機能 \(21 ページ\)\]](#) が [ON] の場合は、本機能をご使用いただけません。

1 SUHManagerを起動します。

ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください

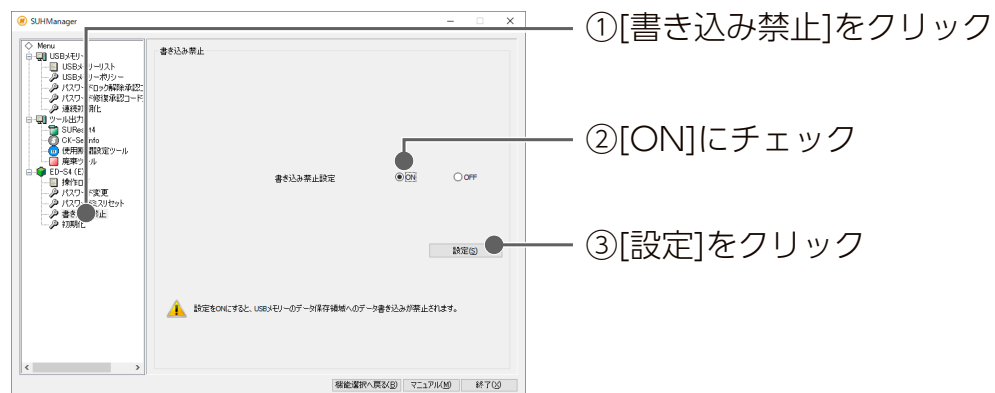
SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。USB メモリーを取り外してください。

2 USBメモリーをクリックします。



3 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

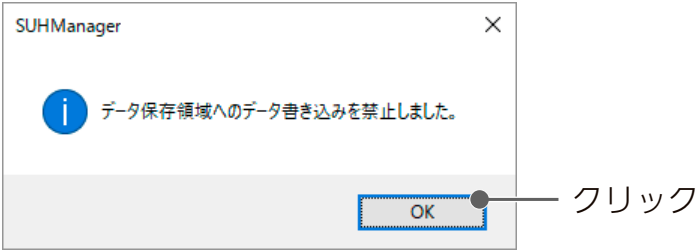
4 書き込み禁止設定をします。



ヒント

書き込み禁止設定を解除する場合は、[OFF]にチェックをつけます

4 [OK]をクリックします。



以上で、書き込み禁止設定は完了です。

初期化したデバイスの情報を確認する

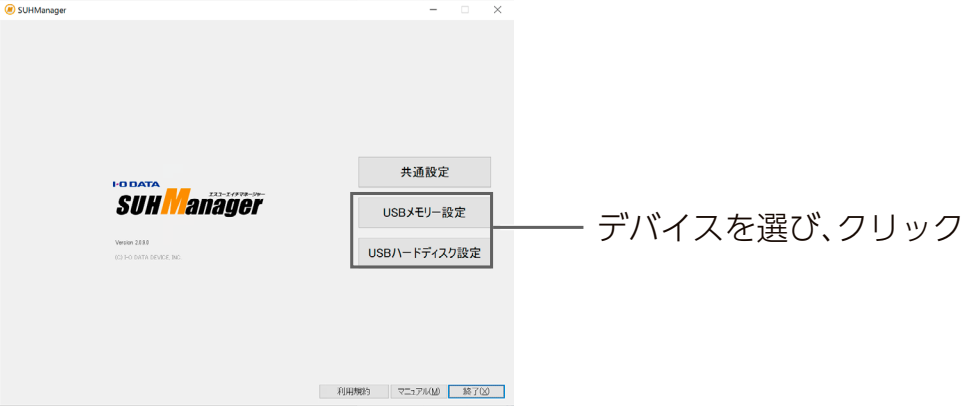
SUHManager で初期化したデバイスの情報を表示します。

1 SUHManagerを起動します。

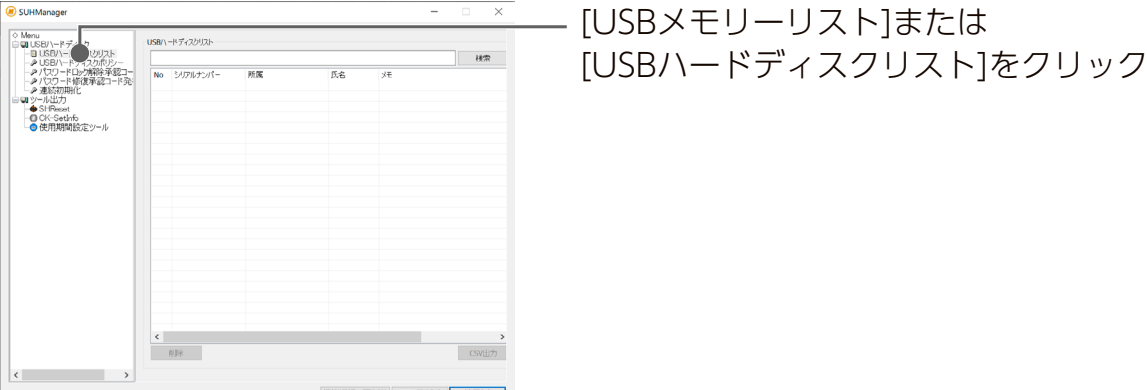
ヒント

まだデバイスを接続しないでください
SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

2 設定するデバイスをクリックします。



3 デバイス情報を表示します。

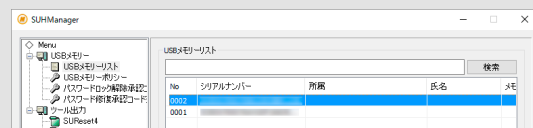


シリアルナンバー	初期化したデバイスのシリアルナンバー ※デバイスに貼られているハードウェアシリアル番号 (S/N) ではなく、デバイス自体の個別情報です。
所属	初期化時に入力した登録情報を表示します。下記、[登録情報編集]の手順で任意に変更することができます。
氏名	
メモ	
ハードウェアシリアル番号	デバイスのリストから、該当するデバイスを削除します。
削除	
CSV出力	CSVファイル形式でデバイス情報を出力します。 デバイスのシリアルナンバーなどの一覧を作成する場合などに便利です。

ヒント

登録情報を編集する場合

①情報を変更したいデバイスのリストをダブルクリックします。



②所属 / 氏名 / メモのそれぞれの欄に、任意の文字列を入力し、[OK] をクリックします。



初期化したデバイスの情報をリスト出力する

SUHManager で初期化したデバイスの情報を CSV 形式でリスト出力します。

1 SUHManagerを起動します。

ヒント

まだデバイスを接続しないでください

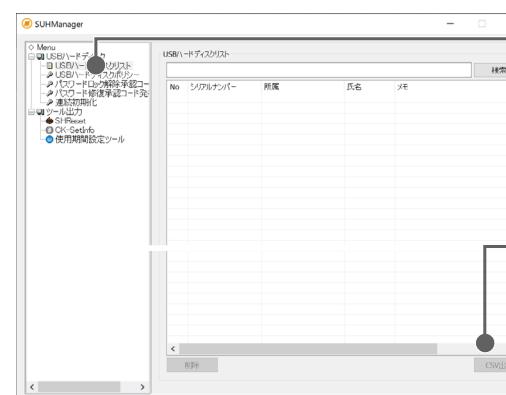
SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

2 設定するデバイスをクリックします。



デバイスを選び、クリック

3 デバイス情報を表示します。



①[USBメモリーリスト]または
[USBハードディスクリスト]をクリック

②[CSV出力]をクリック

ファイル名を指定して保存すると、デバイス情報の内容が CSV ファイルで出力されます。

PC 識別する

PC 識別機能を使うと、デバイスが動作するパソコンを限定できます。
※本機能は Mac ではご利用いただけません。

注 意 本機能を使う場合、デバイスを使うパソコンにネットワークアダプターが必要です

■ パソコン情報を取得し、SUHManager で許可設定をする

以下の手順でデバイスに使用するパソコンの許可設定をしてください。

Step1：ポリシーを設定する 67 ページ

Step2：デバイスを初期化する 69 ページ

Step3：PC 情報を収集する 71 ページ

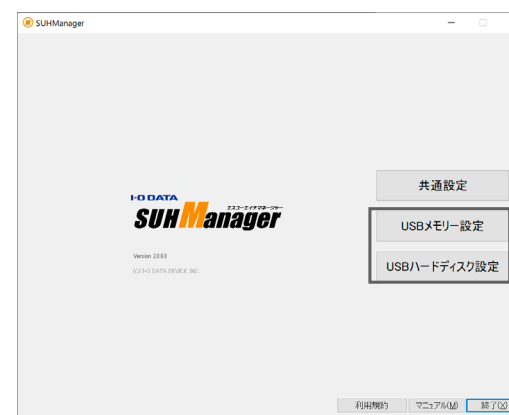
Step4：PC 許可する 75 ページ

- ヒント**
- デバイス内の許可 PC・許可候補 PC 情報を別のデバイスにコピーできます
【[許可情報のコピー](#)】(82 ページ) をご覧ください。
 - パソコンにデバイスを挿すと、許可されているパソコンかどうかデバイス内を検索します
※検索時間はデバイスを使用する環境により異なります。
パソコンの検索は途中でキャンセルできません。

Step1：ポリシーを設定する

1 SUHManagerを起動します。

2 設定するデバイスをクリックします。



3 ポリシー設定画面を表示します。



デバイスを選び、クリック

①[USBメモリポリシー]または[USBハードディスクポリシー]をクリック

②設定するポリシー名を選択

③[ポリシー編集]をクリック

4 [使用環境制限]の[PC識別]を[ON]にし、[設定]をクリックします。



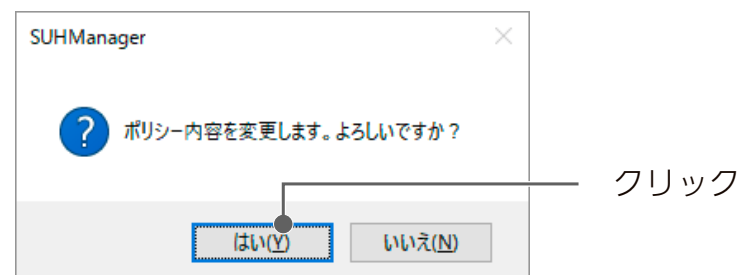
①[使用環境制限]タブをクリック

②[PC識別]を[ON]にチェック

③[設定]をクリック

※[PC識別]機能以外の項目は、任意で設定してください。

5 [はい]をクリックします。



以上で、ポリシーの設定は完了です。

[【Step2：デバイスを初期化する】](#) (69 ページ) にお進みください。

Step2：デバイスを初期化する

[PC 識別] 機能を [ON] にしたポリシーをデバイスに適用するために、初期化します。

注 意

- 必要なデータがある場合は、あらかじめデバイス内のデータのバックアップをしてください
初期化すると、データ保存領域のデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、初期化の前にデータを別のメディア（DVD やハードディスク）にコピーするなどして、バックアップをしてください。
- SUHManager で初期化したデバイスは、デバイス添付の初期化ソフトウェア SUReset4/SHReset では初期化できません
SUHManager から出力した SUReset4/SHReset を利用してください。
⇒ [【SUReset4 について】](#) (92 ページ) 参照

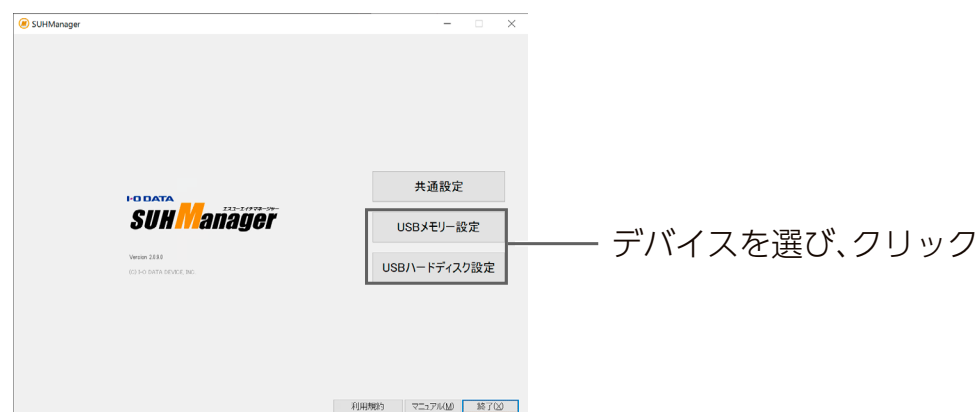
1 SUHManagerを起動します。

ヒント

まだデバイスを接続しないでください

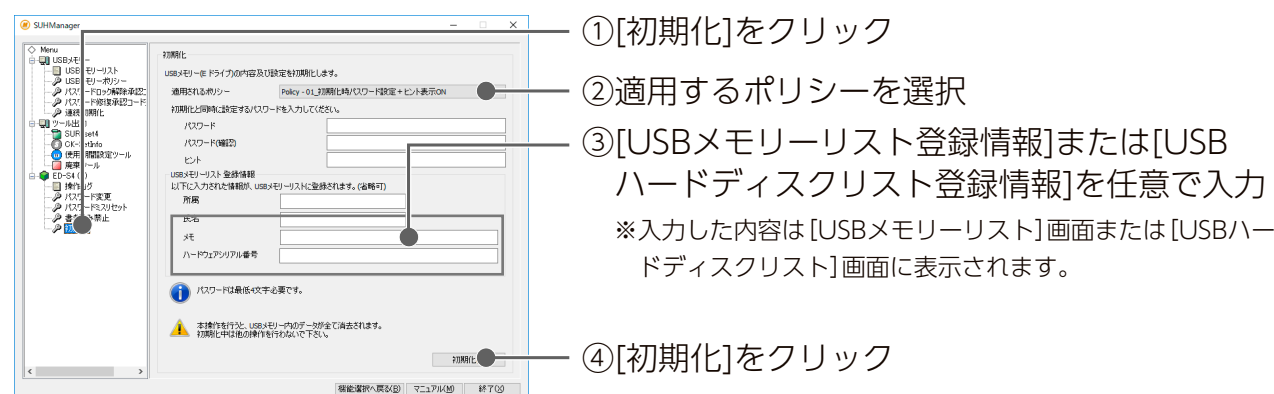
SUGate4/SHGate が動作していると SUHManager は起動しません。デバイスを取り外してください。

2 設定するデバイスをクリックします。



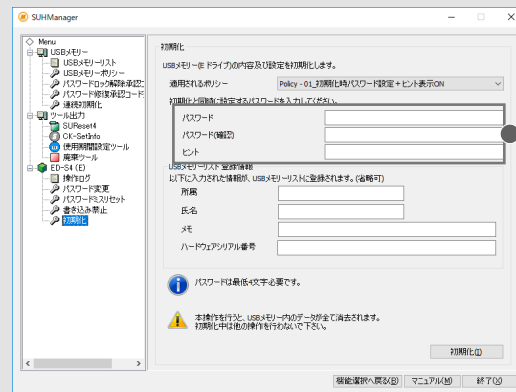
3 デバイスをパソコンのUSBポートに接続します。

4 [適用されるポリシー]にて[PC識別]機能を[ON]にしたポリシーを選択し、初期化します。



ヒント

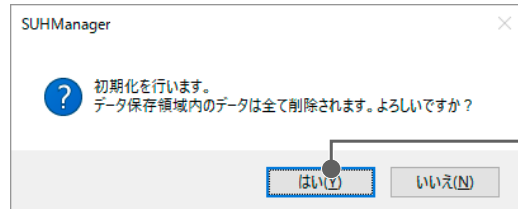
選択したポリシーが「初回起動時強制パスワード設定」を[OFF]にしている場合
初期化と同時に、パスワードとヒント（任意）を設定します。



入力する

パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したポリシーにより異なります) ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード(確認)	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。(最大64文字) ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。

5 確認画面が表示されるので、[はい]をクリックします。



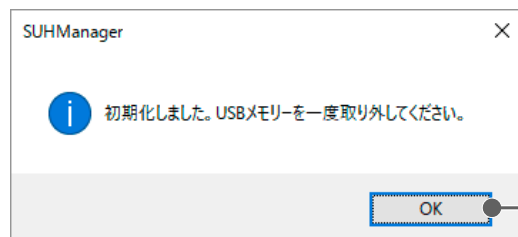
クリック

⇒初期化が始まります。

注意

初期化中、デバイスを取り外したり、他の操作をしないでください

6 [OK]をクリックします。



クリック

7 デバイスをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。

デバイスを使用する場合はSUHManagerを終了した後、挿しなおしてください。

以上で、デバイスの初期化は完了です。

[【Step3：PC 情報を収集する】\(71 ページ\)](#) にお進みください。

Step3：PC 情報を収集する

デバイスを使用するパソコンの情報を、SUHManager で許可する必要があります。

まずデバイスが使用できる許可 PC および許可候補 PC の情報を、以下のいずれかの手順で収集します。

▼[デバイスを使用するパソコンに接続する](#) 71 ページ

▼[デバイスを接続せずに PC 情報を収集する](#) 73 ページ

※デバイスを使用するパソコンが近くにない場合は「USB メモリーを接続せずに PC 情報を収集する」または「USB ハードディスクを接続せずに PC 情報を収集する」が便利です。

▼デバイスを使用するパソコンに接続する

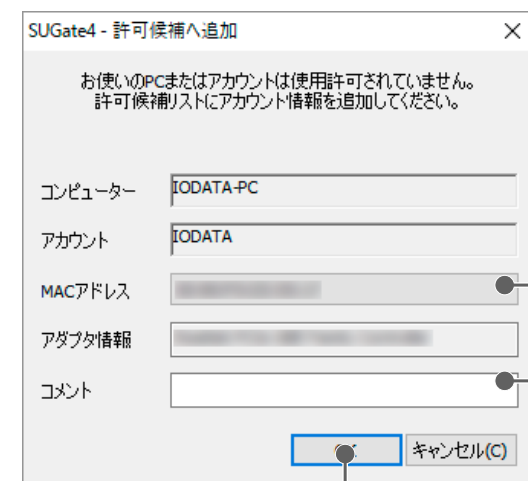
注意

- デバイスを使用するアカウントで操作してください
- 同一のパソコンでも、複数のアカウントで使用する場合は、使用するすべてのアカウントでの情報を収集する必要があります
- Active Directory 環境のように使用するパソコンが都度異なる場合には、使用するすべてのパソコンやそのアカウントの情報を収集する必要があります

管理者以外のユーザー（デバイスの使用者等）が本操作をすることもできます。

1 デバイスを使用するパソコンに接続し、SUGate4/SHGateを起動します。 ⇒許可候補へ追加画面が表示されます。

2 MACアドレスが複数ある場合は選択し、[OK]をクリックします。



①選択

②任意で入力

※コメントはPCリストに表示されます。

③クリック

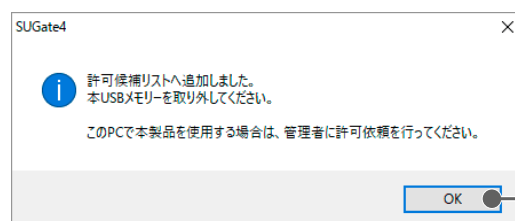
※画面は、USBメモリーの場合 (SUGate4)

ヒント

アダプター情報を参考に MAC アドレスを選択してください

取り外し可能なネットワークアダプターを選択した場合、デバイスの接続時にネットワークアダプターが接続されていないとパソコンが認証されず、ご使用いただけません。

3 [OK]をクリックします。



※画面は、USBメモリーの場合 (SUGate4)

4 デバイスをパソコンから取り外します。

※取り外し手順についてはデバイスに添付の取扱説明書をご覧ください。

5 デバイスを管理者へ渡します。

以上で、PC 情報の収集は完了です。

[【Step4：PC 許可する】\(75 ページ\)](#) にお進みください。

▼デバイスを接続せずに PC 情報を収集する

SUHGetInfoAG.exe を利用し、デバイスを接続せずに PC 情報を収集します。

注 意

- デバイスを使用するアカウントで操作してください
- 同一のパソコンでも、複数のアカウントで使用する場合は、使用するすべてのアカウントでの情報を収集する必要があります
- Active Directory 環境のように使用するパソコンが都度異なる場合には、使用するすべてのパソコンやそのアカウントの情報を収集する必要があります

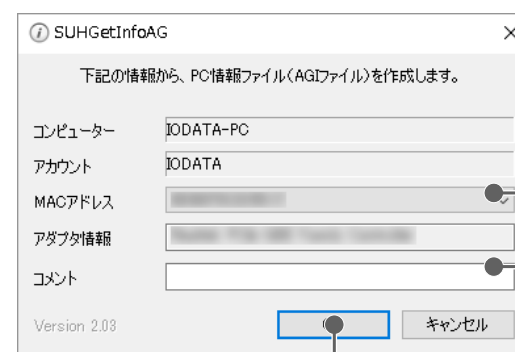
ヒント

- SUHGetInfoAG の対応 OS は [【動作環境】\(6 ページ\)](#) をご覧ください
- 管理者以外が agi ファイルを作成する場合
『SUHManager』CD-ROM 内の SUHGetInfoAG フォルダをユーザーに配布し、操作をしてもらってください。

1 「SUHGetInfoAG.exe」ファイルをユーザーのパソコンにコピーします。

2 コピーした「SUHGetInfoAG.exe」をダブルクリックします。

3 MACアドレスが複数ある場合は選択し、[OK]をクリックします。



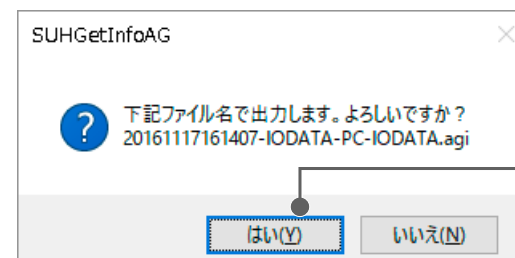
①選択

②任意で入力

※コメントはPCリストに表示されます。

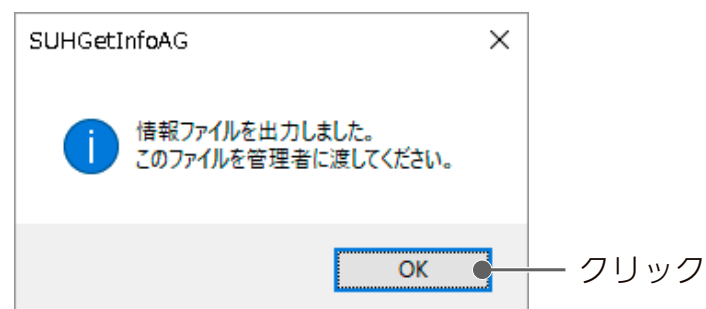
③クリック

4 [[はい] をクリックします。



③クリック

5 [OK]をクリックします。



agi ファイルは「SUHGetInfoAG.exe」が保存されている同じフォルダーに作成されます。

6 agiファイルを管理者へ渡します。

以上で、PC 情報の収集は完了です。

[【Step4：PC 許可する】（75 ページ）](#) にお進みください。

Step4：PC 許可する

【PC 情報を収集する】で集めたデバイスを使用するパソコンの情報を、SUHManager で許可します。

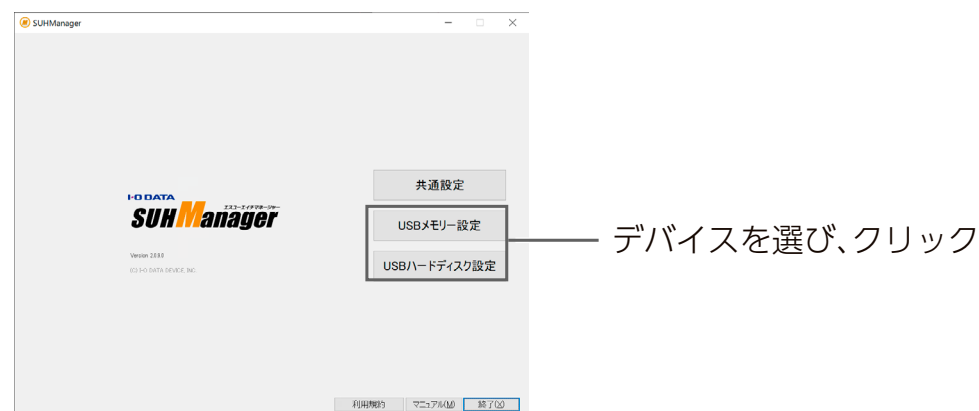
○デバイスを使用するパソコンに接続し、PC の情報を収集した場合

○SUHGetInfoAG.exe を利用して、PC の情報を収集した場合

▼デバイスを使用するパソコンに接続し、PC の情報を収集した場合

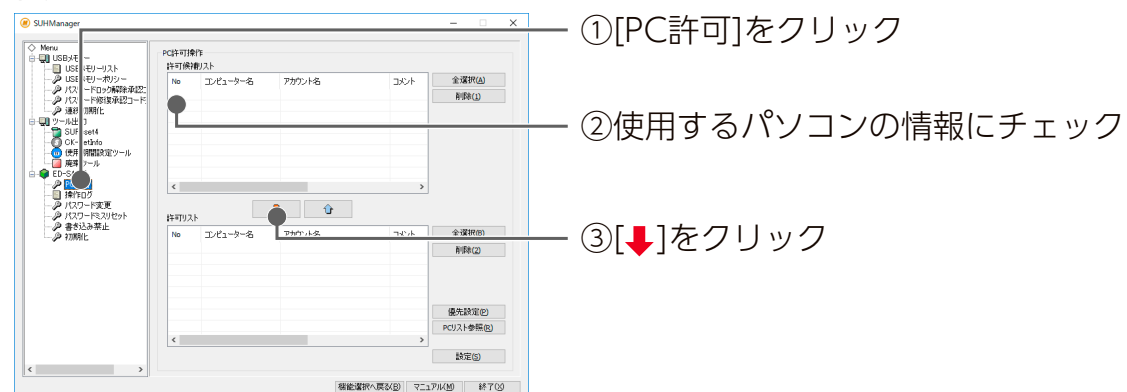
1 SUHManagerを起動します。

2 設定するデバイスをクリックします。



3 デバイスを管理者のパソコンに接続します。

4 使用するパソコンの情報を許可リストへ移動します。



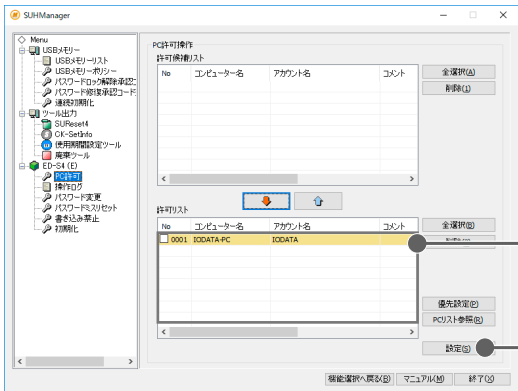
ヒント

[PC 許可操作] 表示内容一覧

選択されたパソコン情報は [↓] [↑] で許可候補リストや許可リストに移動します。

許可候補リスト	USBメモリーに保存されている許可候補PCのリスト
コンピューター名	コンピューター (パソコン) 名
アカウント名	パソコンのアカウント名
コメント	許可候補へ追加またはagiファイル作成時にコメントを入力した場合に表示されます。
MAC	MACアドレス
回数	許可したパソコンに接続した回数
全選択	リストの全項目を選択します。
削除	選択された項目を削除します。
優先設定	SUGate4/SHGateの使用許可PC探索時に、優先的に扱われるパソコンを設定します。(最大10台まで設定可能)
PCリスト参照	PCリストからパソコン情報を追加します。
設定	[許可リスト] の内容の設定を確定します。

5 許可リストに移動したことを確認し、[設定]をクリックします。



ヒント

● [設定] をクリックすることで、操作した内容が有効になります

● [優先設定] について

優先設定されたパソコンは、SUGate4/SHGate の使用許可 PC 探索時に、優先的に扱われます。

(最大 10 台まで設定可能。許可リスト No.0001 ~ 0010 まで。)

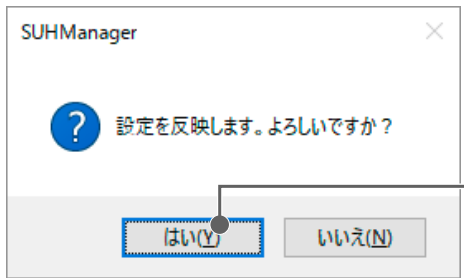
また、優先設定されていないパソコンについては、回数 (接続回数) の多いパソコンから順に上位 50 台までは優先的に探索されます。

① 許可リストから優先設定したいパソコンにチェックをつけます。

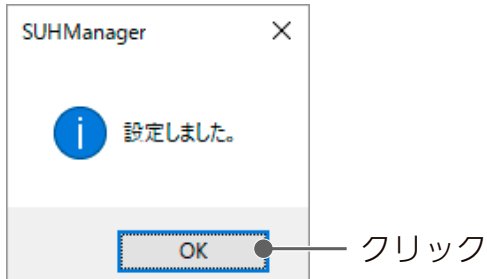
② [優先設定] をクリックします。

③ 優先設定されたパソコンが許可リストの上位に表示され、背景色がオレンジ色になります。

5 [はい]をクリックします。



6 [OK]をクリックします。



以上で使用 PC の許可設定は終了しました。
これで使用許可したパソコンで使用できます。

▼ SUHGetInfoAG.exe を利用を利用して PC 情報を収集した場合

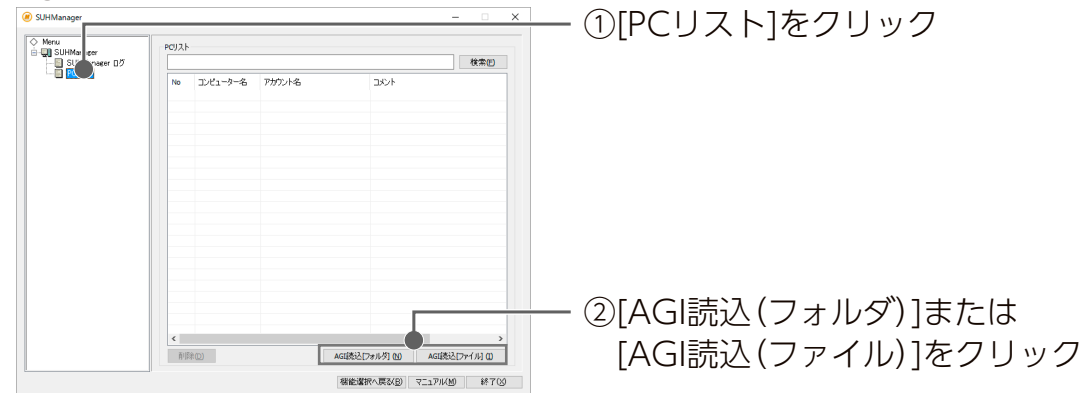
1 SUHManagerを起動します。

2 [共通設定]をクリックします。



3 デバイスを管理者のパソコンに接続します。

4 agiファイルを読み込みます。



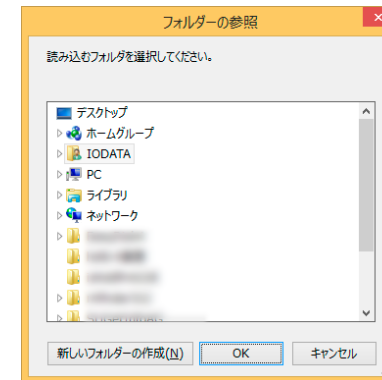
ヒント

[PC リスト] 表示内容一覧

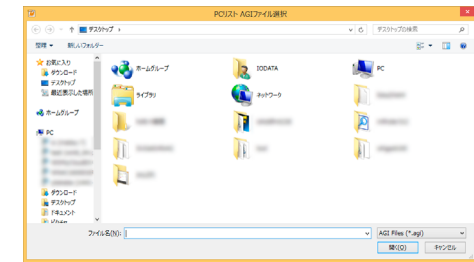
PCリスト	SUHManagerが保持しているPC情報のリスト
コンピューター名	コンピューター(パソコン)名
アカウント名	パソコンのアカウント名
コメント	許可候補へ追加またはagiファイル作成時にコメントを入力した場合に表示されます。
MAC	MACアドレス
削除	選択された項目を削除します。
フォルダから読み込む	指定されたフォルダ内に存在するすべてのagiファイルをインポートします。
ファイルから読み込む	指定したagiファイルをインポートします。

5 agiファイルまたはagiファイルがあるフォルダーを選択します。

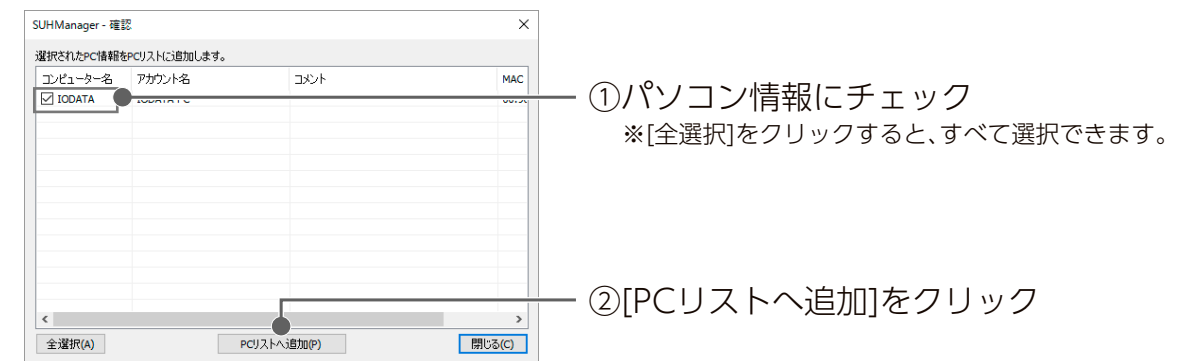
▼AGI読み込み(フォルダ)を指定した場合



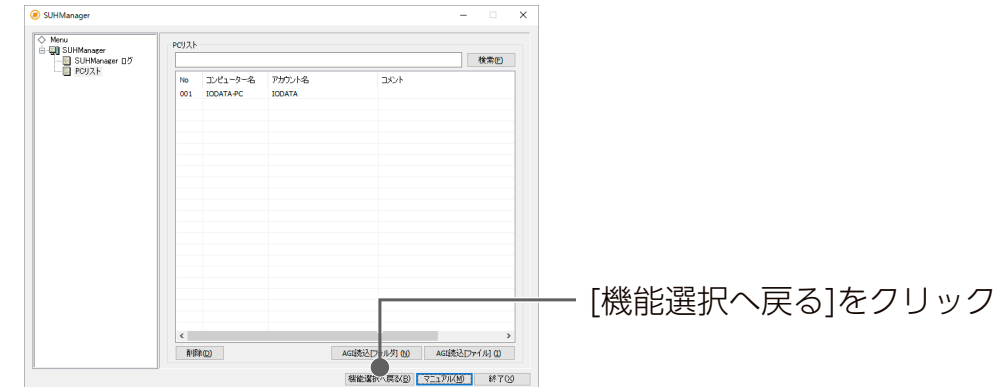
▼AGI読み込み(ファイル)を指定した場合



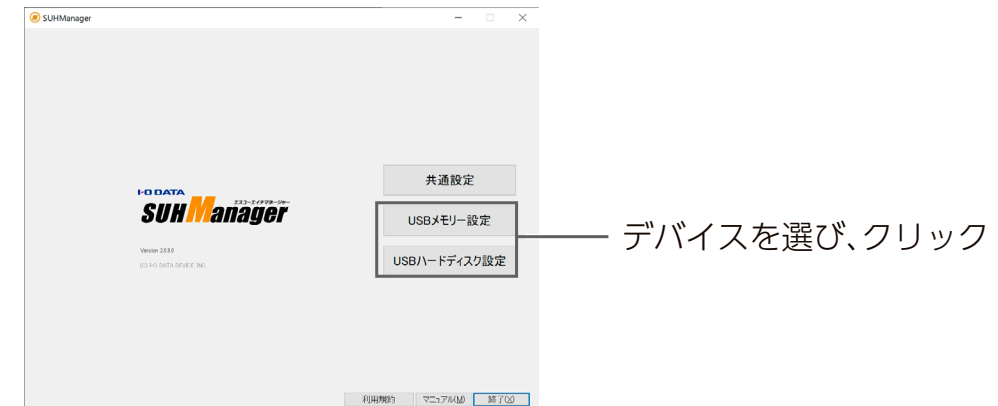
6 パソコンの情報をPCリストへ追加します。



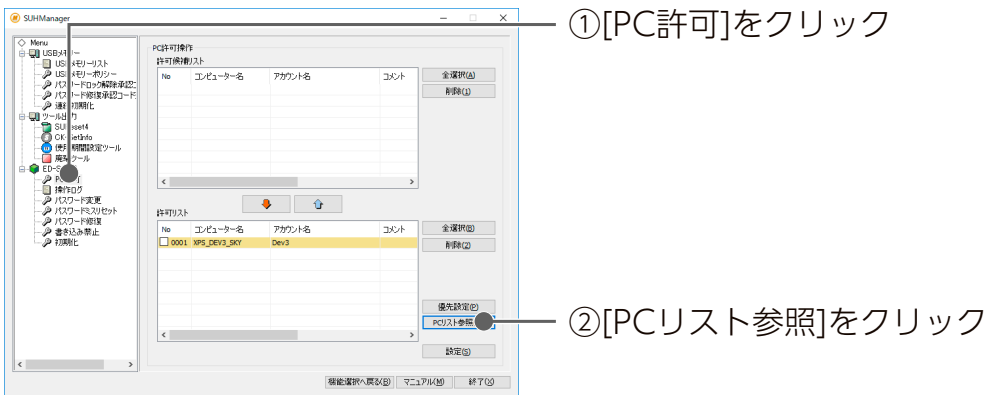
7 トップ画面に戻ります。



8 設定するデバイスをクリックします。



9 PCリストを参照します。



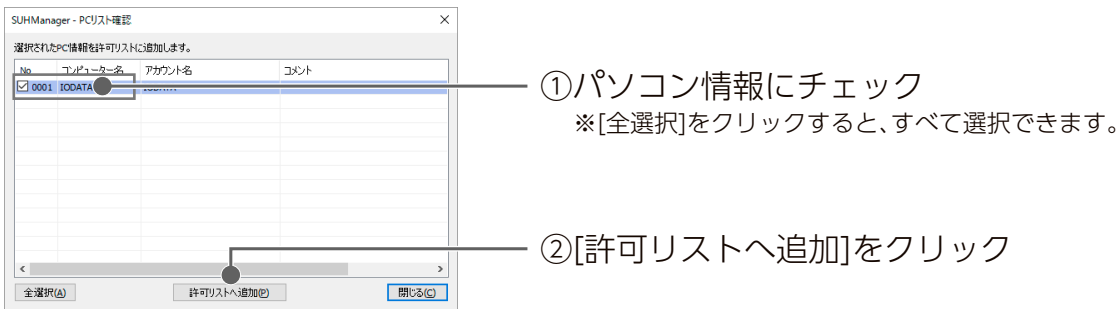
ヒント

[PC 許可操作] 表示内容一覧

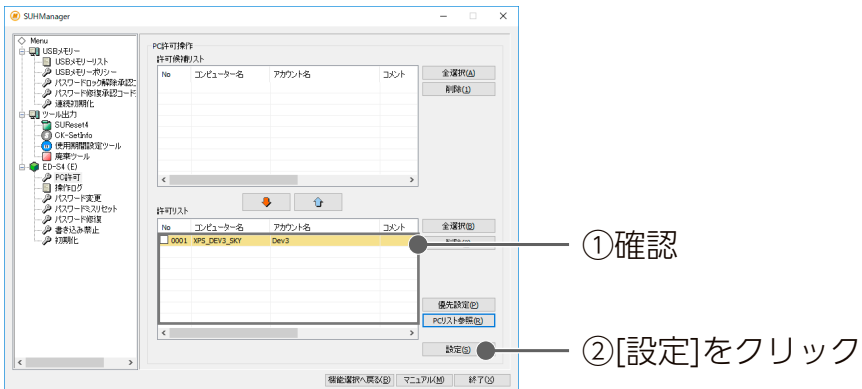
選択されたパソコン情報は [↓] [↑] ボタンで許可候補リストや許可リストに移動します。

許可候補リスト	デバイスに保存されている許可候補PCのリスト
コンピューター名	コンピューター (パソコン) 名
アカウント名	パソコンのアカウント名
コメント	許可候補へ追加またはagiファイル作成時にコメントを入力した場合に表示されます。
MAC	MACアドレス
回数	許可したパソコンに接続した回数
全選択	リストの全項目を選択します。
削除	選択された項目を削除します。
優先設定	SUGate4/SHGateの使用許可PC探索時に、優先的に扱われるパソコンを設定します。(最大10台まで設定可能)
PCリスト参照	PCリストからパソコン情報を追加します。
設定	[許可リスト]の内容の設定を確認します。

10 パソコンの情報を許可リストへ追加します。



11 許可リストに追加されたことを確認し、[設定]をクリックします。



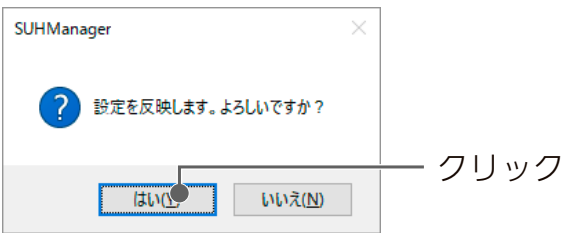
ヒント

● [優先設定] について

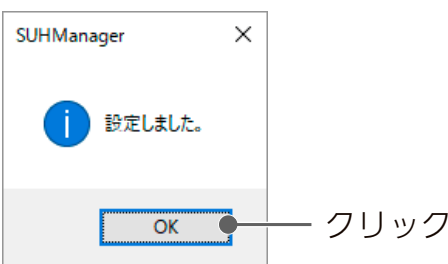
優先設定されたパソコンは、SUGate4/SHGateの使用許可 PC 探索時に、優先的に扱われます。
(最大 10 台まで設定可能。許可リスト No.0001 ~ 0010 まで。)
また、優先設定されていないパソコンについては、回数 (接続回数) の多いパソコンから順に上位 50 台までは優先的に探索されます。
① 許可リストから優先設定したいパソコンにチェックをつけます。
② [優先設定] をクリックします。
③ 優先設定されたパソコンが許可リストの上位に表示され、背景色がオレンジ色になります。

●許可、許可候補に設定する件数が多い場合は設定に時間がかかることがあります

12 [はい] をクリックします。



13 [OK] をクリックします。



ヒント

デバイス内に保存された許可 PC・許可候補 PC 情報は、別のデバイスにコピーできます
【[許可情報のコピー](#)】(82 ページ) 参照

■ 許可情報のコピー

デバイスに保存されている許可 PC・許可候補 PC 情報を、別のデバイスにコピーできます。同じ許可 PC・許可候補 PC 情報を、複数のデバイスに適用したい場合などに、PC 許可操作を簡略化することができます。

※ポリシーで[PC識別]を[ON]にしたデバイスを2本以上接続している場合のみ実行できます。
ただし、[PC識別]を[OFF]にしたデバイスを同時に接続している場合は実行されません。

1 SUHManagerを起動します。

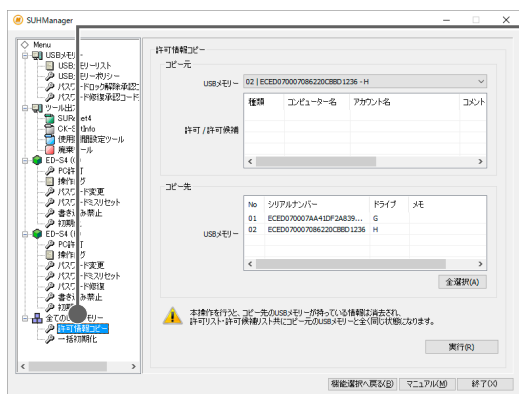
2 設定するデバイスをクリックします。



デバイスを選び、クリック

3 コピー元コピー先になるすべてのデバイスをパソコンのUSBポートに接続します。

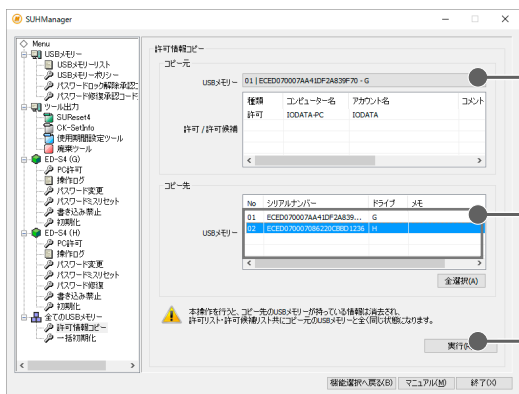
4 [許可情報コピー]をクリックします。



クリック ※画面はUSBメモリーの場合

コピー元	コピー元となるデバイスの情報を表示します。(最大4本まで)
USBメモリー	コピー元のデバイスを選択します。
許可/許可候補	コピー元に選択したデバイスが保有しているPC情報を表示します。
コピー先	コピー先となるデバイスリストを表示します。
USBメモリー	コピー先のデバイスを選択します。(最大3本まで)

5 許可情報のコピーを実行します。



①コピー元のデバイスを選択

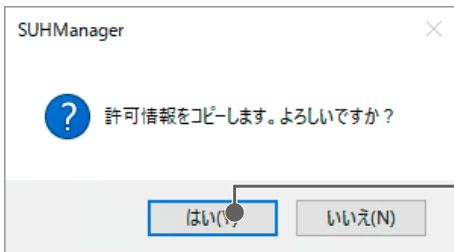
②コピー先のデバイスを選択
※複数選択できます。

③[実行]をクリック

注意

コピー先のデバイスが保有している PC 情報は消去されます
コピー元とコピー先の許可リスト、許可候補リスト情報は全く同じ状態になります。
※以下の場合、コピー動作は無視されます。
・コピー元とコピー先に同じ対応デバイスを選択したとき
・初期化をしていないデバイスを選択したとき

6 [はい]をクリックします。



クリック

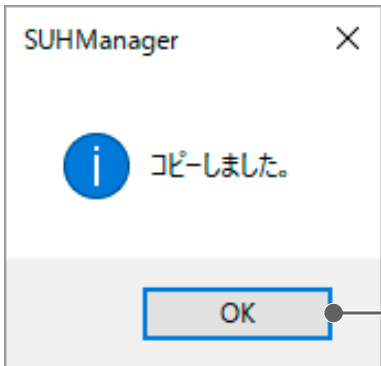
⇒コピーが開始されます。

※許可、許可候補に設定する件数が多い場合はコピーに時間がかかることがあります

注意

コピー中、デバイスを取り外したり、他の操作をしないでください

7 [OK]をクリックします。



クリック

8 すべてのデバイスをパソコンから取り外します。

以上でデバイスの許可情報のコピーは完了です。

注意

SUHManager 情報のバックアップ
管理者 PC が故障してしまった際など、収集した PC の情報等が失われてしまう恐れがあります。事前に SUHManager 情報をバックアップしておくことをおすすめします。(39 ページ参照)

パスワードロック解除承認コードを発行する

ユーザーが遠隔地にいる場合など管理者にデバイスを送付することが難しい場合に、ユーザーの手元でパスワードミス回数をリセットできます。

※本手順ではユーザー側の操作についても案内しています。

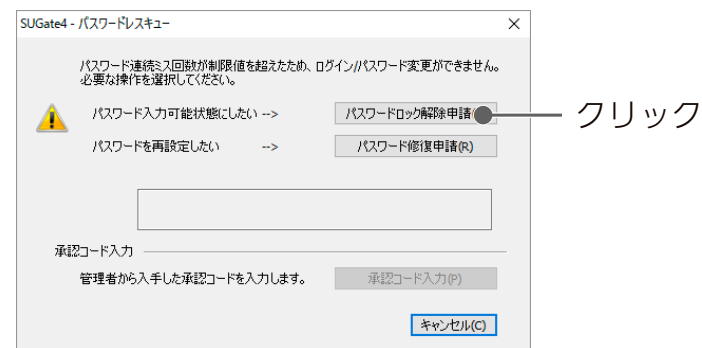
※本機能は Mac ではご利用いただけません。

ヒント 本機能を使うには、「パスワードミスロック遠隔解除」を[ON]にしたポリシーで、デバイスを初期化する必要があります

■ Step1 ユーザー側：解除申請コードを発行する

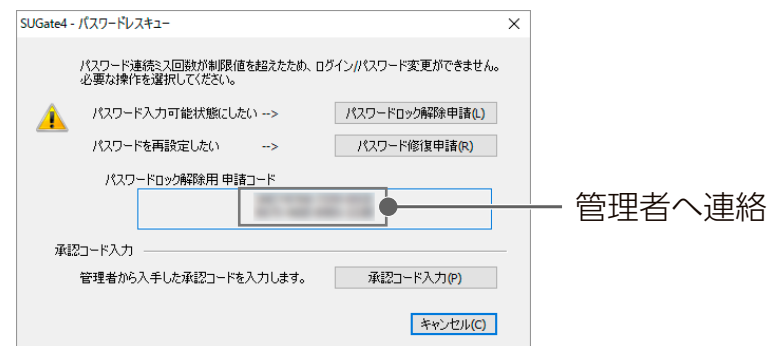
1 デバイスをパソコンに接続し、SUGate4/SHGateを起動します。

2 パスワードミスロック中は以下の画面が表示されます。
→[パスワード解除申請]をクリックします。



3 メッセージが表示されるので、[OK]をクリックします。

4 表示された解除申請コード (32桁) を管理者へ連絡します。

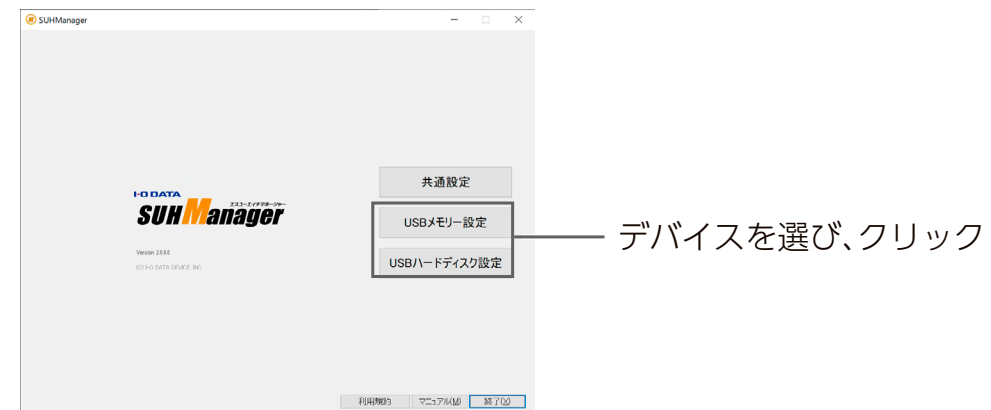


5 管理者から解除承認コード (40桁) の連絡を待ちます。

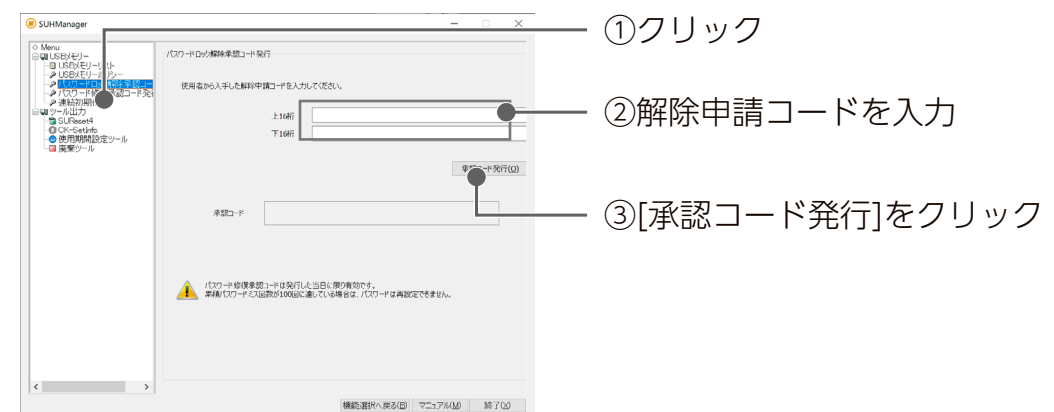
■ Step2 管理者側：解除承認コードを発行する

1 SUHManagerを起動します。

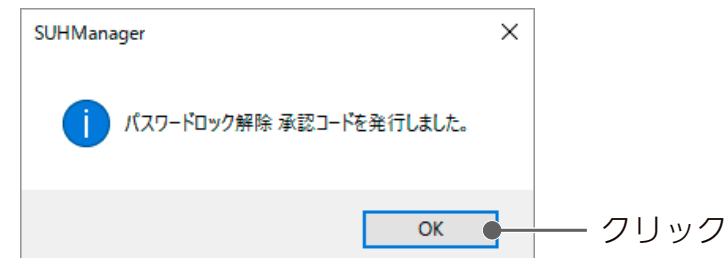
2 設定するデバイスをクリックします。



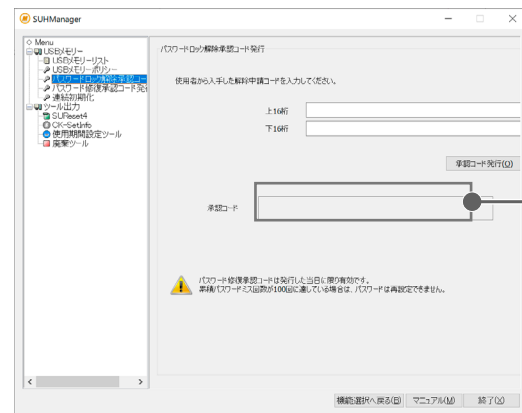
3 [パスワードロック解除承認コード] で、ユーザーから連絡を受けた解除申請コード (32桁) を入力します。



4 [OK]をクリックします。



5 表示された解除承認コードをユーザーに連絡します。



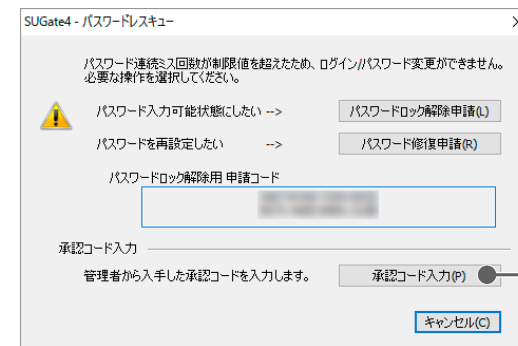
ユーザーへ連絡

注意 出力した解除承認コードは、その日のうちにユーザーに連絡してください
日付が変わる（深夜 0：00）と無効になり、再度解除承認コードの発行が必要になります。

■ Step3 ユーザー側：解除承認コードを入力する

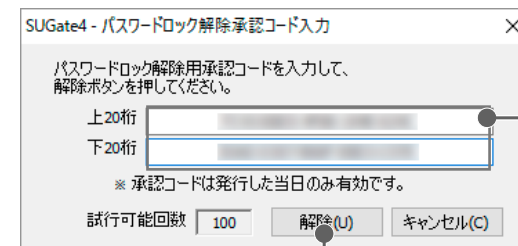
1 デバイスをパソコンに接続し、SUGate4/SHGateを起動します。

2 解除申請コードを発行した場合は以下の画面が表示されます。
→[承認コード入力]をクリックします。



クリック

3 管理者から連絡を受けた解除承認コード (40桁) を入力します。

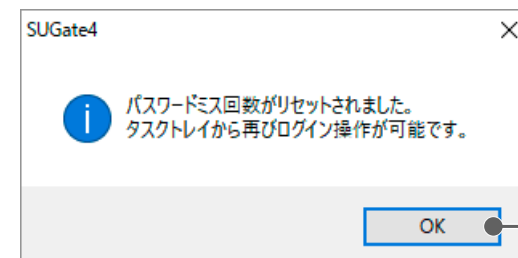


①解除承認コードを入力

②[解除]をクリック

注意 解除承認コードは、その日のうちに入力してください
日付が変わる（深夜 0：00）と無効になり、再度解除承認コードの発行が必要になります。

4 [OK]をクリックします。



クリック

5 パスワードミス回数がリセットされ、再度パスワードを入力できます。

以上でパスワードロック解除承認コードの発行は完了です。

パスワード修復承認コードを発行する

ユーザーが遠隔地にいる場合など管理者にデバイスを送付することが難しい場合に、ユーザーの手元でパスワードを再設定できます。

※本手順ではユーザー側の操作についても案内しています。

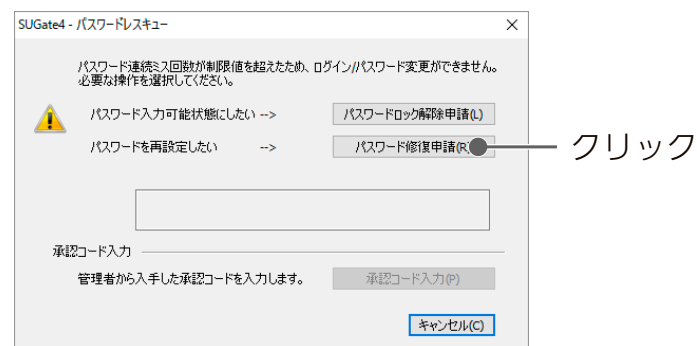
※本機能は Mac ではご利用いただけません。

- ヒント** 本機能を使うには、以下のポリシー設定で、デバイスを初期化する必要があります
- ・「マスターコード機能」を[ON]
 - ・「遠隔地パスワード修復機能」を[ON]

Step1 ユーザー側：修復申請コードを発行する

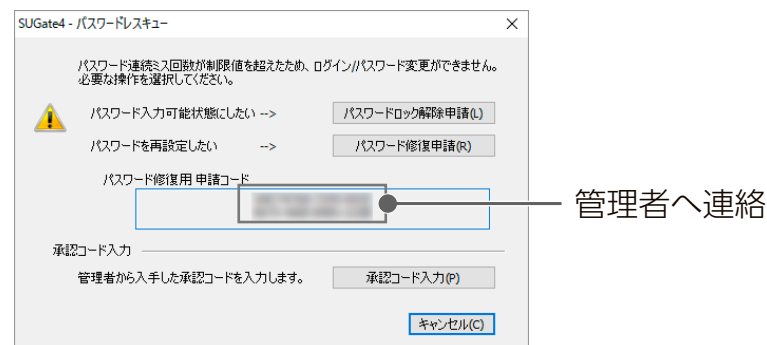
1 デバイスをパソコンに接続し、SUGate4/SHGateを起動します。

2 パスワードミスロック中は以下の画面が表示されます。
→[パスワード修復申請]をクリックします。



3 [OK]をクリックします。

4 表示された修復申請コード (32桁) を管理者へ連絡します。

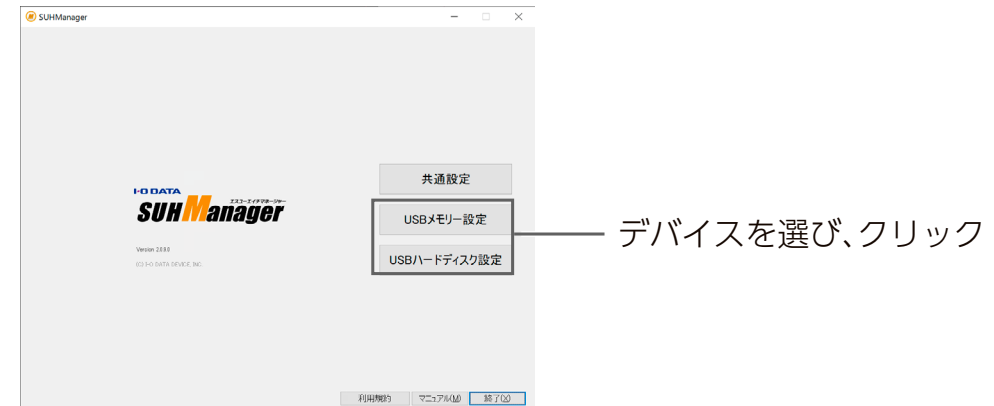


5 管理者からパスワード修復承認コード (40桁) の連絡を待ちます。

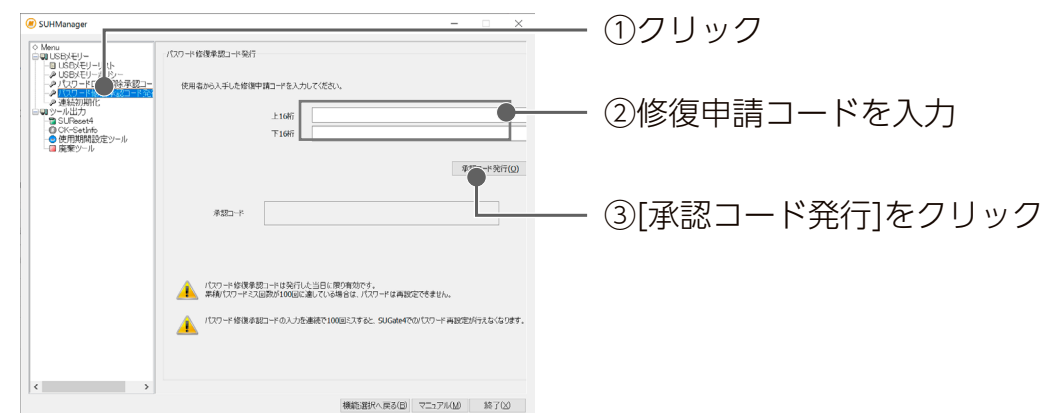
Step2 管理者側：修復承認コードを発行する

1 SUHManagerを起動します。

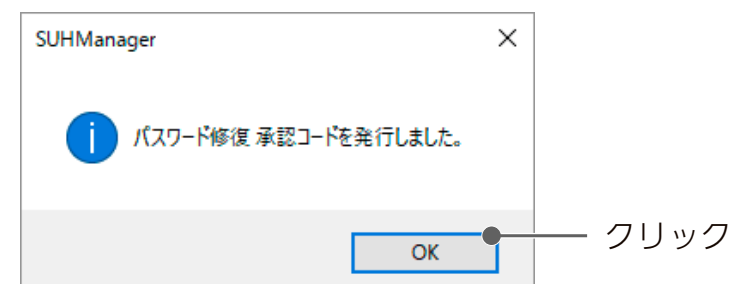
2 設定するデバイスをクリックします。



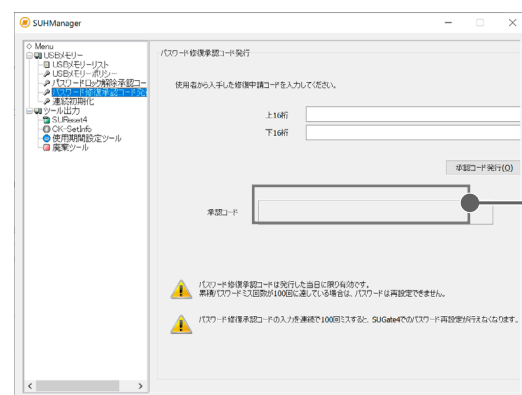
3 [パスワード修復承認コード] で、ユーザーから連絡を受けた修復申請コード (32桁) を入力します。



4 [OK]をクリックします。



5 表示されたパスワード修復承認コードをユーザーに連絡します。



ユーザーへ連絡

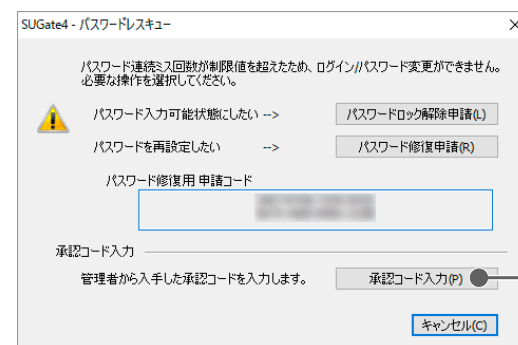
注意

出力した修復承認コードは、その日のうちにユーザーに連絡してください。日付が変わる（深夜 0：00）と無効になり、再度修復承認コードの発行が必要になります。

■ Step3 ユーザー側：：修復承認コードを入力する

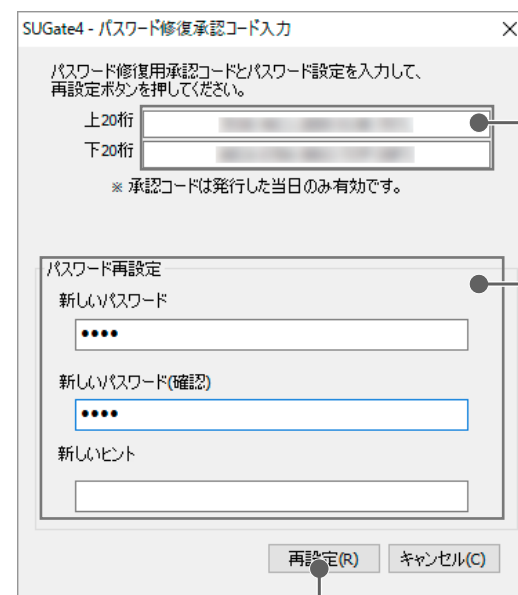
1 デバイスをパソコンに接続し、SUGate4/SHGateを起動します。

2 修復申請コードを発行した場合は以下の画面が表示されます。→[承認コード入力]をクリックします。



クリック

3 管理者から連絡を受けた修復承認コード (40桁) を入力し、パスワードを再設定します。



①解除承認コードを入力

②パスワード・ヒント(任意)を入力

③[再設定]をクリック

注意

修復承認コードは、その日のうちに入力してください

日付が変わる（深夜 0：00）と無効になり、再度修復承認コードの発行が必要になります。

4 [OK]をクリックします。

5 パスワードが再設定されました。タスクトレイのアイコンからログインできます。

以上でパスワード修復承認コードの発行は完了です。

SUReset4 について

SUReset4 は、USB メモリーを初期化するソフトウェアです。

SUHManager で初期化された USB メモリーを SUHManager がインストールされていない環境で初期化する場合、SUHManager で出力した SUReset4 を使用してください。

※ SUHManager で初期化された USB メモリーを初期化するには、SUHManager で出力した SUReset4 が必要です。

ヒント SUReset4の対応OSは【[動作環境](#)】(6ページ)をご覧ください

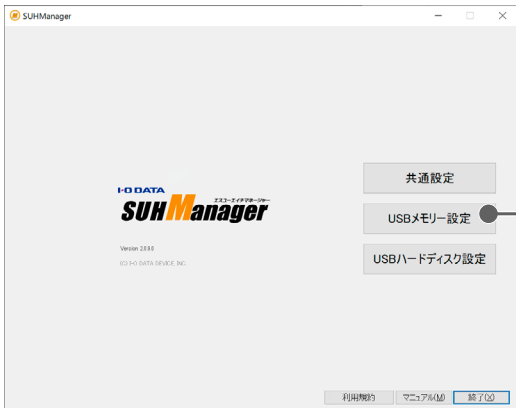
■ 出力する

注 意

- デバイスに添付の SUReset4 では初期化できません
SUHManager で初期化された USB メモリーは、USB メモリーに添付の SUReset4 では初期化できません。SUHManager から SUReset4 を以下の手順で出力し、ご利用ください。
- 「マスターコード機能」が [ON] のポリシーでは SUReset4 を出力できません
- SUReset4 で初期化しても、データ保存領域のサイズは変更されません
領域サイズを変更する場合は SUHManager で初期化してください。
([【デバイスを初期化する】](#) (29 ページ) 参照)

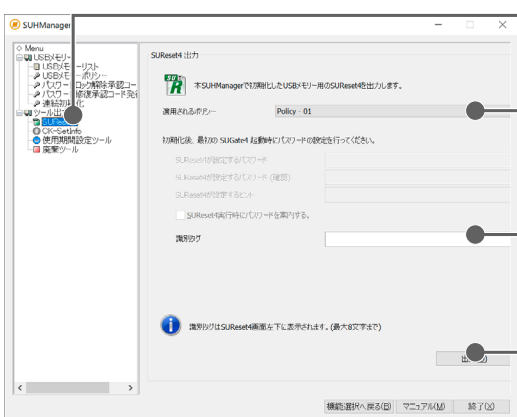
1 SUHManagerを起動します。

2 USBメモリーをクリックします。



USBメモリー設定をクリック

3 SUReset4を出力します。



①[SUReset4]をクリック

②USBメモリーに適用するポリシーを選択

③任意で入力(最大8文字)
※SUReset4を区別したいときに設定します。
SUReset4画面に識別タグが表示されます。

④[出力]をクリック

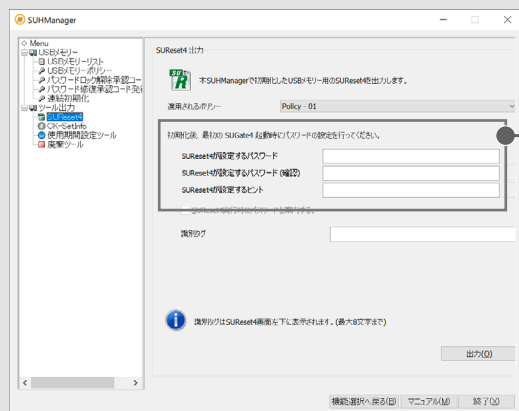
ヒント

[適用されるポリシー]がSUReset4での初期化時にUSBメモリーに適用されます

出力したSUReset4のポリシーと、USBメモリーに既に適用されているポリシーが異なった場合にSUReset4で初期化すると、USBメモリーのポリシーはSUReset4のポリシーに変更されます。

ヒント

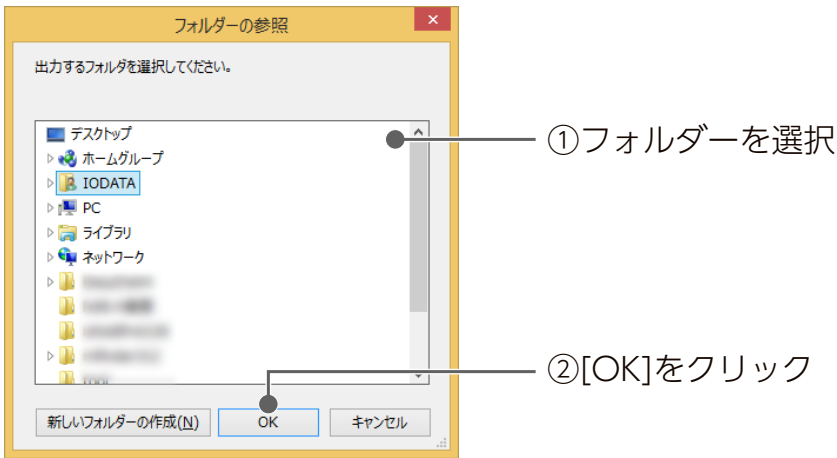
選択したポリシーが「初回起動時強制パスワード設定」を[OFF]にしている場合
SUReset4 での初期化と同時に、パスワードとヒント（任意）を設定します。



設定する

パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したUSBメモリーポリシーにより異なります) ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード(確認)	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。(最大64文字) ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。
SUReset4実行時にパスワードを案内する	SUReset4での初期化後、設定したパスワードを画面に表示するかどうかを設定します。

4 出力するフォルダーを選択します。



5 [OK]をクリックします。

以上で SUReset4 の出力は完了です。

■ 初期化する

出力した SUReset4 で、デバイスを初期化します。
SUHManager で初期化されたデバイスを SUHManager がインストールされていない環境で初期化する場合、SUHManager で出力した SUReset4 が必要です。

注 意

- 必要なデータがある場合は、あらかじめ USB メモリー内のデータのバックアップをしてください
初期化すると、データ保存領域のデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、初期化の前にデータを別のメディア（DVD やハードディスク）にコピーするなどして、バックアップをしてください。
- SUHManager で初期化した USB メモリーは、USB メモリー添付の初期化ソフトウェア「SUReset4」では初期化できません
初期化前の設定状態は保持されません。
- 「マスターコード機能」が [ON] になっている USB メモリーは、SUReset4 で初期化できません
SUHManager で初期化してください。

ヒント

まだ USB メモリーを接続しないください
接続した場合は USB メモリーを取り外してください。

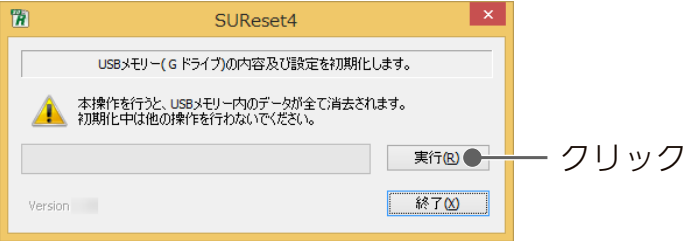
1 SUReset4を起動します。

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

ヒント

初期化するUSBメモリーは1本だけ接続します
同時に複数のUSBメモリーを初期化することはできません。

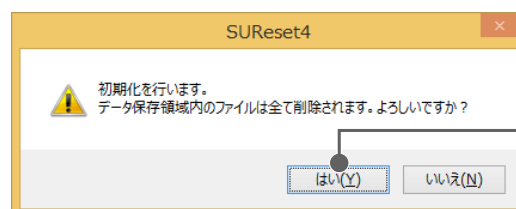
3 [実行]をクリックします。



注 意

初期化中は USB メモリーを取り外したり、他の操作をしないでください

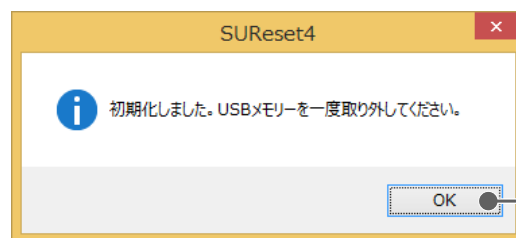
4 [はい]をクリックします。



クリック

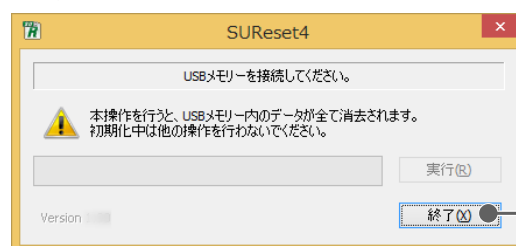
⇒初期化されます。

5 [OK]をクリックします。



クリック

6 [終了]をクリックします。



クリック

7 USBメモリーをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。

以上で初期化は完了です。

ヒント

- SUNReset4で初期化しても、操作ログの内容は削除されません
- PC識別機能が有効なUSBメモリーを、PC識別機能が無効に設定されているポリシーのSUNReset4で初期化した場合、USBメモリー内に保存されている許可/許可候補PC情報はすべて削除されます
PC識別機能が有効に設定されているポリシーのSUNReset4で初期化した場合、PC情報は削除されません。
- SUNReset4の出力時に選択したポリシーがUSBメモリーに適用されます
出力したSUNReset4のポリシーと、対応USBメモリーに既に適用されているポリシーが異なった場合にSUNReset4で初期化すると、USBメモリーのポリシーはSUNReset4のポリシーに変更されます。

SHReset について

SHReset は、USB HDD/SSD を初期化するソフトウェアです。

SUHManager で初期化された USB HDD/SSD を SUHManager がインストールされていない環境で初期化する場合、SUHManager で出力した SHReset を使用してください。

※ SUHManager で初期化されたデバイスを初期化するには、SUHManager で出力した SHReset が必要です。

ヒント

SHResetの対応OSは【[動作環境](#)】(6ページ)をご覧ください

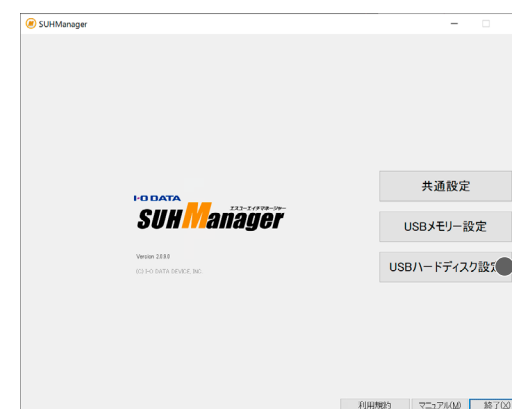
■ 出力する

注 意

- USB HDD/SSD に添付の SHReset では初期化できません
SUHManager で初期化された USB HDD/SSD は、USB HDD/SSD に添付の SHReset では初期化できません。SUHManager から SHReset を以下の手順で出力し、ご利用ください。
- 「マスターコード機能」が [ON] のポリシーでは SHReset を出力できません

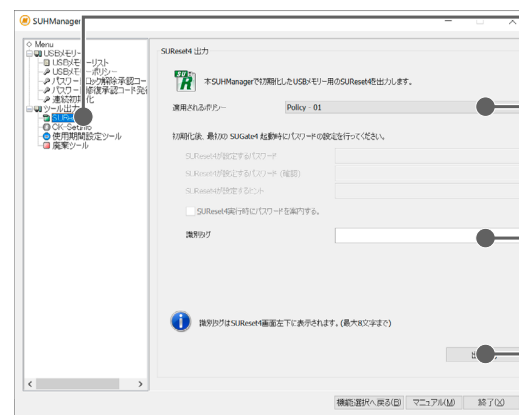
1 SUHManagerを起動します。

2 USBハードディスクをクリックします。



USBハードディスク設定をクリック

3 SHResetを出力します。



- ①[SHReset]をクリック

- ②USB HDD/SSDに適用するポリシーを選択

③任意で入力(最大8文字)
※SHResetを区別したいときに設定します。
SHReset画面に識別タグが表示されます。

④[出力]をクリック

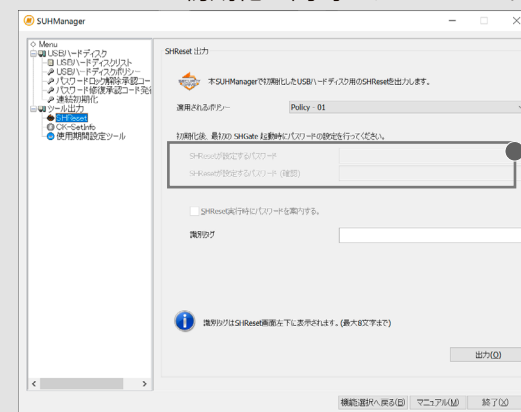
ヒント

[適用されるポリシー]がSHResetでの初期化時にUSB HDD/SSDに適用されます

出力したSHResetのポリシーと、USB HDD/SSDに既に適用されているポリシーが異なった場合にSHResetで初期化すると、USB HDD/SSDのポリシーはSHResetのポリシーに変更されます。

ヒント

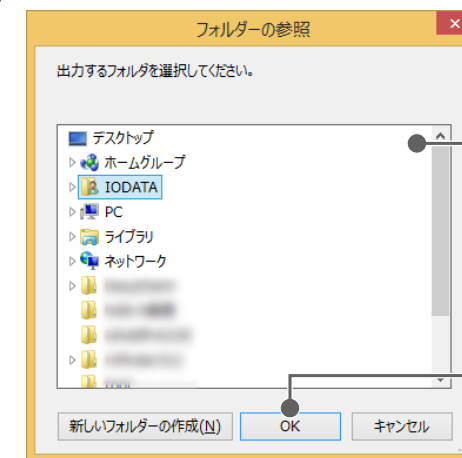
選択したポリシーが「初回起動時強制パスワード設定」を[OFF]にしている場合
SHReset での初期化と同時に、パスワードとヒント（任意）を設定します。



- 設定する

パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したUSBメモリーポリシーにより異なります) ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード(確認)	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。(最大64文字) ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。
SHReset実行時にパスワードを案内する	SHResetでの初期化後、設定したパスワードを画面に表示するかどうかを設定します。

4 出力するフォルダーを選択します。



①フォルダーを選択

②[OK]をクリック

5 [OK]をクリックします。

以上で SUReset4 の出力は完了です。

■ 初期化する

出力した SHReset で、デバイスを初期化します。

SUHManager で初期化されたデバイスを SUHManager がインストールされていない環境で初期化する場合、SUHManager で出力した SHReset が必要です。

注 意

- 必要なデータがある場合は、あらかじめ USB HDD/SSD 内のデータのバックアップをしてください
初期化すると、データ保存領域のデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、初期化の前にデータを別のメディア（DVD やハードディスク）にコピーするなどして、バックアップをしてください。
- SUHManager で初期化した USB HDD/SSD は、USB HDD/SSD 添付の初期化ソフトウェア「SHReset」では初期化できません
初期化前の設定状態は保持されません。
- 「マスターコード機能」が [ON] になっている USB HDD/SSD は、SHReset で初期化できません
SUHManager で初期化してください。

1 USB HDD/SSDをパソコンのUSBポートに接続します。

ヒント

初期化するUSB HDD/SSDは1台だけ接続します
同時に複数のUSB HDD/SSDを初期化することはできません。

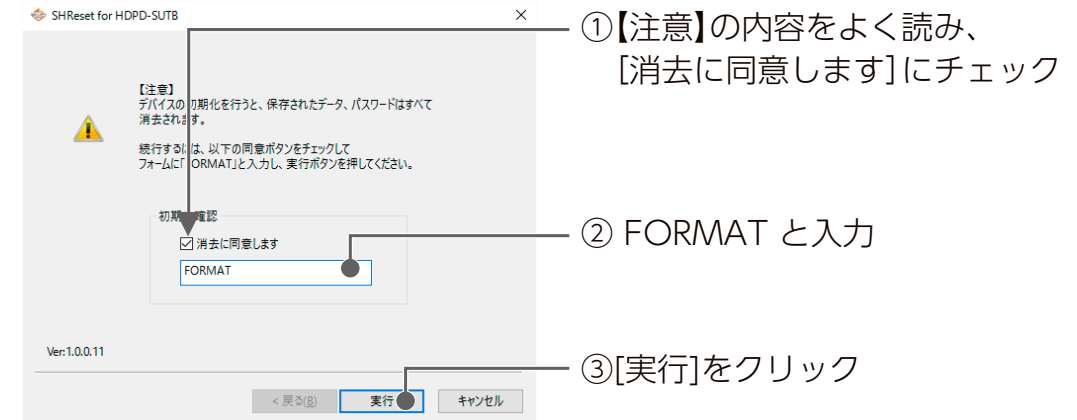
2 SHResetを起動します。

3 [はい]をクリックします。



クリック

4 初期化を開始します。



⇒初期化とフォーマットを開始します。しばらくお待ちください。

注 意 初期化中は USB HDD/SSD を取り外したり、他の操作をしないでください

5 [完了]をクリックします。



クリック

6 USB HDD/SSDをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。

以上で初期化は完了です。

ヒント

- SHResetで初期化しても、操作ログの内容は削除されません
- PC識別機能が有効なUSB HDD/SSDを、PC識別機能が無効に設定されているポリシーのSHResetで初期化した場合、USB HDD/SSD内に保存されている許可/許可候補PC情報はすべて削除されます
PC識別機能が有効に設定されているポリシーのSHResetで初期化した場合、PC情報は削除されません。
- SHResetの出力時に選択したポリシーがUSB HDD/SSDに適用されます
出力したSHResetのポリシーと、対応USB HDD/SSDに既に適用されているポリシーが異なった場合にSHResetで初期化すると、USB HDD/SSDのポリシーはSHResetのポリシーに変更されます。

簡易 PC 識別 (CK-SetInfo) について

CK-SetInfo を使うと、デバイスに対して使用パソコンを簡易的に制限できます。

ユーザーはデバイスの管理者から CK-SetInfo を入手し、実行することでデバイスの使用許可設定をすることができます。

※ポリシーで「簡易 PC 識別」を [ON] にしたデバイスで利用できます。

※本機能は Mac ではご利用いただけません。

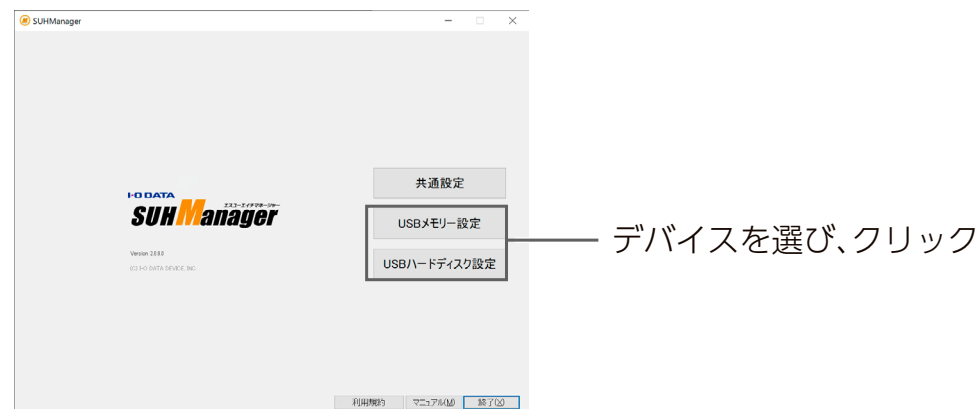
注 意 CK-SetInfo は厳重に管理してください
安易にコピーして使うとセキュリティ上重大な問題になる可能性があります。

ヒント CK-SetInfoの対応OSは【[動作環境](#)】(6ページ)をご覧ください

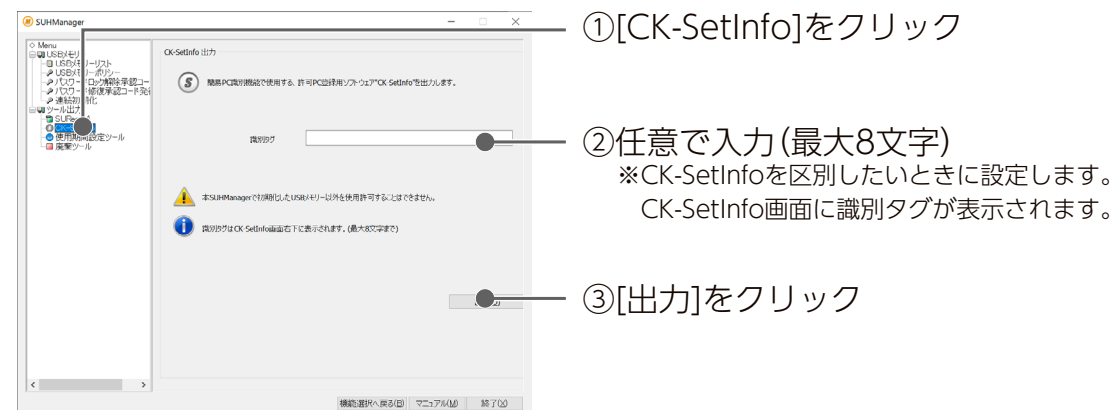
■ 出力する

1 SUHManagerを起動します。

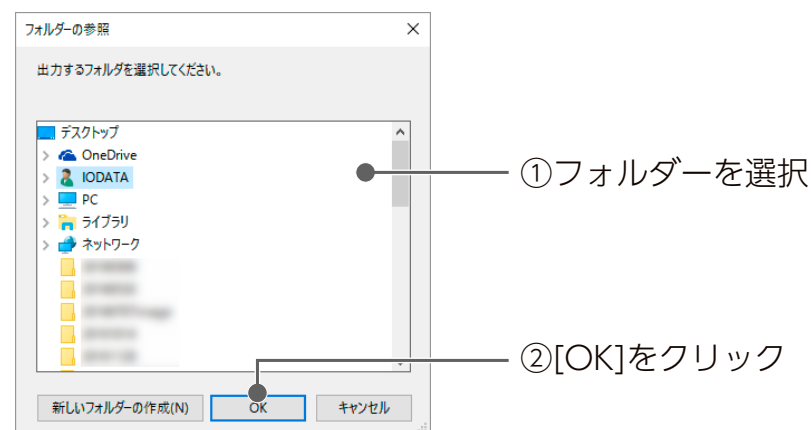
2 設定するデバイスをクリックします。



3 CK-SetInfoを出力します。



4 出力するフォルダーを選択します。



5 [OK]をクリックします。

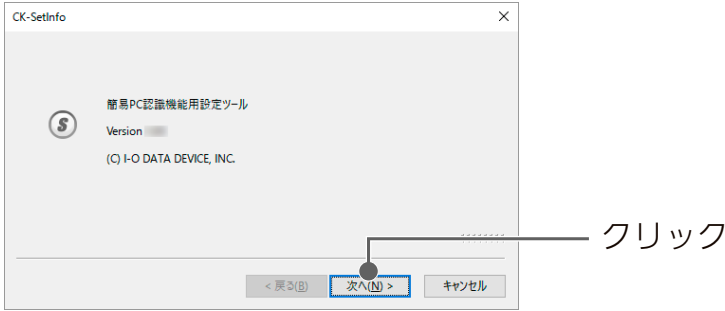
以上で CK-SetInfo の出力は完了です。

■ 設定する

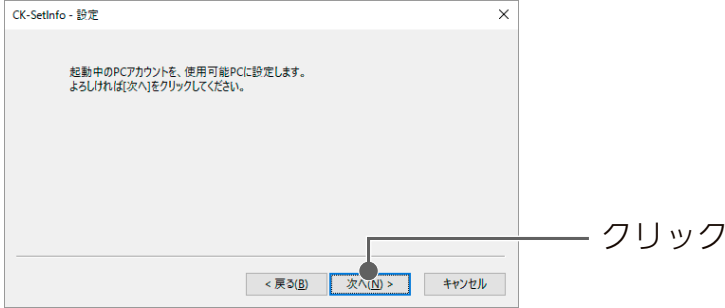
1 管理者から受け取った「CK-SetInfo」を利用するパソコン上(デスクトップなど)にコピーします。

2 CK-SetInfoを起動します。

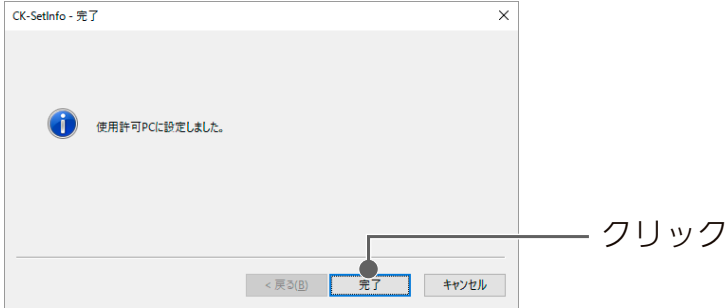
3 [次へ]をクリックします。



4 [次へ]をクリックします。



5 [完了]をクリックします。



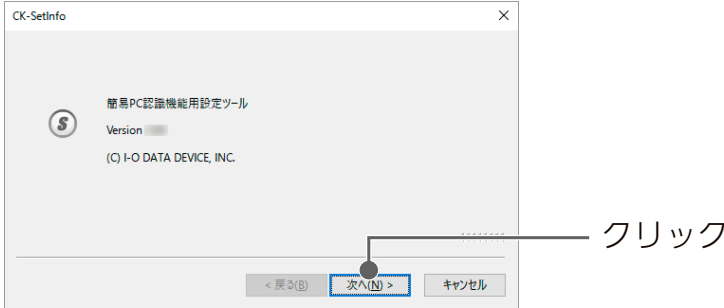
以上で設定は完了です。
CK-SetInfo をコピーして使用した場合はファイルを削除してください。

■ 設定解除する

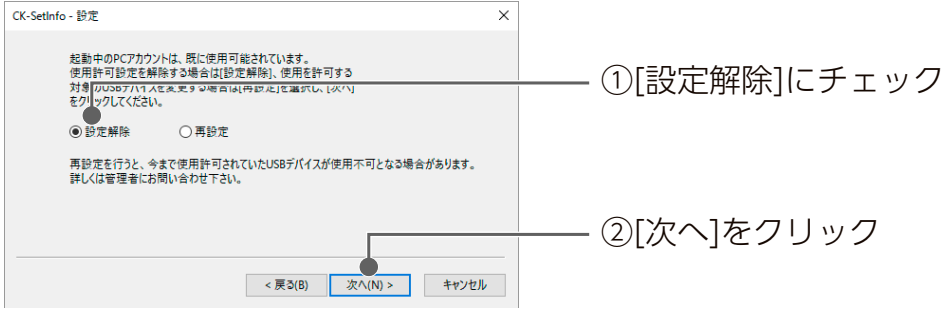
注 意 設定解除をすると、使用許可されていたデバイスが使用できなくなります

1 CK-SetInfoを起動します。

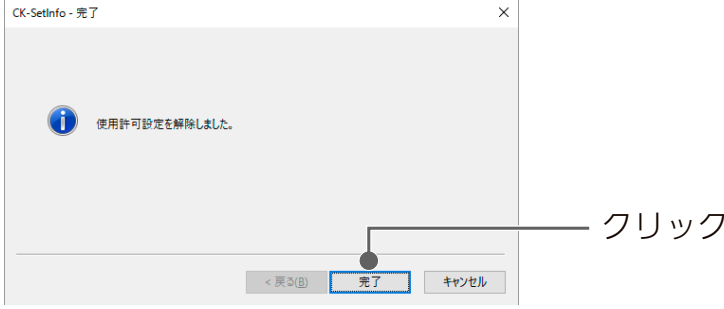
2 [次へ]をクリックします。



3 設定解除します。



4 [完了]をクリックします。



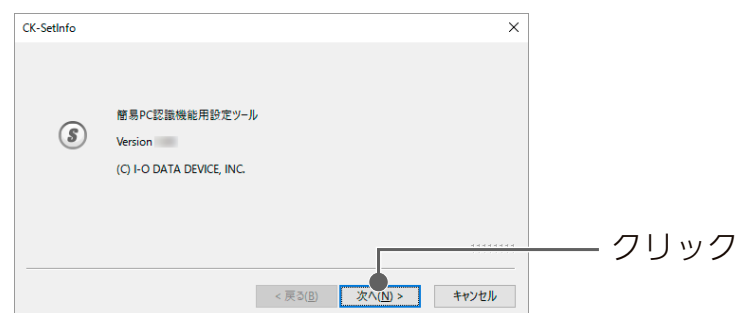
以上で設定解除は完了です。
CK-SetInfo をコピーして使用した場合はファイルを削除してください。

■ 再設定する

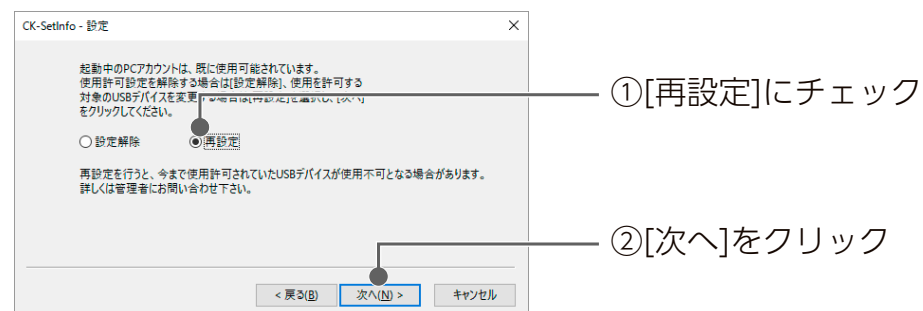
すでに CK-SetInfo で設定されている PC に対し、管理者から新たに受け取った CK-SetInfo でセキュリティ情報を上書きします。

新しい CK-SetInfo に設定されているセキュリティ情報によっては、今まで使用可能だったデバイスが使用できなくなる場合もあります。

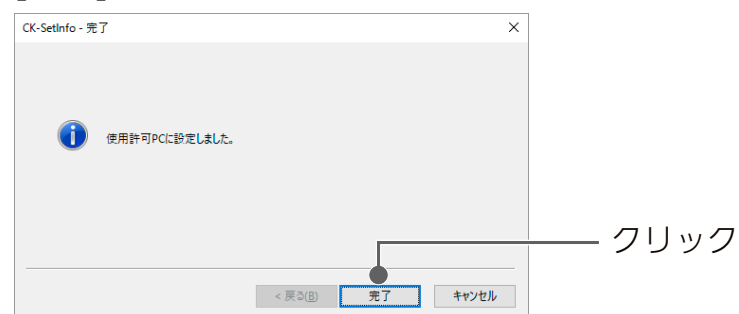
- 1 管理者から受け取った「CK-SetInfo」を利用するパソコン上(デスクトップなど)にコピーします。
- 2 CK-SetInfoを起動します。
- 3 [次へ]をクリックします。



- 4 再設定します。



- 5 [完了]をクリックします。



以上で再設定は完了です。

CK-SetInfo をコピーして使用した場合はファイルを削除してください。

使用期間設定ツールについて

使用期間設定ツールを使うと、デバイスに使用可能期間を設定できます。

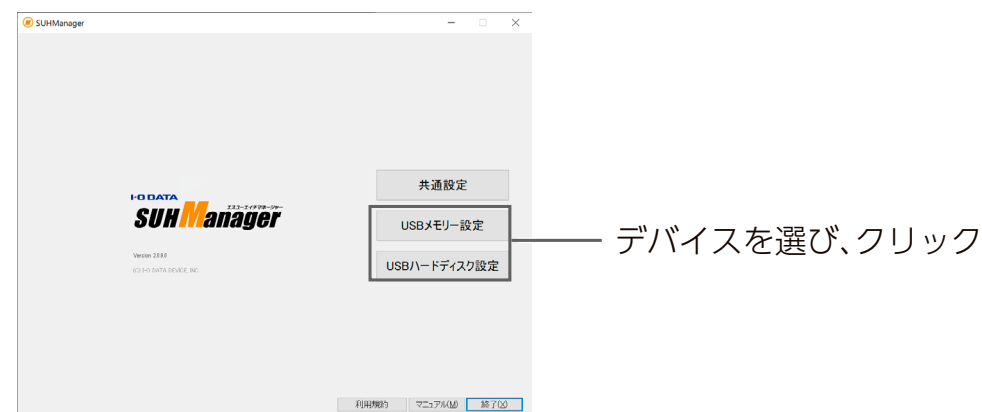
※ SUHManager で初期化したデバイスの設定をするには、SUHManager で出力した使用期間設定ツールが必要です。

ヒント 使用期間設定ツールの対応OSは【**動作環境**】(6ページ)をご覧ください

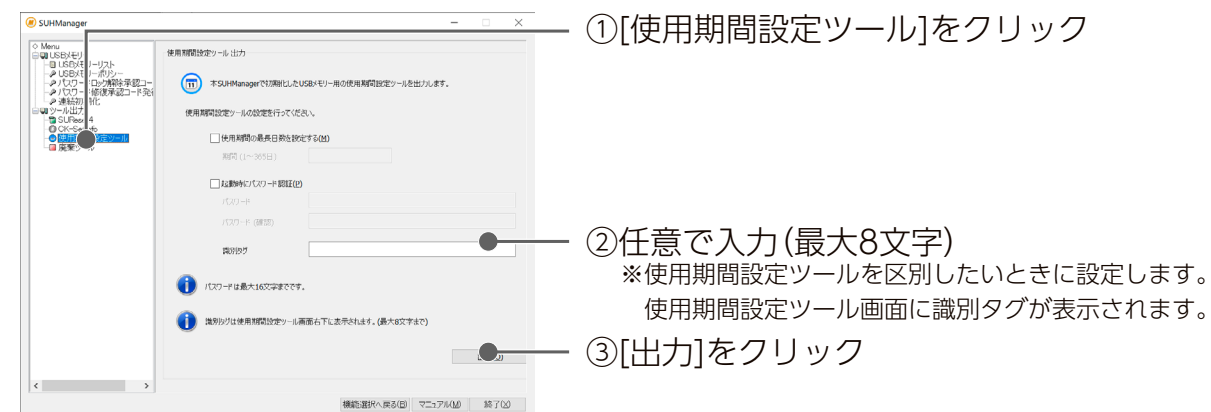
■ 出力する

- 1 SUHManagerを起動します。

- 2 設定するデバイスをクリックします。

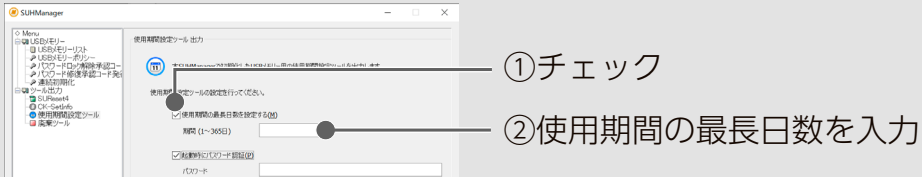


- 3 使用期間設定ツールを出力します。



ヒント ログイン操作可能な最長日数を設定する

[使用期間の最長日数を設定する] にチェックをつけると、使用期間設定ツールで設定するログイン操作可能な最長日数を、設定できます。
チェックをつけない場合は、「設定可能な最長期間」が無制限になります。



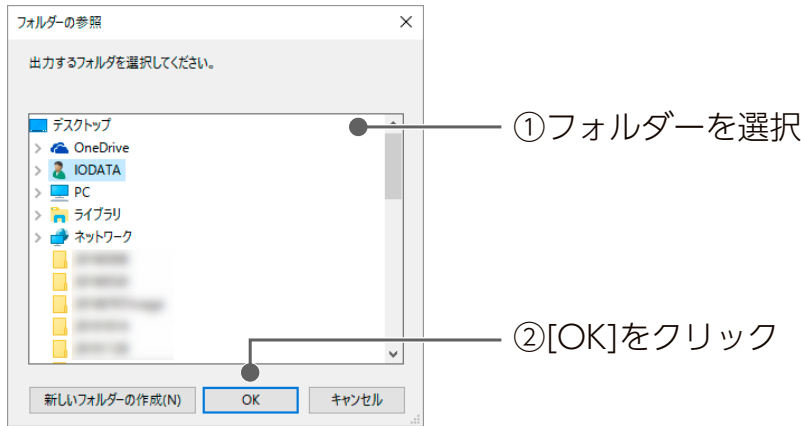
ヒント 使用期間設定ツール起動時に、パスワード入力させる

[起動時にパスワード認証] にチェックしてください。



パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したポリシーにより異なります) ※大文字・小文字は区別されます。 ※最大16文字までです。
パスワード (確認)	[パスワード] と同じ文字列を入力します。

4 出力するフォルダーを選択します。



5 [OK]をクリックします。

以上で使用期間設定ツールの出力は完了です。

■ 設定する

デバイスの使用可能期間を設定します。

ヒント まだデバイスを接続しないでください
接続した場合はデバイスを取り外してください。

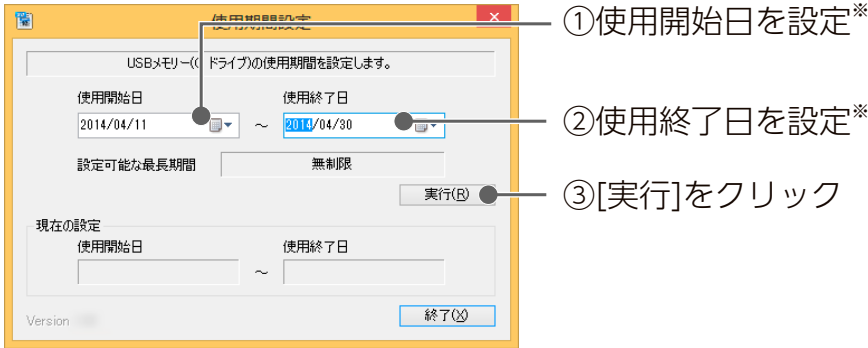
1 使用期間設定ツールを起動します。

ヒント 起動時にパスワード認証を設定した場合
パスワード入力画面が表示されるので、出力時に設定したパスワードを入力してください。

2 デバイスをパソコンのUSBポートに接続します。

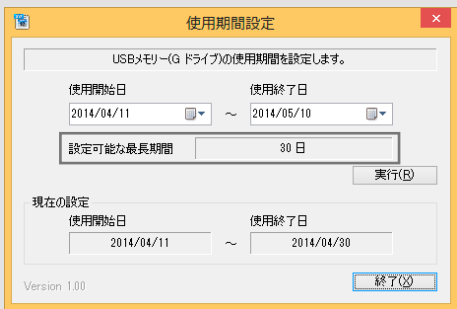
ヒント デバイスは1本だけ接続します
同時に複数のデバイスを設定することはできません。

3 使用期間を設定します。



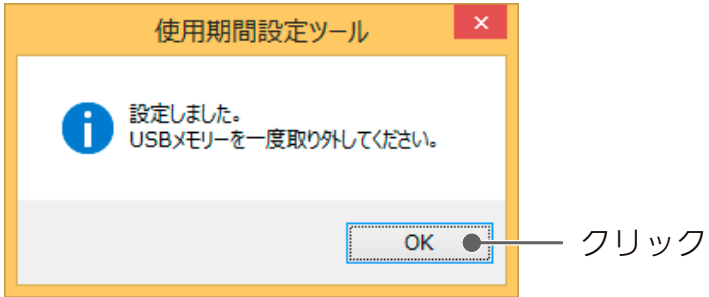
※カレンダーアイコンをクリックすると、
カレンダー上から日を選択できます。

ヒント 設定可能な最長期間が設定されている場合は、その範囲内で設定してください
設定可能な最長期間が「10 日」の場合、最長使用終了日は、使用開始日から 10 日経過した日（使用開始日から 11 日後）になります。

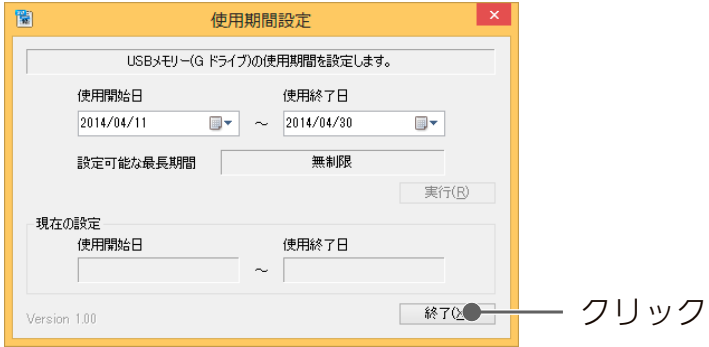


注 意 実行中はデバイスを取り外したり、他の操作をしないでください

4 [OK]をクリックします。



5 [終了]をクリックします。



6 デバイスをパソコンから取り外します。
※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。

以上で使用期間の設定は完了です。

ヒント

- 使用期間中の動作 ※画面はUSBメモリーの場合
- 使用期間を過ぎたとき

SUGate4/SHGate 起動時にメッセージ表示

ログイン画面に使用期限が表示

●使用期間を過ぎたとき

SUGate4/SHGate 起動時、エラーが表示されログインできません。
デバイス使用期間の再設定をしてください。

廃棄ツールについて

廃棄ツールを使うと、本製品をより安全に廃棄できる状態へ移行することができます。
※ SUHManager で初期化された USB メモリーの廃棄処理をするには、SUHManager で出力した廃棄ツールが必要です。

- 注 意**
- 廃棄処理をした USB メモリーは再利用できません
 - 廃棄処理をした USB メモリーは、保証期間もしくは保守契約期間に関わらず、修理・交換対応はお受けいたしかねます
 - トレンドマイクロ社製アンチウイルスソフト「Trend Micro USB Security™」および「Trend Micro USB Security™ for Biz」を搭載したセキュリティ USB メモリーに対して廃棄処理をすると、ライセンス期間内であってもその権利が失われます

ヒント 廃棄ツールの対応OSは【[動作環境](#)】(6ページ)をご覧ください

■ 廃棄後の状態

●セキュリティ USB メモリーの状態

データ保存領域	データ保存領域のパスワードが変更され、ログインできません。 データ保存領域内はすべて0で埋められ、痕跡が残らない状態になります。
プログラム領域	プログラム領域内のデータはすべて削除され、「EDHaikiED4.txt」が保存されます。
その他設定情報	USBメモリー内に保存されている、セキュリティUSBメモリーの設定情報や操作ログなどを削除します。

●ログ

廃棄処理終了後、下記情報をログとして記録します。
ログファイル「EDHaikiED4_log[xxxx (実行した日時)](.csv)」は、「EDHaikiED4 (.exe)」と同じフォルダーに保存されます。

- ・廃棄処理開始時刻
- ・ドライブレター
- ・VID (Vender ID)
- ・PID (Product ID)
- ・USB シリアルナンバー※
- ・廃棄処理結果

※USB メモリー本体に記載・貼付されているハードウェアシリアル番号 (S/N) ではなく、USB メモリー自体の個別情報です。

■ 出力する

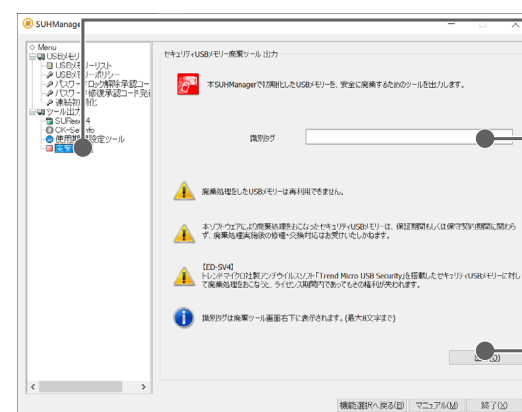
1 SUHManagerを起動します。

2 USBメモリー設定をクリックします。



[USBメモリー設定]をクリック

3 廃棄ツールを出力します。



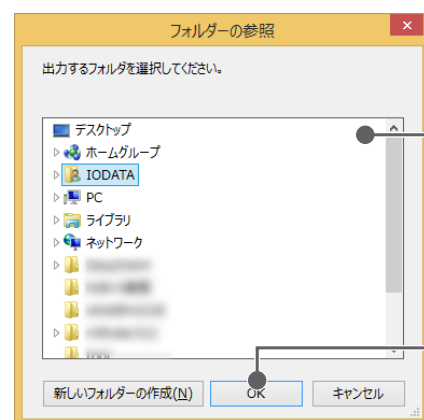
①[廃棄ツール]をクリック

②任意で入力(最大8文字)

※廃棄ツールを区別したいときに設定します。
廃棄ツール画面に識別タグが表示されます。

③[出力]をクリック

4 出力するフォルダーを選択します。



①フォルダーを選択

②[OK]をクリック

5 [OK]をクリックします。

以上で廃棄ツールの出力は完了です。

■ 廃棄処理する

注意

●省電力モードには対応していません

一定時間経過すると自動で省電力モードになるように設定してある場合は、廃棄処理中に省電力モードにならないように設定を変更してください。

●廃棄ツールは USB メモリーを安全に廃棄するために、データを消去した上で使用不可能な状態にするものです

●廃棄処理をすると、廃棄対象の USB メモリー内のデータはすべて消去されます
必要なデータがある場合はバックアップしてください。

●廃棄処理実行中は中断できません

ヒント

まだ USB メモリーを接続しないください

接続した場合は USB メモリーを取り外してください。

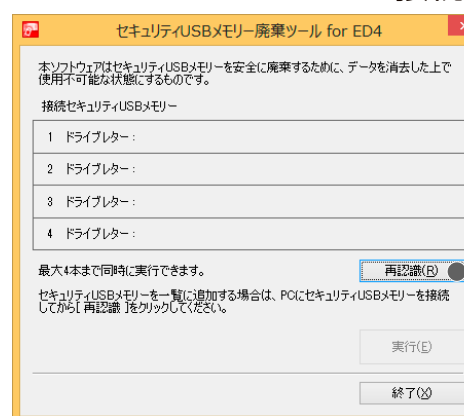
1 廃棄ツールを起動します。

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

ヒント

最大4本まで同時に廃棄処理できます

3 すべてのUSBメモリーを接続後、[再認識]をクリックします。



クリック

⇒パソコンに接続された USB メモリーを認識します。

注意

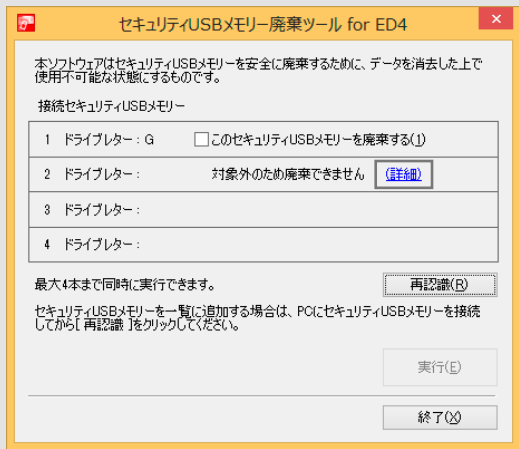
廃棄対象の USB メモリーを 5 本以上接続した場合、エラー画面が表示されます

[OK] をクリックしてエラー画面を閉じ、パソコンからセキュリティ USB メモリーを取り外してください。

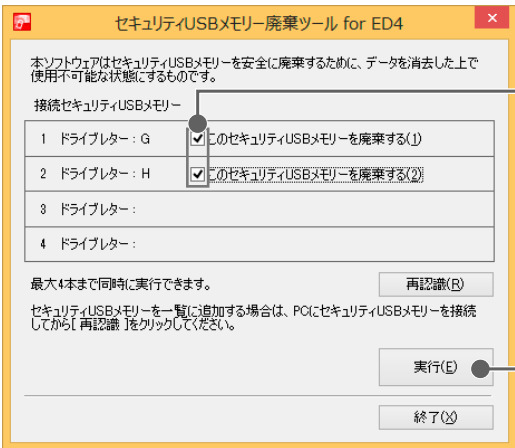
最大で 4 本接続されている状態にして、[再認識] をクリックしてください。

ヒント

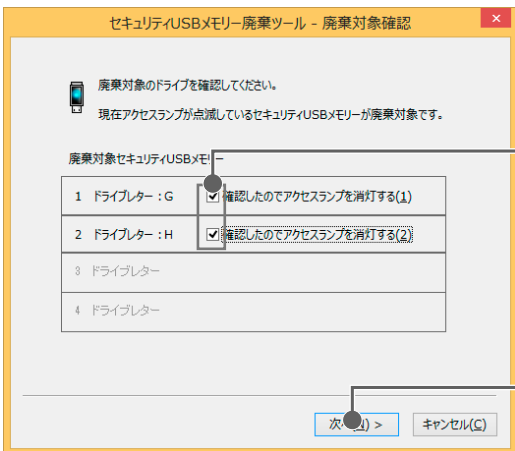
廃棄対象外のセキュリティUSBメモリーを接続した場合は、[詳細]をクリックすると、エラーメッセージを確認できます



4 廃棄処理するすべてのUSBメモリーにチェックし、[実行]をクリックします



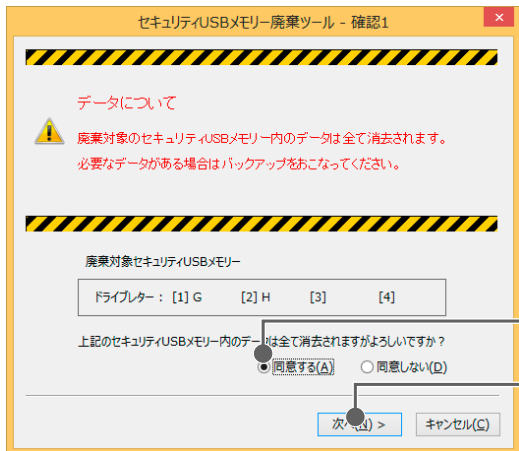
5 廃棄処理するセキュリティUSBメモリーのアクセスランプが点滅していることを確認します。
[確認したのでアクセスランプを消灯する]にチェックし、[次へ]をクリックします。



ヒント

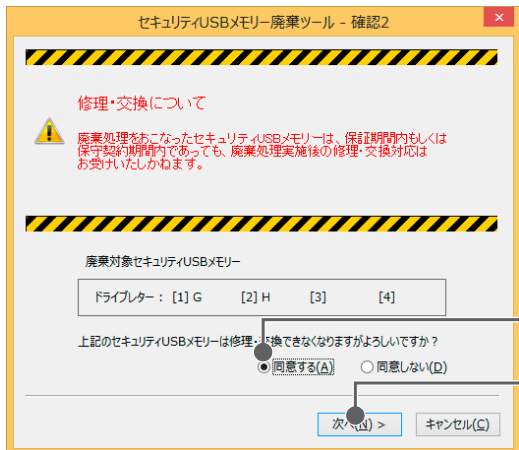
- すべてのチェックボックスにチェックしてください
- チェックをつけた2、3秒後にアクセスランプが消灯します

6 [データについて]をお読みいただき、同意する場合は[同意する]にチェックし、[次へ]をクリックします。



- ①[同意する]にチェック
- ②[次へ]をクリック

7 [修理・交換について]をお読みいただき、同意する場合は[同意する]にチェックし、[次へ]をクリックします。



- ①[同意する]にチェック
- ②[次へ]をクリック

ヒント

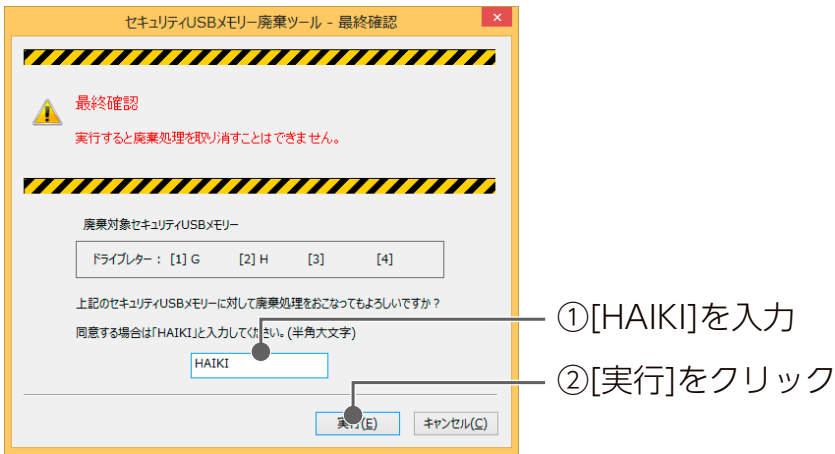
TMUSB搭載モデルを廃棄する場合

以下の画面が表示されます。
注意事項をお読みいただき、同意する場合は[同意する]にチェックし、[次へ]をクリックします。



- ①[同意する]にチェック
- ②[次へ]をクリック

8 半角・大文字で「HAIKI」と入力し、[実行]をクリックします。



⇒廃棄処理が実行されます。

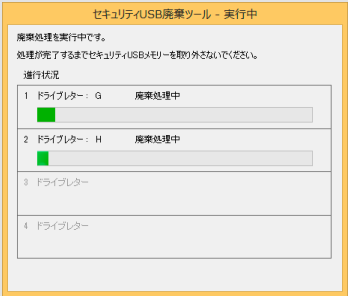
注 意 廃棄処理実行中は、中断できません

ヒント

- 廃棄処理にかかる時間(目安)
4GB の場合 (1 本あたり)
※ご使用のパソコン環境により異なります。

USB 3.0ポートに接続	約15分
USB 2.0ポートに接続	約45分

- 廃棄処理の進捗状況が表示されます



9 廃棄処理が完了したら、[取り外し]をクリックします。
⇒取り外しの完了画面が表示されるので、[OK]をクリックし、USBメモリーをパソコンから取り外してください。
USBメモリーが複数ある場合は、同様に取り外してください。

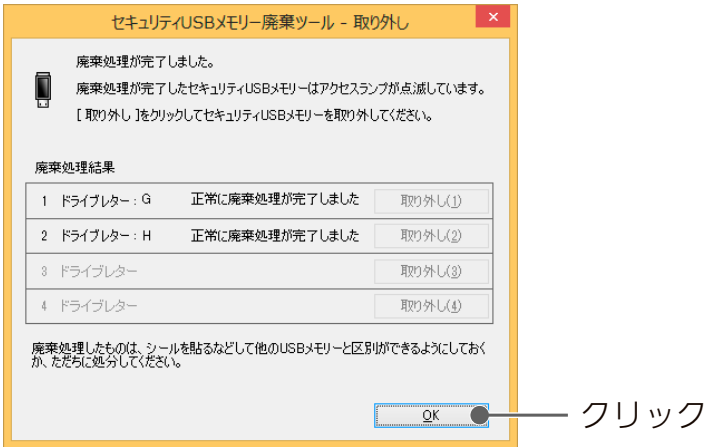


注 意 廃棄処理に成功したセキュリティ USB メモリーは、シールを貼るなどして他の USB メモリーと区別ができるようにしておくか、ただちに処分してください

ヒント

- USB メモリーの取り外しに失敗した場合
① [OK] をクリックし、取り外し画面を終了します。(初期画面が表示されます)
②タスクトレイの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコンをクリックし、USB メモリーを取り外してください。
- [取り外し]をクリックできない場合
廃棄処理中にエラーが発生したUSBメモリーは、[取り外し]が無効になります。
Windowsのタスクトレイの「ハードウェアの安全な取り外し」から取り外してください。

10 すべてのUSBメモリーの取り外しが終了したら、[OK]をクリックします。



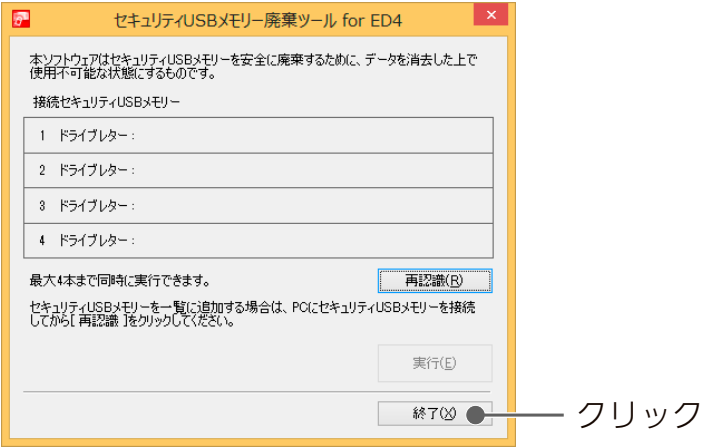
困ったときには

■弊社ホームページをご覧ください
サポート Web ページには、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。
⇒ <https://www.iodata.jp/support/>

■トラブルの状態と対処
エラーメッセージ等トラブルが発生した場合は、下記を参考にしてください。
なお、エラーメッセージについては、USB メモリー内の「画面で見るマニュアル」も合わせてご確認ください。

SUHKeyID でのトラブル ([No.Dxxx])	120 ページ
SUHManager でのトラブル ([No.Cxxx])	121 ページ
CK-SetInfo でのトラブル ([No.Exxx])	126 ページ
SUHGetInfoAG でのトラブル ([No.Fxxxx])	127 ページ
SUReset4 でのトラブル ([No.Bxxx])	128 ページ
SUGate4 でのトラブル ([No.Axxx])	129 ページ
使用期間設定ツールでのトラブル ([No.Mxxx])	132 ページ
廃棄ツールでのトラブル ([No.Jxxx])	134 ページ

- 11 初期画面が表示されます。
廃棄処理を終了する場合は、[終了]をクリックして画面を閉じます。



ヒント 続けて廃棄処理をする場合は、画面を閉じずに ② から進めてください

以上で廃棄処理は完了です。

SUHKeyID でのトラブル ([No.Dxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
D001	Guestアカウントでは本ソフトウェアはご利用できません。	Guestアカウントで動作させた。	Windowsの管理者(Administrator)権限か、ユーザーアカウントでご利用ください。
D002	お使いのOSでは本ソフトウェアはご利用できません。	対応外のOSで動作させた。	対応OSで動作させてください。なお、SUHKeyIDはSUHManagerの動作環境と同じです。(【動作環境】(6ページ) 参照)
D003	製品シリアルナンバーには12桁の半角英数字を入力してください。	[製品シリアルナンバー]欄に、半角英数字以外を入力した。	SUHManager(SUHM)の製品シリアルナンバーを確認し、半角英数字で入力してください。
D004	製品シリアルナンバーが不正です。SUHMのシリアルナンバーを入力してください。	SUHManager(SUHM)またはSUManager4(SUM-S4)の製品シリアルナンバーが入力されていない。	SUHManager(SUHM)またはSUManager4(SUM-S4)の製品シリアルナンバーを再度確認し、正しい値を入力してください。
D005	製品シリアルナンバーが不正です。シリアルナンバーシールの内容を確認の上、再入力してください。	SUHManager(SUHM)の製品シリアルナンバーが正しく入力されていない。	SUHManager(SUHM)の製品シリアルナンバーを再度確認し、正しい値を入力してください。

SUHManager でのトラブル ([No.Cxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
C001	お使いのOSでは本ソフトウェアはご利用できません。	対応外のOSで動作させた。	対応OSでご利用ください。(【動作環境】(6ページ) 参照)
C002	Guestアカウントでは本ソフトウェアはご利用できません。	Guestアカウントで動作させた。	Windowsの管理者(Administrator)権限かユーザーアカウントでご利用ください。
C003-xx	DLLの初期化に失敗しました。	SUHManagerに必要なDLLファイルが存在しない。または破損している。	SUHManagerを一度アンインストールし、再度インストールをおこなってください。
C004-xx	設定ファイルの読み込みに失敗しました。 (xはエラーを示す値)	保存されている情報の読み込みに失敗した、または、そのファイルが壊れている。	SUHManagerを再起動してください。 または、SUHManagerを一度アンインストールし、インストールしなおしてください。
C005	SUGate4/SHGateが動作しています。 USBメモリー/USBハードディスクを接続している場合は一度取り外し、本ソフトウェアが起動してから接続しなおしてください。	SUGate4/SHGate動作中にSUHManagerを起動した。	USBデバイスを取り外し、SUHManager起動後に再度接続してください。
C006	SUReset4/SHResetが動作しています。 SUReset4/SHResetを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUReset4/SHReset動作中にSUHManagerを起動した。	SUReset4/SHResetを終了し、SUHManagerを再度起動してください。
C007	CK-SetInfoが動作しています。 CK-SetInfoを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	CK-SetInfo動作中にSUHManagerを起動した。	CK-SetInfoを終了し、SUHManagerを再度起動してください。
C008	使用期間設定ツールが動作しています。 使用期間設定ツールを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	使用期間設定ツール動作中にSUHManagerを起動した。	使用期間設定ツールを終了し、SUHManagerを再度起動してください。
C009	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールが動作しています。 廃棄ツールを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツール動作中にSUHManagerを起動した。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールを終了し、SUHManagerを再度起動してください。
C010	指定されたファイルは存在しません。	指定されたファイルが存在しない、または壊れている。	正しいファイルを指定してください。
C011-xx	KEY-IDファイルの読み込みに失敗しました。 (xはエラーを示す値)	保存されている情報の読み込みに失敗した、または、そのファイルが壊れている。	SUHManagerを再起動してください。 または、SUHManagerを一度アンインストールし、インストールしなおしてください。
C012	パスワード認証処理にエラーが発生しました。	SUHManagerの起動パスワード入力時になんらかの問題が発生した。	SUHManagerを再起動してください。
C013	パスワードが正しくありません。	SUHManagerの起動パスワードが間違っている。	正しい起動パスワードを入力してください。
C014	USBメモリー/USBハードディスクリスト読み込みに失敗しました。	保存されている情報の読み込みに失敗した、または、そのファイルが壊れている。	SUHManagerを再起動してください。 または、SUHManagerを一度アンインストールし、インストールしなおしてください。

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
C015	CSVファイルの保存に失敗しました。	SUHManagerログ、USBデバイスリスト、USBデバイス操作ログのCSVファイルの保存に失敗した。	ファイルの保存をやりなおしてください。
C016 -xx-xx	パスワード変更時にエラーが発生しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因でパスワード変更処理に失敗した。	USBデバイスを取り外し、再度接続してください。 その後、パスワード変更操作をおこなってください。
C017	ヒントに入力できる文字数は64文字までです。	64文字を超えてヒントを入力した。	ヒントは64文字以内で入力してください。
C018	パスワード文字列をヒントに設定することはできません。	ヒント文字列の中に、パスワードに使用した文字列が入力されている。	パスワードに使用した文字列は、ヒントに入力しないでください。
C019	パスワードは最低xx文字必要です。	パスワード最小文字数に満たないパスワードを設定した。	ポリシーで設定したパスワード最小文字数以上の長さのパスワードを入力してください。
C020	パスワードは最低xx文字必要です。また、以下の条件に従って設定してください。 英大文字:xx文字以上 英小文字:xx文字以上 数字:xx文字以上 記号:xx文字以上	ポリシーに設定したパスワード条件に合った文字列が入力されていない。	エラーメッセージに表示された文字数に合ったパスワードを入力してください。
C021	「新しいパスワード」と「新しいパスワード(確認)」が一致しません。	パスワード変更時に、新しいパスワード欄に入力した文字列と、確認欄に入力した文字列が一致しない。	新しいパスワード欄、確認欄に同じ文字列を入力してください。
C022	現在と同じパスワードを設定することはできません。	新しいパスワードに、既に設定されているパスワードと同じパスワードを設定しようとした。	既に設定されているパスワードとは異なるパスワードを設定してください。
C023	「パスワード」と「パスワード(確認)」が一致しません。	パスワード欄に入力した文字列と、確認欄に入力した文字列が一致しない。	パスワード欄、確認欄に同じ文字列を入力してください。
C024 -xx	初期化に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	初期化処理が何らかの原因で失敗した。	USBデバイスを取り外し、再度接続してください。 その後、初期化をやりなおしてください。
C025	USBメモリー/USBハードディスクの更新に失敗しました。	何らかの原因で、初期化またはパスワード修復実行後のUSBデバイスリストのデータ更新に失敗した。	初期化またはパスワード修復をやりなおしてください。
C026	パスワード設定に失敗しました。	SUHManager起動パスワードの設定に失敗した。	起動パスワードの設定をやりなおしてください。
C027	このパスワードは設定できません。違うものを指定してください。	SUHManager起動パスワードの設定に失敗した。	別の起動パスワードを設定してみてください。
C028	SUHManager操作ログの全削除に失敗しました。	SUHManager操作ログの削除に失敗した。	操作ログの削除をやりなおしてください。
C029	ポリシー名称は1～32文字の範囲内で入力してください。	ポリシー名欄が空欄の状態です[設定]ボタンをクリックした。	1～32文字の範囲でポリシー名を入力してください。
C030	既に同じ名称が存在しています。	他のポリシーで同じ文字列が既に使われている。	ポリシー名を別の名称で設定してください。
C031	パスワード連続ミス可能回数は、1～100の間で設定してください。	ポリシーのパスワード連続ミス回数欄に、範囲外の数字を入力した。	ポリシー設定画面に表示される範囲で設定してください。
C032	パスワード最小文字数は、1～xxの間で設定してください。	ポリシーのパスワード最小文字数欄に、範囲外の数字を入力した。	ポリシー設定画面に表示される範囲で設定してください。
C033	文字制限の設定値の合計はxx文字以下になるようにしてください。	ポリシーのパスワード文字制限で、英大文字/英小文字/数字/記号の最小文字数の合計がメモリ:16文字、HDD/SSD:32文字を超えている。	パスワード文字の合計がメモリ:16文字、HDD/SSD:32文字以下になるよう設定してください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
C034	有効期限は、0～36500の間で設定してください。	ポリシーのパスワード有効期限欄に、範囲外の数字を入力した。	ポリシー設定画面に表示される範囲で設定してください。
C035	累積パスワードミス回数の警告表示は、1～99の間で設定してください。	ポリシーのパスワードミス回数の警告欄に、範囲外の数字を入力した。	ポリシー設定画面に表示される範囲で設定してください。
C036	ポリシーの保存に失敗しました。	何らかの原因でポリシーの保存に失敗した。	ポリシーの保存をしなおしてください。
C037	削除する実行パスをリストから選択してください。	ポリシーのログイン後ファイル自動実行で、リストのパスを選択せずに[削除]ボタンをクリックした。	削除したいパスをリストから選択し、[削除]ボタンをクリックしてください。
C038	実行パスを指定してください。	ポリシーのログイン後ファイル自動実行で、実行ファイル欄に何もパスを入力せずに[追加]ボタンをクリックした。	実行ファイル欄に追加したいパスを入力し、[追加]ボタンをクリックしてください。
C039	AGIファイルの読み込みに失敗しました。	保存されている情報の読み込みに失敗した、またはそのファイルが破壊されている。	ファイルの存在を確認し、もう一度読み込み操作をおこなってください。 または、AGIファイルの生成から再度おこなってください。
C040	AGIファイルが見つかりませんでした。	指定されたAGIファイルが存在しない、または壊れている。	正しいAGIファイルを指定してください。
C041 -xx	PC情報の設定に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因で、許可/許可候補PC情報の設定に失敗した。	USBデバイスを取り外し、再度接続してください。 その後、許可情報のコピーをしなおしてください。
C042	許可PC/許可候補PCの合計が設定可能な最大数(1000)を超えています。	1台のUSBデバイスに登録できるパソコン台数(1000件)を超えた情報を書き込もうとした。	許可PCもしくは許可候補PCのリストから不要なパソコン情報を削除してください。
C043	パスワードが正しくありません。	誤ったパスワードを入力している。	正しいパスワードを入力してください。
C044	パスワードのミス連続回数が制限値を越えたため、ログイン/パスワード変更ができません。	パスワード入力 / パスワード変更をポリシーで定めた規定回数以上ミスした。	SUHManagerでパスワードミスリセットをするか、初期化をおこなってください。
C045	パスワードのミス回数の累積が制限値を越えたため、ログイン/パスワード変更 / パスワード修復 ができません。再初期化を行ってください。	パスワード入力 / パスワード変更 / パスワード修復 を連続100回ミスした。	SUHManagerで初期化をおこなってください。
C046	後1回パスワード認証に失敗した場合、リムーバブル領域へのアクセス及びパスワード変更ができなくなります。	パスワード入力を連続99回ミスした。	後 1 回パスワードを間違えると初期化が必要になります。
C047 -xx-xx	リセット時にエラーが発生しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因でパスワードミスリセット処理に失敗した。	USBデバイスを取り外し、再度接続してください。 その後、リセットを実行してみてください。
C048 -xx-xx	操作ログの保存に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	USBデバイス操作ログの保存に失敗した。	本エラーは通常は表示されません。 表示された場合は、その時実施したUSBデバイスを操作したログについては、記録されません。
C049 -xx-xx	データ保存領域の書き込み禁止設定に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因で、データ保存領域の書き込み禁止に失敗した。	USBデバイスを取り外し、再度接続してください。 その後、書き込み禁止設定をしなおしてください。
C050 -xx-xx	データ保存領域の書き込み許可設定に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因で、データ保存領域の書き込み許可に失敗した。	USBデバイスを取り外し、再度接続してください。 その後、書き込み許可設定をしなおしてください。
C051 -xx-xx	パスワードの修復時にエラーが発生しました。(xはエラーを示す値)	何らかの原因で、パスワードの修復に失敗した。	USBデバイスを取り外し、再度接続してください。 その後、パスワード修復をしなおしてください。

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
C052	マスターコードが正しくありません。	SUHManagerに設定されているマスターコードが、対象のUSBデバイスを初期化した際のものとは異なっている。	SUHManagerに、対象のUSBデバイスを初期化した際のマスターコードを設定し、パスワード修復をしておしてください。
C053	SUReset4出力時にエラーが発生しました。	何らかの原因でSUReset4/SHResetの出力に失敗した。	出力先に問題が無いか(空き容量が無いなど)を確認し、出力操作をしておしてください。
C054	CK-SetInfo出力時にエラーが発生しました。	何らかの原因でCK-SetInfoの出力に失敗した。	出力先に問題が無いか(空き容量が無いなど)を確認し、出力操作をしておしてください。
C055	セキュリティUSBメモリー廃棄ツール出力時にエラーが発生しました。	何らかの原因でセキュリティUSBメモリー廃棄ツールの出力に失敗した。	出力先に問題が無いか(空き容量が無いなど)を確認し、出力操作をしておしてください。
C056	使用期間設定ツール出力時にエラーが発生しました。	何らかの原因で使用期間設定ツールの出力に失敗した。	出力先に問題が無いか(空き容量が無いなど)を確認し、出力操作をしておしてください。
C057	最長期間は、1～365日の間で設定してください。	最長期間に1～365日の範囲以外の値を入力した。	最大期間は、1～365日に間で設定してください。
C058	申請コードは32桁の文字(上16桁、下16桁)を入力する必要があります。	申請コードの入力文字数が足りない。	上下二つの入力部に、16桁ずつ(ハイフン除く)の申請コードを入力してください。
C059	入力された申請コードは、修復処理用の物ではありません。	誤ったコードを入力している。	正しい申請コードを入力してください。
C060	入力された申請コードは、ロック解除処理用の物ではありません。	誤ったコードを入力している。	正しい申請コードを入力してください。
C061	入力された申請コードは、本SUHManager用の物ではありません。	本SUHManagerの管理対象ではないUSBメモリーにて出力した申請コードを入力している。	本SUHManagerで初期化した、USBデバイス上のSUGate4/SHGateで出力した申請コードを入力してください。
C062	フォルダーを選択してください。	フォルダを指定していない状態で、バックアップまたは復元操作を行おうとした。	フォルダーを指定してください。
C063	以下のファイルのバックアップに失敗しました。	"何らかの原因でバックアップ先フォルダへの書き込みに失敗した。 または、バックアップ元となるファイルが存在しない。"	バックアップ先フォルダにアクセスできるか、空き容量は十分であるか確認してください。 SUHManagerログ、USBメモリーリスト、PCリストは、リスト自体にデータが存在しない場合は、ファイルが無いためエラー扱いとなります。
C064	以下のファイルの復元に失敗しました。	復元元のファイルが見つからない、もしくは壊れている。	復元元のファイルが指定したフォルダ内に正しく存在しているか確認してください。
C065	全てのUSBメモリー/USB ハードディスクの設定を行ってください。	一括初期化で、初期化する全てのUSBデバイスにポリシーを設定していない状態で初期化をしようとした。	初期化しないUSBデバイスはパソコンから取り外し、リストに表示されている全てのUSBデバイスに対してポリシーの設定をおこなってください。
C066	未初期化のUSBメモリー/USBハードディスクをコピー元・コピー先に選択することはできません。	許可情報のコピー元/コピー先に、SUHManagerで初期化していないUSBデバイスを選択した。	本ソフトウェアで初期化済のUSBデバイス情報を選択してください。 または、USBデバイスを初期化してから許可情報のコピーをおこなってください。
C067	許可情報コピー中にエラーが発生しました。	何らかの原因で、許可PC情報のコピーに失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、許可情報のコピーをしておしてください。
C068 -xxxx xxxx	アップデートサーバーへの接続に失敗しました。 (xxxxxxxはエラーを示す数値)	インターネットに接続されていない、または、ネットワークの設定(ファイアウォール・プロキシ等)により、当社のWebサーバーへの接続に失敗した。	ブラウザでWebを閲覧出来る環境(HTTP通信できる環境)でアップデート確認をおこなってください。
C069	本製品用ではない設定ファイルが指定されました。	SUM-S4LITEでバックアップした、設定ファイルをSUM-S4で復元しようとしている。または、その逆。	設定ファイルは、バックアップを行った製品と同じ製品で復元を行ってください。 SUM-S4LITEから、SUM-S4へデータ移行を行う場合には、移行手順に従って行ってください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
C070	PC情報をこれ以上登録できません。最大(10000台まで)	10000台を超えるPC情報を登録しようとした。	SUHManagerのPCリストには、10000台分の情報しか登録できません。不要な登録情報を削除してください。
C071	USBメモリー/USBハードディスク操作ログの全削除に失敗しました。	USBデバイス操作ログの削除に失敗した。	操作ログの削除をやりなおしてください。
C072	USBメモリー/USBハードディスク情報をこれ以上登録できません。最大(50000本まで)	50000本を超えるUSBデバイス情報を登録しようとした。	SUHManagerで管理可能なUSBデバイスは、最大50000本です。不要な登録情報を削除してください。
C073	"アップデートーターが動作しています。 アップデートーターを終了してから本ソフトウェアを実行してください。"	アップデートーター動作中にSUHManagerを起動した。	アップデートーターを終了し、SUHManagerを再度起動してください。
C074	マスターコードが未設定です。 [SUHManager情報]にてマスターコードを設定してください。	マスタコードが未設定のまま、「マスターコード機能」をONにしようとした。	「SUHManager情報」画面にて、マスターコードを設定した上で、「マスターコード機能」をご利用ください。
C075	USBハードディスクにログインしています。パスワードを修復するには、一度USBハードディスクを取り外して接続しなおしてください。	USBハードディスクにログインしている状態でパスワードを修復を実行した。 (SHGateは終了済み)	一度USBハードディスクを取り外して接続しなおしてください。
C098	Internal Error:～	内部的な問題が発生した。	本エラーは通常では表示されません。 もし表示された場合は、当社サポートへのお問合せ時に、表示内容をお伝えください。
C098 -xx-xx	Internal Error (xはエラーを示す値)	内部的な問題が発生した。	本エラーは通常では表示されません。 もし表示された場合は、当社サポートへのお問合せ時に、表示内容をお伝えください。

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

CK-SetInfo でのトラブル ([No.Exxx])

エラー 番号	エラーメッセージ	原因	対処
E001	お使いのOSでは本ソフトウェア はご利用できません。	対応外のOSで動作させた。	対応OSでご使用ください。 (【動作環境】(6 ページ)参照)
E002	SUGate4/SHGateが動作してい ます。 USBデバイスを接続している場 合は一度取り外し、再度本ソフト ウェアを起動してください。	SUGate4/SHGate動作中にCK-SetInfo を起動した。	USBデバイスを取り外し、CK-SetInfoを再度実行して ください。
E003	SUHManagerが動作しています。 SUHManagerを終了してから本 ソフトウェアを実行してくださ い。	SUHManager動作中にCK-SetInfoを起動 した。	SUHManagerを終了し、CK-SetInfoを再度実行して ください。
E004	SUReset4/SHResetが動作してい ます。 SUReset4/SHResetを終了してか ら本ソフトウェアを実行してくだ さい。	SUReset4/SHReset動作中にCK-SetInfo を起動した。	SUReset4/SHResetを終了し、CK-SetInfoを再度実 行してください。
E005	CK-SetInfo.dat ファイルの読み込 みに失敗しました。	CK-SetInfo.datがCK-SetInfo.exeと同じ フォルダに存在しない、または、壊れてい る。	CK-SetInfo.datをCK-SetInfo.exeと同じフォルダに 置く、または、SUHManagerでCK-SetInfoを再度出力 してください。
E008	Guestアカウントでは本ソフト ウェアはご利用できません。	Guestアカウントで動作させた。	管理者(Administrator)権限またはユーザアカウン トでご使用ください。

SUHGetInfoAG でのトラブル ([No.Fxxxx])

エラー 番号	エラーメッセージ	原因	対処
F001	PCの情報取得に失敗しました。	ネットワークアダプターが存在しないか、 有効になっていない。 または、何らかの原因で情報取得に失敗し た。	ネットワークアダプターが装備されているパソコン で実行してください。 無効になっている場合には有効にしてください。 ネットワークアダプターが有効の場合には、再度実行 してください。
F002	ファイルの出力に失敗しました。	ファイルの出力に何らかの原因で失敗し た。	出力先に問題が無いか(空き容量が無いなど)を確認 し、再度出力操作をおこなってください。

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

SUReset4 でのトラブル ([No.Bxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
B006	SUReset4.DATファイルの読み込みに失敗しました。	SUReset4を実行するのに必要なファイルが不足している。	SUReset4を実行するには[SUReset4exe、SUReset4.dat、EX4COM.dll、ED63.DLL]の4ファイルを同一フォルダ内に用意する必要があります。
B011	接続されたUSBメモリーは管理者ソフトウェアで初期化されているため、初期化するには専用のSUReset4が必要となります。	SUHManagerで管理されたUSBメモリーを初期化しようとしている。	SUHManagerで管理されているUSBメモリーは、プログラム領域にあるSUReset4では初期化できません。 管理者からSUReset4を入手する必要があります。
B012	このUSBメモリーはマスターパスワード機能が有効なため、SUReset4での初期化はできません。 管理者に連絡してください。	SUHManagerで管理されたUSBメモリーを初期化しようとしている。	マスターパスワード機能が有効になっているため、初期化ができるのは管理者のみとなります。 管理者に連絡して初期化をおこなってもらってください。
ー	SUReset4が起動しない。	SUHManagerやCK-SetInfo等のUSBメモリー用のアプリケーションが動作中にSUReset4を起動した。	関連アプリケーションを終了してから、SUReset4を起動してください。

SUGate4 でのトラブル ([No.Axxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
A002	残り x回のパスワード認証に失敗した場合、データ保存領域へのアクセス及びパスワード変更ができなくなり、初期化が必要になります。	対象USBメモリーがパスワード入力 / パスワード変更を後x回ミスすると、SUReset4による初期化が必要である。 回数はUSBメモリーポリシーで設定した累積パスワードミス回数により変化する。	正しいパスワードを入力してください。
A003	このPCは既に許可候補となっています。USBメモリーを取り外してください。 接続中のPCで本USBメモリーを使用する場合は、管理者に許可依頼を行ってください。	PC識別機能が有効となっているUSBメモリーを、許可候補PCとなっているパソコンに再び接続した。	許可候補PC環境でこのUSBメモリーを利用したい場合は、このUSBメモリーあるいはSUGateInfoAG.exeを利用して、管理者に許可候補PCの許可依頼をおこなってください。
A004 - x	ご使用のPCまたはアカウントは、本製品の使用が許可されていません。 使用許可設定については管理者にお問い合わせください。	簡易PC識別機能が有効となっているUSBメモリーを、使用を許可されていないパソコンに接続した。	CK-SetInfo.exeを利用して、PCの許可設定をおこなってください。 xには1,2,3のいずれかが入ります。 CK-SetInfo.exeは管理者から入手してください。
A011	パスワードは最低x文字必要です。	新しいパスワードに入力した文字数が、USBメモリーポリシーが定める最低文字数よりも少ない。	新しいパスワードの文字数をx文字以上にしてください。 xはUSBメモリーポリシーで定めた最低文字数が表示されます。
A013	パスワード文字列をヒントに設定することはできません。	パスワードがヒントメッセージに含まれている。	パスワードを含まないようにヒントとなる文字列を設定してください。
A014	パスワードは以下の条件に従って設定してください。 英大文字:a文字 英小文字:b文字 数字:c文字 記号:d文字	新しいパスワードに入力した文字が、USBメモリーポリシーが定めるパスワード文字制限を満たしていない。	新しいパスワードの文字を文字制限を満たす文字列にしてください。 a,b,c,dにはUSBメモリーポリシーで定めた半角英数字、半角記号の最低文字数が表示されます。 仮にa = 2 の場合、A～Zの半角大文字アルファベットが最低でも2文字以上パスワードに含まれている必要があります。
A016	パスワードのミス回数の累積が制限値を越えたため、ログイン/パスワード変更ができません。 初期化を行ってください。	パスワード入力を連続100回ミスした。	SUReset4またはSUHManagerで初期化をおこなってください。 (SUReset4およびSUHManagerについては管理者へお問い合わせください。)
A020	現在と同じパスワードを設定することはできません。	パスワード変更画面で新しいパスワードに入力した文字列が、現在のパスワードと同じ文字列である。	新しいパスワードに入力した文字列を、現在のパスワードと異なる文字列にしてください。
A022	ネットワークアダプタが見つかりませんでした。 USBメモリーを取り外してください。 接続中のPCではPC識別機能をお使いいただくことはできません。	PC識別機能が有効となっているUSBメモリーを、ネットワークアダプタの無いパソコンに接続した。	ネットワークアダプタが接続されていない環境では、PC識別機能は利用できません。
A023	内部エラーが発生しました。PC情報が取得できません。 USBメモリーを取り外してください。	PC識別機能が有効となっているUSBメモリーが、識別処理中に何らかの問題が発生した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
A024	ご使用のOSで本USBメモリーを利用することは、USBメモリーポリシーにより制限されています。使用許可設定については管理者にお問い合わせください。	使用OS制限機能が有効になっているUSBメモリーが、許可されていないOSまたはService Packのパソコンに接続された。	管理者に許可されているOS、ServicePackのパソコンを利用してください。 あるいは、管理者に相談して制限されるOSの設定を変えてもらってください。
A025	許可候補リスト追加処理に失敗しました。	PC識別機能が有効となっているUSBメモリーが、許可候補PCに登録する処理に失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。
A040	パスワードの有効期間が過ぎています。 パスワード変更を行って下さい。	パスワードの有効期限が過ぎている。	パスワードの変更をおこなってください。
A041	パスワードの有効期間が過ぎています。 管理者に問い合わせて、パスワード変更を依頼して下さい。	パスワードの有効期限が過ぎている。	SUHManagerによるパスワードの変更をおこなってください。
A042	許可候補PCリストに登録できる最大数を越えた為、新規で追加できません。 USBメモリーを取り外してください。 管理者に、許可候補リストの編集を依頼してください。	許可候補PCリストに登録できるPCの最大数を越えている。	SUHManagerを使って、許可候補となっているPCリストを編集して、不要なPC情報を削除してください。
A058	承認コードの試行回数が制限値を超えたため、パスワードロックの解除は行えません。 管理者にお問い合わせください。	承認コードの入力ミス回数が制限値(100回)を超えた。	管理者にお問い合わせいただき、承認コードに問題がないか確認してください。
A059	承認コードは40桁の文字(上20桁, 下20桁)を入力する必要があります。	承認コードの入力欄に半角英数字で40文字入力されていない。	承認コードの入力欄に半角英数字で40文字入力してください。
A060	承認コードに不明な文字コードが入力されています。	承認コードの入力欄に半角英数字以外の文字が入力されている。	承認コードの入力欄に半角英数字で40文字入力してください。
A061	承認コードが正しくありません。 入力したコードの値を確認してください。 ※ 承認コードは発行日のみ有効です。 ※ 入手した承認コードでパスワードが再設定できない場合、管理者にお問い合わせください。	入力された承認コードが間違っている。 あるいは、管理者が承認コードを発行した日から、1日以上経過してからコードを入力した。	正しい承認コードを管理者が発行した日に入力してください。
A062	パスワードのミス回数の累積が制限値を超えているため、パスワードの再設定ができません。初期化を行ってください。	パスワード連続ミス回数と承認コードの入力ミスを連続100回した。	SUHManagerで初期化をおこなってください。 SUHManagerについては管理者へお問い合わせください。
A066	USBメモリーの使用期間が過ぎました。 USBメモリー使用期間の再設定をおこなってください。	「USBメモリー使用期間設定ツール」で指定した、使用終了日を過ぎた状態で、USBメモリーを使用した。	USBメモリー使用期間の再設定が必要です。 管理者に相談してください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
A079	下記ポリシーが有効であるため、本USBメモリーを使用できません。 管理者にお問い合わせください。 - PC識別機能 - 簡易PC識別機能 - 使用OS制限	[-PC識別機能]が表記されている場合、 [PC識別機能]ポリシーが有効になっている。 [-簡易PC識別機能]が表記されている場合、 [簡易PC識別機能]ポリシーが有効になっている。 [-使用OS制限]が表記されている場合、 [使用OS制限]ポリシーが有効になっており、許可されていないMacに接続された。	[-PC識別機能]、[-簡易PC識別機能]が表記されている場合 、MacOSでSUGate4/SHGateを利用するには[PC識別機能]、[簡易PC識別機能]ポリシーが無効である必要があります。 ポリシーの変更については管理者に相談してください。 [-使用OS制限]が表記されている場合、 管理者に許可されているMacを利用してください。 あるいは、管理者に相談して制限されるOSの設定を変えてもらってください。
A081	USBメモリーにログインしている状態で、OSのログアウト処理が行われています。 [OK]ボタンを押すと、USBメモリーが取り外されます。	USBメモリーがログインしている状態で、ユーザーアカウントのログアウト、システム終了、または、再起動を行った。	USBメモリーを取り外した状態でユーザーアカウントのログアウト、システム終了、再起動を行ってください。

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

使用期間設定ツールでのトラブル ([No.Mxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
M001	お使いのOSでは本ソフトウェアはご利用できません。	対応外のOSで動作させた。	対応OSで動作させてください。(■ 動作環境 (6ページ) 参照)
M002	Guestアカウントでは本ソフトウェアはご使用できません。	Guestアカウントで動作させた。	Windows 8/7の管理者(Administrator)権限かユーザーアカウントでご使用ください。
M003	SUHTermSet.dat ファイルの読み込みに失敗しました。	使用期間設定ツール を実行するのに必要なファイルが存在しない。または、壊れている。	使用期間設定ツール を実行するには、以下のファイルを同一フォルダ内に用意する必要があります。 ・SUHTermSet.exe ・SUHTermSet.dat ・EX4COM.DLL ・ED63.DLL ・WNASPI32.DLL
M004	SUGate4/SHGateが動作しています。 USBデバイスを接続している場合は一度取り外し、本ソフトウェアが起動してから接続しなおしてください。	SUGate4/SHGate動作中に使用期間設定ツールを起動した。	USBデバイスを取り外し、使用期間設定ツール 起動後に再度接続してください。
M005	SUReset4/SHResetが動作しています。 SUReset4/SHResetを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUReset4/SHReset動作中に使用期間設定ツールを起動した。	SUReset4/SHResetを終了し、使用期間設定ツールを再度起動してください。
M006	SUHManagerが動作しています。 SUHManagerを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUHManager動作中に 使用期間設定ツールを起動した。	SUHManagerを終了し、使用期間設定ツールを再度起動してください。
M007	CK-SetInfoが動作しています。 CK-SetInfoを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	CK-SetInfo動作中に 使用期間設定ツールを起動した。	CK-SetInfoを終了し、使用期間設定ツールを再度起動してください。
M008	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールが動作しています。 廃棄ツールを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツール動作中に 使用期間設定ツールを起動した。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールを終了し、使用期間設定ツールを再度起動してください。
M009	アップデーターが動作しています。 起動しているアップデーターを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	ED-x4シリーズアップデータ等動作中に使用期間設定ツールを起動した。	アップデーターを終了し、使用期間設定ツールを再度起動してください。
M010 -xx	DLLの初期化に失敗しました。	使用期間設定ツール を実行するのに必要なDLLファイルが存在しない。または破損している。	使用期間設定ツール を実行するには、以下のファイルを同一フォルダ内に用意する必要があります。 ・SUHTermSet.exe ・SUHTermSet.dat ・EX4COM.DLL ・ED63.DLL ・WNASPI32.DLL
M011	パスワード認証処理にエラーが発生しました。	使用期間設定ツールの起動パスワード入力時になんらかの問題が発生した。	使用期間設定ツールを再起動してください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
M012	パスワードが正しくありません。	使用期間設定ツールの起動パスワードが間違っている。	正しい起動パスワードを入力してください。
M013	USBデバイスは1つのみ接続してください。	対象USBデバイスが2本以上接続されている。	設定をおこなう場合は必ず1本のみ接続してください。
M014	このUSBデバイスには設定できません。	対象外のUSBデバイス、または、SUHManagerで未初期化のUSBデバイスが接続されている。	対象外のUSBデバイスを全て取り外し、設定するUSBデバイスのみをパソコンに接続してください。 SUHManagerで未初期化のUSBデバイスの場合は、SUHManagerで初期化を行う必要があります。管理者へご相談ください。
M015 -1	このUSBデバイスは本ツールでは設定できません。 設定するには専用のツールが必要になるため、管理者に問い合わせてください。	KEY-IDの異なるSUHManagerで管理されたUSBデバイスが接続されている。	使用期間設定ツールを出力したSUHManagerとは別のSUHManagerで管理されたUSBデバイスは、設定することはできません。 管理者から適切な使用期間設定ツールを入手する必要があります。
M015 -2	このUSBデバイスは本ツールでは設定できません。 設定するには専用のツールが必要になるため、管理者に問い合わせてください。	異なるSUHManagerで管理されたUSBデバイスが接続されている。	使用期間設定ツールを出力したSUHManagerとは別のSUHManagerで管理されたUSBデバイスは、設定することはできません。 管理者から適切な使用期間設定ツールを入手する必要があります。
M016	「使用終了日」は、「使用開始日」以降の日付に設定してください。	「使用終了日」の日付が、「使用開始日」より前の日付となっている。	「使用終了日」を、「使用開始日」以降の日付に設定してください。
M017	設定可能な日付は、yyyy/mm/dd までです。 (yyyy/mm/ddは日付を表す数字)	「使用終了日」の日付が、「使用開始日」から設定可能な最大期間を超えている。	「使用終了日」は、「使用開始日」から設定可能な最大期間以内の日付に設定してください。
M018	設定に失敗しました。	(原因なし)	設定処理中に、USBデバイスにアクセスや取り外しといった操作はおこなわないでください。 また、USBデバイスを監視する常駐ソフトウェア等が導入されている場合には、それらを一時的に無効にした状態で、再度、本ソフトウェアを起動してください。
M019	「使用開始日」は2001年以降の日付に設定してください。	「使用開始日」が2001年より前の日付となっている。	「使用開始日」は2001年以降の日付に設定してください。
M020	「使用終了日」は2100年を超えて設定できません。	「使用終了日」が2100年より先の日付となっている。	「使用終了日」は2100年以前の日付に設定してください。
M099 -xx-xx	内部エラーが発生しました。 (xはエラーを示す値)	内部的な問題が発生した。	本エラーは通常では表示されません。 もし表示された場合は、当社サポートへのお問合せ時に、表示内容をお伝えください。

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

廃棄ツールでのトラブル ([No.Jxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
J001	お使いのOSでは本ソフトウェアはご利用できません。	対応外のOSで動作させた。	対応OSでご使用ください。(【■ 動作環境】(6ページ) 参照)
J002	Guestアカウントでは本ソフトウェアはご利用できません。	Guestアカウントで動作させた。	本ソフトウェアはGuestアカウントでの動作を許可していません。 管理者(Administrator)アカウントまたはユーザーアカウント(一部OS除く)で動作させてください。 詳細は 【■ 動作環境】(6ページ) 参照。
J004	SUGate4/SHGateが動作しています。 USBメモリーを接続している場合は一度取り外し、本ソフトウェアが起動してから接続しなおしてください。	SUGate4/SHGate動作中にセキュリティUSBメモリー廃棄ツールを起動した。	USBメモリーを取り外し、廃棄ツール起動後に再度接続してください。
J005	SUHManagerが動作しています。 SUHManagerを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUHManager動作中にセキュリティUSBメモリー廃棄ツールを起動した。	SUHManagerを終了し、廃棄ツールを再度起動してください。
J006	SUReset4が動作しています。 SUReset4を終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUReset4動作中にセキュリティUSBメモリー廃棄ツールを起動した。	SUReset4を終了し、廃棄ツールを再度起動してください。
J007	起動に必要なファイルが不足しています。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールを実行するのに必要なファイルが不足している。	管理者ソフトからの出力時に「EDHaiki.exe」または「EDHaikiED4.exe」と同一フォルダー内にあったファイルは、廃棄ツール実行時にも同一フォルダー内に必要です。ファイルがない場合は、管理者から廃棄ツールを再度入手してください。
J011	5本以上のセキュリティUSBメモリーが接続されています。 同時に廃棄処理をおこなえるUSBメモリーは最大4本です。 接続本数を確認して[再認識]をクリックしてください。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールの対象USBメモリーが5本以上接続されている。	廃棄ツールを使用する場合、接続するUSBメモリーは4本以下にしてください。
J012	このUSBメモリーはSUHManagerで管理されています。 本ソフトウェアは使用できません。	SUHManagerで管理されたUSBメモリーでは利用できない。	SUHManagerで管理されたUSBメモリーは、管理者にご相談ください。
J013	このUSBメモリーはSUHManagerで管理されていません。 SUHManagerから出力したセキュリティUSBメモリー廃棄ツールは使用できません。	SUHManagerから出力したセキュリティUSBメモリー廃棄ツールに、管理されていないUSBメモリーを接続した。	SUHManagerで管理外のUSBメモリーを廃棄する場合は、専用の廃棄ツールを使用する必要があります。
J014	このUSBメモリーは対象製品ではありません。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールに対応していないUSBメモリーを接続した。	対応のUSBメモリーでご使用ください。(【■ 動作環境】(6ページ) 参照)
J015	このUSBメモリーは廃棄対象に選択したUSBメモリーではありません。	廃棄対象のドライブレターに、廃棄対象を選択した時とは異なるUSBメモリーが割り当てられている。	廃棄するUSBメモリーを接続し、廃棄処理を実行しなおしてください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
J016 -xxxx	データ保存領域の初期化に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	廃棄処理中に、データ保存領域の初期化処理が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J017 -xxxx	プログラム領域への書き込みに失敗しました。 (xはエラーを示す値)	廃棄処理中に、プログラム領域へのログの書き込みが何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J018 -xxxx	プログラム領域のフォーマットに失敗しました。 (xはエラーを示す値)	廃棄処理中に、プログラム領域のデータ消去が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J019	データ保存領域の消去に失敗しました。	廃棄処理中に、データ保存領域のファイル消去が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J020 -xxxx	秘匿領域のデータ消去に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	廃棄処理中に、秘匿領域の消去が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J021	プログラム領域への廃棄確認用ファイルの保存に失敗しました。	廃棄処理中に、プログラム領域への廃棄確認用のファイル(EDHaikiED4.txt)の保存が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J022	プログラムファイルの読み込みに失敗しました。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールを実行するのに必要なファイルが破損している。	管理者から廃棄ツールを再度入手してください。
J023 -xxxx	廃棄ツールの実行情報の保存に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	廃棄処理中に、廃棄ツールの実行情報の保存が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J024 -xxxx	廃棄処理が正常におこなわれませんでした。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因で、廃棄処理に失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J025	以下のUSBメモリーの廃棄処理のログを出力できませんでした。 ドライブレター： x	廃棄処理後に、EDHaikiED4.exeと同じフォルダーに出力される廃棄ログ(EDHaikiED4_log[xxxx].csv)の記録に失敗した。 (xは廃棄ツールを起動した日時)	廃棄処理が正常終了したかどうかは、廃棄したUSBメモリーを、再度廃棄ツールにて認識させて確認してください。 「このセキュリティUSBメモリーは廃棄処理済みです」と表示されれば正常に終了しています。
J026	USBメモリーの取り外しに失敗しました。	何らかの原因で、USBメモリーの取り外しに失敗した。	USBメモリーのアクセスランプが消灯していることを確認し、OSの「デバイスの安全な取り外し」アイコンから取り外しをおこなってください。
J028	以下のUSBメモリーのアクセスランプを点滅できませんでした。 ドライブレター： x	何らかの原因で、USBメモリーのアクセスランプの点滅に失敗した。	「廃棄対象確認」画面でこのエラーが発生した場合：USBメモリーを取り外し、再度接続してから、廃棄対象を選択しなおしてください。 「取り外し」画面でこのエラーが発生した場合：表示されているドライブレターに割り当てられているUSBメモリーをPC上で確認し、Windowsのタスクトレイの「ハードウェアの安全な取り外し」から取り外してください。
J029	廃棄対象に選択したUSBメモリーが接続されていません。	廃棄対象に選択したUSBメモリーが接続されていない。	廃棄するUSBメモリーを接続し、廃棄処理を実行しなおしてください。
J031 -xxxx	内部エラーが発生しました。 (xはエラーを示す値)	内部的な問題が発生した。	当社サポートへお問合せください。 その際には、xxxxの表示内容をお伝えください。

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
J032	廃棄処理中です。 廃棄処理は、スタンバイ・休止状態にはできません。	廃棄処理中に、スタンバイ・休止状態に入ろうとした。	廃棄処理が終了してから、スタンバイ・休止をおこなってください。 一定時間経過すると自動でスタンバイ・休止状態になるように設定してある場合は、廃棄処理中にスタンバイ・休止状態にならないように設定を変更してください。
J033	廃棄処理中にスリープ・休止状態に入ったため、廃棄処理に影響する場合があります。 正しく廃棄処理が完了したか画面の表示内容を確認してください。	廃棄処理中に、スリープ・休止状態に入った。	廃棄処理がエラー終了した場合は、再度廃棄処理をおこなってください。 一定時間経過すると自動でスリープ・休止状態になるように設定してある場合は、廃棄処理中にスリープ・休止状態にならないように設定を変更してください。
J034	SecureDevice for EasyDiskが動作しています。SecureDevice for EasyDiskを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SecureDevice for EasyDisk動作中にセキュリティUSBメモリー廃棄ツールを起動した。	SecureDevice for EasyDiskを終了し、廃棄ツールを再度起動してください。

付録

パソコンを入れ替える場合（環境移行する）

パソコンを入れ替えるときなどは、以下手順で SUHManager の環境を移行します。

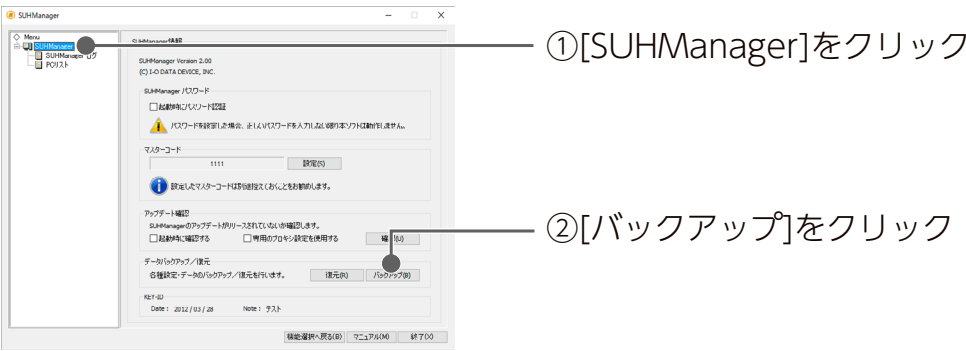
注意 旧パソコンでインストール時に作成した KEY-ID ファイルが必要です

Step1. 旧パソコンで SUHManager 情報をバックアップする

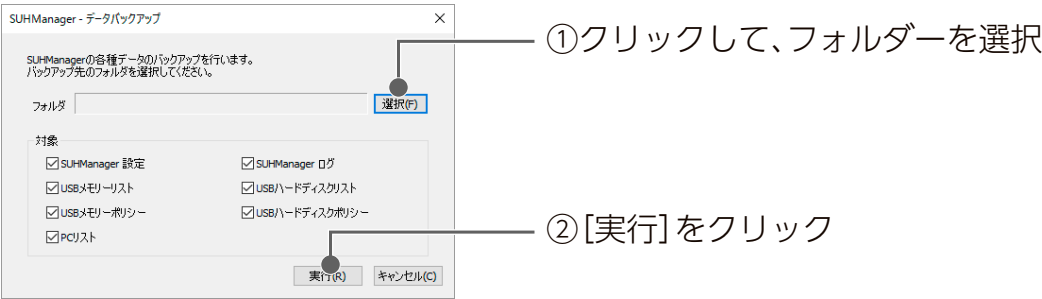
- 1 旧パソコンでSUHManagerを起動します。
- 2 共通設定をクリックします。



- 3 SUHManager情報をバックアップします。



- 4 フォルダーを選択し、すべての□にチェックした状態で、[実行]をクリックします。



- 5 保存した「設定情報ファイル」と利用していた「KEY-IDファイル」を、新しいパソコンにコピーします。

目次

はじめに

導入する

機能を使う

困ったときには

付録

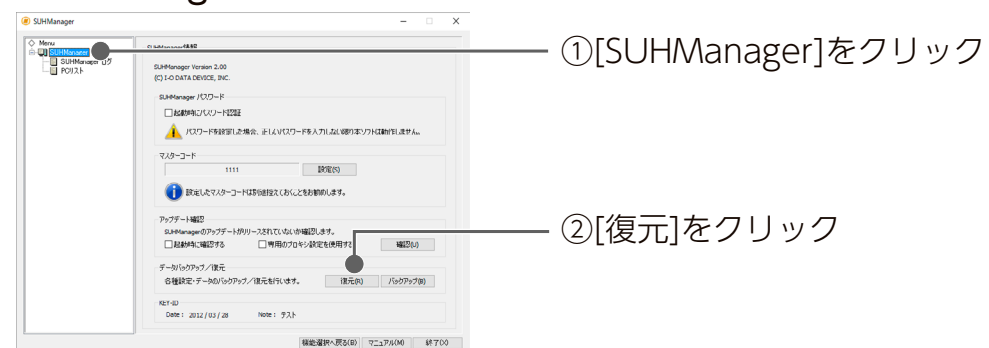
Step2. 新しいパソコンに SUHManager をインストールする

- 1 新しいパソコンにSUHManagerインストールします。
※手順は【インストールする】(10ページ)をご覧ください。
- 2 SUHManagerを起動し、古いパソコンで利用していたKEY-IDファイルを読み込みます。
※手順は【SUHManagerを起動する】(12ページ)をご覧ください。

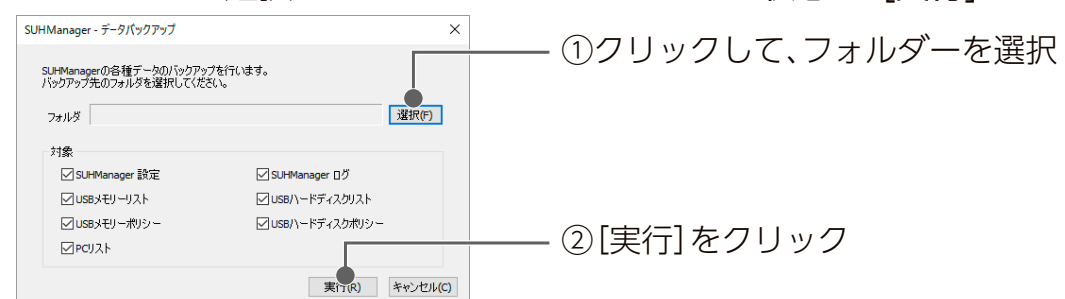
- 3 共通設定をクリックします。



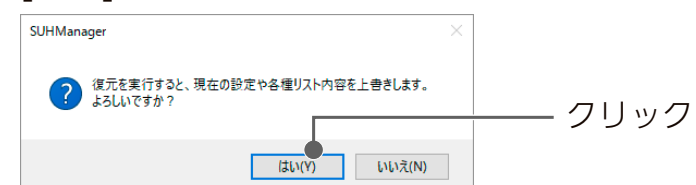
- 4 SUHManager情報を復元します。



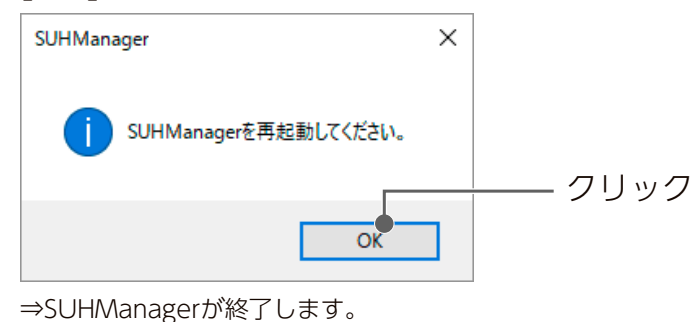
- 5 フォルダーを選択し、すべての□にチェックした状態で、[実行]をクリックします。



- 6 [はい]をクリックします。



- 7 [OK]をクリックします。



- 8 SUHManagerを起動します。

以上で、完了です。

アンインストールする場合

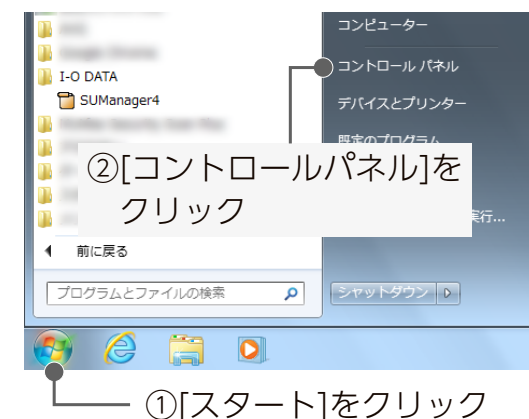
注意 インストール時に作成した KEY-ID ファイルは SUHManager を再インストールする際に備えて、大切に保管しておいてください

1 コントロールパネルを表示します。

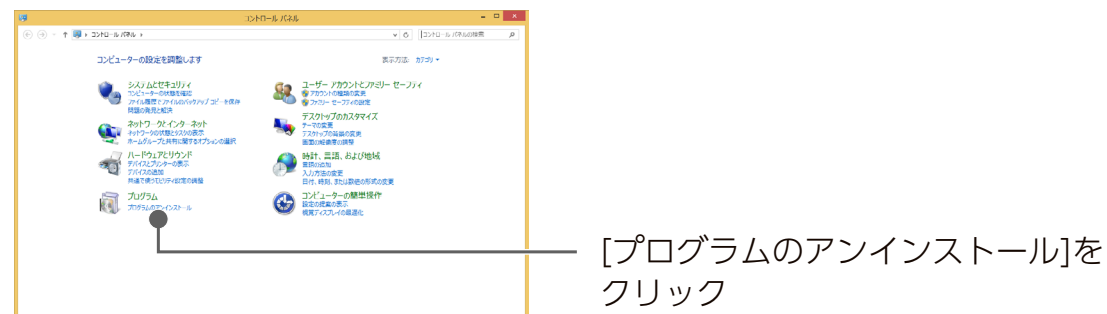
▼Windows 10/8の場合



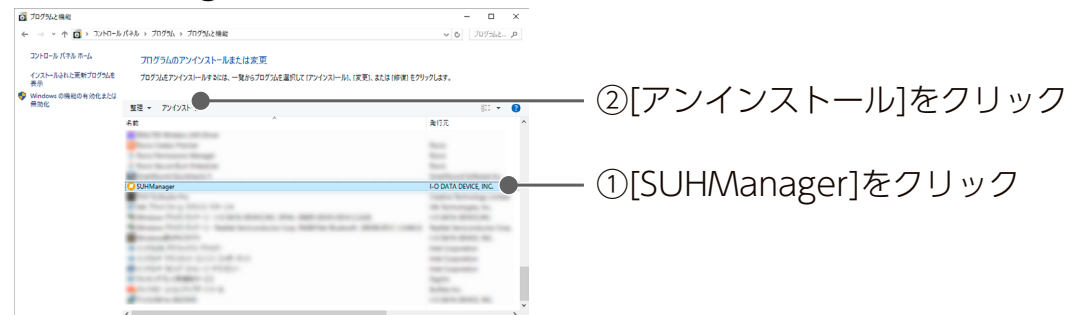
▼Windows 7の場合



2 [プログラムのアンインストール]をクリックします。



3 [SUHManager]を選択し、アンインストールします。



⇒画面の指示に従って、アンインストールします。

以上で、SUHManager のアンインストールは完了です。

バージョン情報の確認

■ SUHManager のバージョンの確認方法

SUHManager を起動した直後の画面に、バージョン情報が表示されています。



■ バージョンアップ等に関する情報について

バージョンアップなど「SUHManager」に関する最新の情報は、下記 Web ページをご覧ください。

●サポート Web ページ ⇒ <https://www.iodata.jp/support/>

●サポートライブラリ ⇒ <https://www.iodata.jp/lib/>

アフターサービス

重要

- 本製品の修理対応、電話やメール等によるサポート対応、ソフトウェアのアップデート対応、本製品がサーバー等のサービスを利用する場合、そのサービスについては、弊社が本製品の生産を完了してから5年間を目途に終了とさせていただきます。ただし状況により、5年以前に各対応を終了する場合があります。
- 個人情報は、株式会社アイ・オー・データ機器のプライバシーポリシー (<https://www.iodata.jp/privacy.htm>) に基づき、適切な管理と運用をおこないます。

■ お問い合わせについて

お問い合わせいただく前に以下をご確認ください



- ①「詳細ガイド」を参照
- ②「商品Q&A」を参照
- ③最新のソフトウェアをダウンロード



<https://www.iodata.jp/lib/>

それでも解決できない場合は、サポートセンターへ



050-3116-3021

受付 9:00～17:00 月～金曜日

(祝祭日・年末年始・夏期休業期間をのぞく)

※お問い合わせいただく際は、商品の型番をご用意ください。



<https://contact.iodata.jp/sp/inquiry/other?>

[商標について]

- TREND MICRO、および Trend Micro USB Security は、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 記載されている会社名、製品名等は一般に各社の商標または登録商標です。

【商品アンケートはこちら】

よりよい商品作りのためアンケートにご協力願います。